



第3回 学生の学習に関する実態調査報告書

Learninglife



第3回 学生の学習に関する実態調査報告書

Learninglife



徳島大学



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(平成19年3月28日)
・認証評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
・認証期間：7年間(平成19年4月1日～平成26年3月31日)
なお、平成26年4月以降については、大学評価・学位授与機構において審査中です。

平成26年3月

徳島大学

The University of Tokushima

まえがき

ラーニングライフ―第3回学生の学習に関する実態調査報告書―をお届けします。本学では長い間、「学生生活に関する実態調査」をほぼ2年毎に行い、キャンパスライフとして学生の生活全般にわたる状況を報告してきました。これに加えて、「学生の学習に関する実態調査」が6年前から開始され、今年度3回目を実施し、その結果が纏まりましたので報告します。

本報告書には、①将来の希望 ②大学教育 ③学習状況 ④全学共通教育 ⑤専門教育 ⑥免許・資格 ⑦卒業研究・ゼミ ⑧英語学習・教育 ⑨海外留学 ⑩大学に関する評価について、全部で48問の質問により調査されたアンケート結果をまとめています。次にその結果の分析から得られた各学部の現状と課題並びに提言を報告しています。学部のみならず、学科やコース等のオリエンテーション時にこのデータをご活用いただけると幸いです。

平成25年7月にまとめました「徳島大学機能強化プラン」教育機能改革（頁7）に書きましたように、大学教育は社会から大きな改革（平成24年6月文部科学省「大学改革実行プラン」、平成24年8月「中教審答申 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」、平成25年5月「教育再生実行会議 これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」ほか）が迫られています。これに応えるためには大学教育のパラダイムシフト（①「教育者中心」から「学習者中心」の教育へ、②「何を学んだか」より「何ができるようになったのか（学修成果の質保証）」、③「グローバルに活躍する人材」の養成）が必要であると考えています。今回のアンケート結果からは、授業時間外学習の短さ等、自学自習が十分でないこと及び学生もそれを自覚していること等が見て取れます。今後、大学教育のパラダイムシフトを進める上で、今回の実態調査に示されている学生の声を十分に点検・評価し、教育改革につなげ、学生の学修成果が少しでも上がる成果につなげたいと考えています。今後とも、教職員の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、大学教育委員会「教育の質に関する専門委員会」委員の先生方および学務系職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきました。村上公一委員長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝いたします。また、調査にご協力いただいた学生の皆さんにもこの場を借りて感謝いたします。

平成26年3月

徳島大学理事（教育担当）
大学教育委員会委員長

高石喜久

目 次

まえがき	1
序 章 学生の学習に関する実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 調査票の回収状況	4
7 図中の％表示	5
附表「平成25年度学生の学習に関する実態調査票」	6
第1章 将来の希望について	15
1-1 将来の希望	15
1-2 将来の希望が明確になった時期	16
第2章 大学教育について	17
2-1 大学教育への期待	17
2-2 大学で獲得したい知識, 能力	18
2-3 大学教育で獲得が期待できる知識, 能力	19
第3章 あなた自身について	20
3-1 予習・復習の実施状況	20
3-2 予習・復習の時間	21
3-3 授業の出席率	22
3-4 授業を休む場合の理由	23
3-5 授業内容を理解できる授業科目の割合	24
3-6 レポートや宿題をする際の情報源	25
3-7 授業でわからないところの対処方法	26
3-8 教科書の購入状況	27
3-9 教科書を購入しない理由	28
3-10 大学の授業以外の自分自身のための学習	29
3-11 大学の授業以外の自分自身のための学習時間	30
3-12 学習時間・態度への満足度	31
3-13 読書の習慣	32
3-14 1日のインターネット利用時間	33
3-15 シラバスの利用状況	34
3-16 高校で未履修科目があるため, 大学で理解困難な科目の有無	35
3-17 高校での未履修科目について, 大学入学後の学習方法	36
3-18 高校での未履修科目を大学で履修しない理由	37
第4章 全学共通教育の授業について	38
4-1 科目の選択基準	38
4-2 科目選択の情報源	39
4-3 授業を受けて学び得たこと	40
4-4 教養科目群(教養科目)について	41
4-5 基盤形成科目群(外国語科目・健康スポーツ科目)について	42
4-6 基礎科目群(基礎教育科目)について	43

第5章 専門教育の授業について	44
5-1 授業を受けて学び得たこと	44
5-2 授業内容の難易度	45
5-3 実習形式の授業時間数に対する希望	46
第6章 免許・資格について	47
6-1 教員免許取得に興味のあるもの	47
第7章 卒業研究, 医学研究実習, 研究基礎ゼミについて	48
7-1 研究室選考の基準	48
7-2 卒業研究, 医学研究実習, 研究基礎ゼミで学び得たこと	49
7-3 教員, TAによる研究指導時間の満足度	50
7-4 学習(自習)設備, スペースの満足度	51
7-5 研究設備, スペースの満足度	52
第8章 英語学習・教育について	53
8-1 英語学習の時間	53
8-2 英語の学習方法	54
8-3 本学の英語教育への要望	55
第9章 海外留学について	56
9-1 海外留学体験	56
9-2 海外留学で学び得ること	57
9-3 海外留学を行わない理由	58
第10章 大学に関する評価	59
10-1 大学教育全体の満足度	59
第11章 学部等の現状と課題	60
11-1 総合科学部	60
11-2 医学部医学科	61
11-3 医学部栄養学科	63
11-4 医学部保健学科	63
11-5 歯学部	65
11-6 薬学部	66
11-7 工学部	67
11-8 全学共通教育	69
11-9 FD (Faculty Development) の観点から	69
第12章 まとめと提言	72
附録 1 eラーニングに関するアンケート	74
2 附属図書館利用者アンケート	79

序章 学生の学習に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学学生の学習意識や学習に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学教育の質に関する専門委員会の次の委員が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
委員長	村上 公一	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教授
委員	西村 明儒	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	二川 健	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	日野出 大輔	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	田中 秀治	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	武藤 裕則	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	玉 真之介	全学共通教育センター	教授
委員	鈴木 尚子	大学開放実践センター	准教授
委員	佐野 雅彦	情報化推進センター	准教授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,848 人（平成 25 年 11 月 1 日に在籍するもののうち休学者数を除いたもの）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び教育の質に関する専門委員会の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークシート）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成 25 年 11 月 11 日から 11 月 15 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を 11 月 18 日までとした。

5. 調査の内容

今回で 3 回目となるこの調査の項目は、学生の学習意識や学習に関する実態を把握する目的に基づき、上記委員が作成し、教育の質に関する専門委員会において精選した。項目は、全 48 項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 5,848 人のうち回答数は 3,867 人で、回収率は 66.1%であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

平成 25 年度 学生の学習に関する実態調査集計表

[学部学科別]

学 部	学 科	対象者数	回収数	回収率 (%)	
総合科学部	人間文化学科	407	207	50.9	
	社会創生学科	404	217	53.7	
	総合理数学科	258	143	55.4	
	人間社会学科	5	0	0.0	
	自然システム学科	4	0	0.0	
	計	1,078	567	52.6	
医学部	医 学 科	665	258	38.8	
	栄 養 学 科	206	168	81.6	
	保健学科	看護学専攻	299	272	91.0
		放射線技術科学専攻	150	144	96.0
		検査技術科学専攻	71	65	91.5
	保 健 学 科 計	520	481	92.5	
	計	1,391	907	65.2	
歯学部	歯 学 科	245	160	65.3	
	口 腔 保 健 学 科	57	56	98.2	
	計	302	216	71.5	
薬学部	薬学科・創製薬科学科(1・2年)	164	137	83.5	
	薬 学 科	163	152	93.3	
	創 製 薬 科 学 科	79	70	88.6	
	計	406	359	88.4	
工学部	昼間コース	建 設 工 学 科	346	226	65.3
		機 械 工 学 科	485	243	50.1
		化 学 応 用 工 学 科	333	293	88.0
		生 物 工 学 科	252	222	88.1
		電 気 電 子 工 学 科	451	219	48.6
		知 能 情 報 工 学 科	352	269	76.4
		光 応 用 工 学 科	212	160	75.5
		計	2,431	1,632	67.1
	夜間主コース	建 設 工 学 科	49	29	59.2
		機 械 工 学 科	50	44	88.0
		化 学 応 用 工 学 科	21	20	95.2
		生 物 工 学 科	20	20	100.0
		電 気 電 子 工 学 科	48	31	64.6
		知 能 情 報 工 学 科	52	42	80.8
		計	240	186	77.5
計	2,671	1,818	68.1		
合 計		5,848	3,867	66.1	

注) 在学者数欄は、11月1日現在で、休学者数を除いた数である。

「薬学科・創製薬科学科(1・2年)」は本報告書では「共通学科」と表記する。

7. 図中の%表示

複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

附 表

平成 25 年度 学生の学習に関する実態調査

平成 25 年 11 月

徳 島 大 学

お 願 い

この調査は、みなさんの学習意識や学習に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成 25 年 11 月 1 日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変だとは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11 月 11 日～ 11 月 15 日]

回答用紙（マークカード）の提出期限は、11 月 18 日(月)です。
所属学部の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成 25 年 11 月 1 日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、教育（カリキュラム、授業内容等）や研究について、気づいたこと、大学に対して要望したいこと、期待することがあれば、自由に記入してください。

2. 豊かな生活を支える幅広い知識
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない
5. その他 ()

7) 大学在学中にあなたが特に獲得したい知識・能力を5つ選んでください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 一般知識・教養 | 2. 専門的知識 |
| 3. 課題発見・解決力 | 4. チームで目標を達成する術 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |
| 7. 語学力 | 8. 情報機器を活用する力 |
| 9. 論理的な文章を書く能力 | 0. その他 () |

8) 問7で、特に大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を5つ選んでください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 一般知識・教養 | 2. 専門的知識 |
| 3. 課題発見・解決力 | 4. チームで目標を達成する術 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |
| 7. 語学力 | 8. 情報機器を活用する力 |
| 9. 論理的な文章を書く能力 | 0. その他 () |

9) 定期試験前以外に、大学の授業に関して、授業時間外に学習を行っていますか。

1. 必ず全科目予習あるいは復習を行っている
2. 興味のある科目や分からない科目は自主的に予習あるいは復習を行っている
3. 教員に促される科目のみ予習あるいは復習を行っている
4. 宿題が出た時のみ予習あるいは復習を行っている
5. 何もしていない

10) 1日平均すると、大学の授業に関して、どれくらい授業時間外に学習を行っていますか。

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 3時間以上 | 2. 2時間～3時間 | 3. 1時間～2時間 |
| 4. 1時間以内 | 5. 全くしていない | |

11) 授業の出席率は平均でどのくらいですか。

- | | | |
|----------|----------------|----------|
| 1. 90%以上 | 2. 70%以上～90%未満 | 3. 70%未満 |
|----------|----------------|----------|

12) 病気などのやむを得ない理由なく授業を休む場合の理由は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 朝寝坊 | 2. サークル・クラブ活動 |
| 3. アルバイト | 4. 遊び |
| 5. 他科目のレポート作成・試験勉強 | 6. 教員が出席をとらないから |
| 7. 出席しても遅刻すると欠席になるから | 8. 授業が理解できないから |
| 9. 授業がおもしろくないから | 0. その他 () |

13) 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 80%以上 | 2. 70%以上 |
|----------|----------|

3. 少し不十分さを感じている
4. 満足していない（理由があれば記入）
5. その他（ ）

21) あなたは、読書の習慣についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 特に読書に興味がない
5. その他（ ）

22) 学習のためにインターネットを1日何時間くらい使用していますか。

1. 2時間以上
2. 1時間～2時間
3. 1時間以内
4. 全く使用していない

23) シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

24) 高校で履修しなかったために大学での学習に支障を感じた理系科目（数学、物理、化学、生物、地学）はありますか。（複数回答可）

1. ある（数学）
2. ある（物理）
3. ある（化学）
4. ある（生物）
5. ある（地学）
6. ない

25) 高校で履修していない物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。（複数回答可）

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 全学共通教育で開講されている自然科学入門やその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS（リメディアル教材）を利用して勉強した
4. 何もしていない
5. その他（ ）

26) 高校で履修していない物理、化学、生物について、全学共通教育の自然科学入門を受講しなかった方は、その理由は何ですか。（複数回答可）

1. 他に受けたい授業があった

2. 不都合を感じない
3. 希望したが抽選に漏れた
4. 自分で学習可能
5. 受講したかったが、時間割に余裕がなかった
6. その他 ()

全学共通教育の授業について

27) 全学共通教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

28) 全学共通教育の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報
6. その他 ()

29) 全学共通教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるのに役立った
2. 専門の基礎を築くのに役立った
3. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになった
4. 学問・研究に興味を湧いた
5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
6. 特に得るものはなかった

・全学共通教育について該当するものをあげてください。

30) 教養科目群(教養科目)について

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

31) 基盤形成科目群(外国語科目・健康スポーツ科目)について

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

32) 基礎科目群（基礎教育科目）について（履修している方のみお答えください。）

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

専門教育の授業について

33) 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。（複数回答可）

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができたようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはなかった

34) 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

35) 実習形式の授業時間数についてどう思いますか。（2年生以上）

1. もっと増やしてほしい
2. これくらいでよい
3. 減らすべきである

36) 教員免許の取得に興味がありますか。

1. 教員を目指している
2. とりあえず免許はとっておきたい
3. 取得すべきか否か迷っている
4. 関心がない

卒業研究，医学研究実習，研究基礎ゼミについて（3，4年生または該当する学生のみ）

37) 卒業研究または医学科では医学研究実習，歯学科では研究基礎ゼミの研究室をどういう基準で決めましたか。（複数回答可）

1. 関心の深い研究内容であったから
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要なと思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 教員の人柄に魅力を感じたから
5. 研究室の雰囲気
6. やむを得ず入った
7. どこでもよかった

38) 卒業研究，医学研究実習（医学科），研究基礎ゼミ（歯学科）によって何が得られると思いますか。（複数回答可）

1. 専門的知識や技術

2. 進路を考えるための広い視野
3. 学問・研究への興味や知的好奇心
4. コミュニケーション能力や対人関係能力
5. 課題発見能力や問題解決能力
6. プレゼンテーション能力
7. 文章作成能力
8. 特に得るものがない

39) 教員, TA の研究指導 (データの相談, 実験指導等) の時間は十分でしたか。

1. 十分
2. まあ十分
3. やや足りない
4. 全く不足している
5. どちらとも言えない

40) 学習 (自習) を進めるための設備, スペースは確保されていますか。

1. 設備, スペースともに十分である
2. 設備は十分であるが, スペースがせまい
3. スペースは十分であるが, 設備が足りない
4. 設備, スペースともに足りない
5. 十分ではないが, 困っていない

41) 研究を進めるための設備, スペースは確保されていますか。

1. 設備, スペースともに十分である
2. 設備は十分であるが, スペースがせまい
3. スペースは十分であるが, 設備が足りない
4. 設備, スペースともに足りない
5. 十分ではないが, 困っていない

英語学習・教育について

42) 英語は毎日または定期的に勉強していますか。

1. はい
2. いいえ

43) 問 42 で「はい」と答えた人は, 質問に答えてください。

どのように, 英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. 毎日または定期的にテレビ, ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
3. 図書館または大学の英語教材, 施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC などの参考書, 問題集を購入して定期的に勉強している
5. 授業で使用している教科書, 英語論文をよく勉強している
6. TOEIC や英検などの英語能力試験を定期的に受験している
7. 留学生と交流している

44) 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 全学共通教育，専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング，会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

徳島大学における海外留学について

45) 徳島大学在籍中に長期・短期海外留学を体験しましたか。

1. はい
2. 1年以内に予定している
3. いいえ

46) 問 45 で「はい」または「予定している」と答えた人は，質問に答えてください。

海外留学はどのようにその後の学習に活かされていますか（活かされると思いますか）。（複数回答可）

1. 国際的感覚を身に付けるのに役立つ
2. 専門の知識を身に付けるのに役立つ
3. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになる
4. 学問・研究に興味を沸かす
5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立つ
6. マナー，人格形成に役立つ
7. 特に思い当たらない

47) 問 45 で「いいえ」と答えた人は，質問に答えてください。

海外留学を行わない理由は何ですか。（複数回答可）

1. 全学共通教育，専門教育で行われる外国語教育で十分で，海外留学に興味はない
2. 魅力的な海外留学プログラムがない
3. 海外留学を行いたい資金的な援助が十分ではない
4. 専門教育においては短期でも時間的に海外留学を行う余裕はない
5. 留学するためのプロセスがわからない
6. 全く興味がない
7. 帰国後の就職活動に出遅れる心配がある

大学に関するあなたの評価を教えてください

48) 大学教育全体の満足度は 100 点満点で何点ぐらいですか。

1. 90 点以上
2. 80 点以上
3. 70 点以上
4. 60 点以上
5. 59 点以下

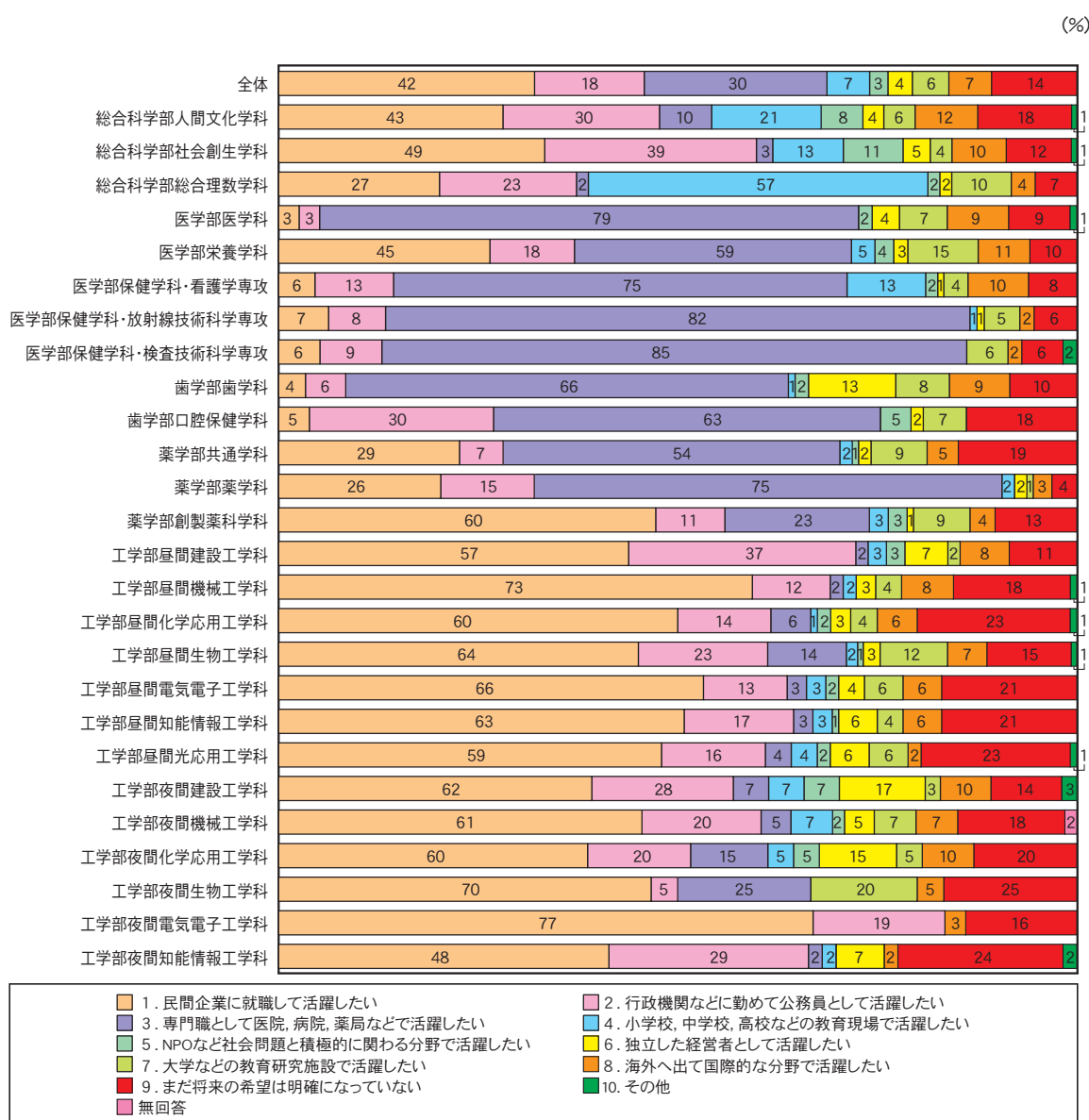
ご協力ありがとうございました。

第1章 将来の希望について

1-1 将来の希望

将来の希望として、総合科学部・栄養学科・創製薬科学科・工学部では「1. 企業」の回答が多く、医学部・歯学部・薬学部では、創製薬科学科を除き、「3. 医院, 病院, 薬局」を選んでいる学生が最も多い。総合科学部・口腔保健学科・建設工学科では「2. 公務員」も目立ち、総合理数学科では「4. 教員」を選んだ学生が半数を超えている。地元にな数の有力企業しかない地方の就職先として、医者やエンジニア以外に、公務員や教員への人気が高いと言える。

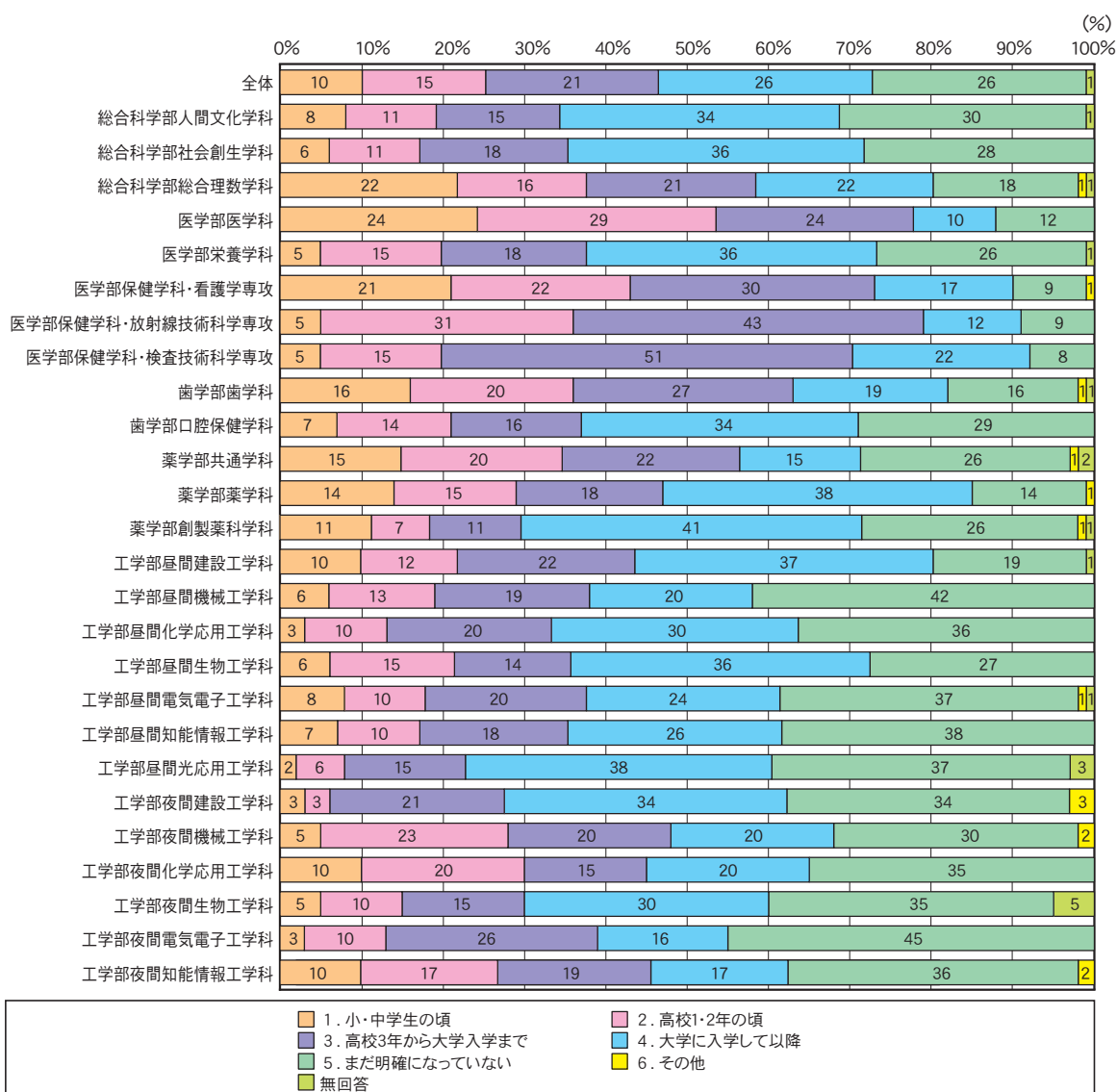
問4 あなたの将来の希望として当てはまるものがありますか。(複数回答可)



1-2 将来の希望が明確になった時期

総合理数学科・医学科・保健学科・歯学科・薬学部共通学科では、「1. 小・中」「2. 高校1・2年」「3. 大学入学まで」を合わせて半数を超えており、入学までに将来の希望を明確にしている学生が多い。特に、総合理数学科、医学科、保健学科看護学専攻は「1. 小・中」が他学科よりやや多く、小さい頃から医者や教師、看護師・保健師などに憧れを持った学生もいると考えられる。一方で、人間文化学科・社会創生学科・栄養学科・口腔保健学科・薬学科・創製薬科学科では「4. 入学後」が多く、工学部では「5. まだ明確でない」が全体として目立つ。具体的な企業・業種・職種などが定まらなると、将来像が見えにくいのかもかもしれない。

問5 あなたの将来の希望がほぼ明確になったのはいつ頃ですか。



※ 択一の設定については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

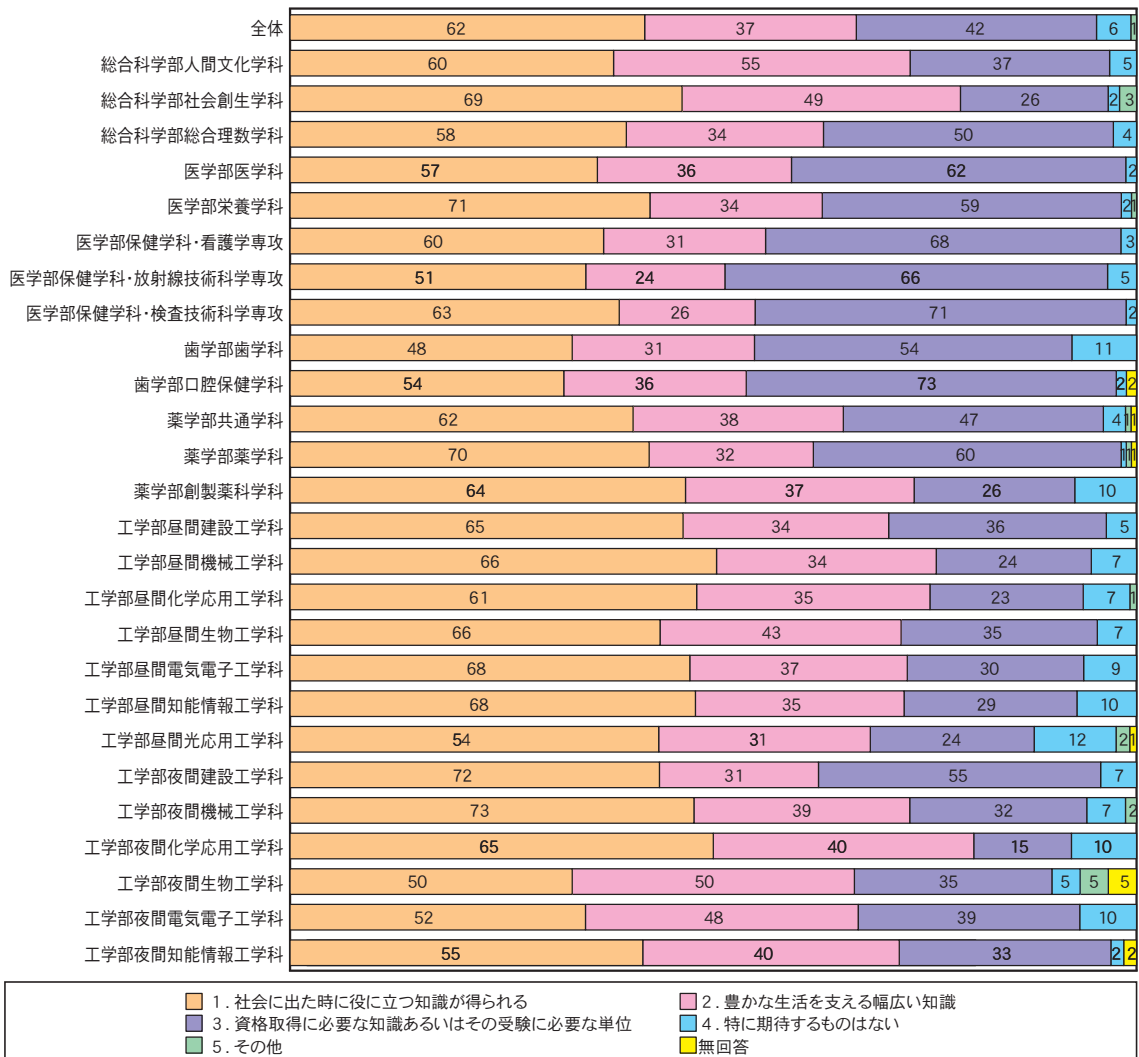
第2章 大学教育について

2-1 大学教育への期待

大学教育への期待として、すべての学科で「1. 社会に出たときに役立つ知識」が多いが、医学科・保健学科・歯学部では「3. 資格のための知識」が最も多く、総合理数学科・薬学部共通学科・薬学科でも「3. 資格のための知識」が多い傾向にある。逆に、人間文化学科と社会創生学科では「2. 幅広い知識」が目立つ。将来の具体的な希望が明確な場合は、資格のためという目的意識が強くなっていると考えられる。

問6 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

(%)



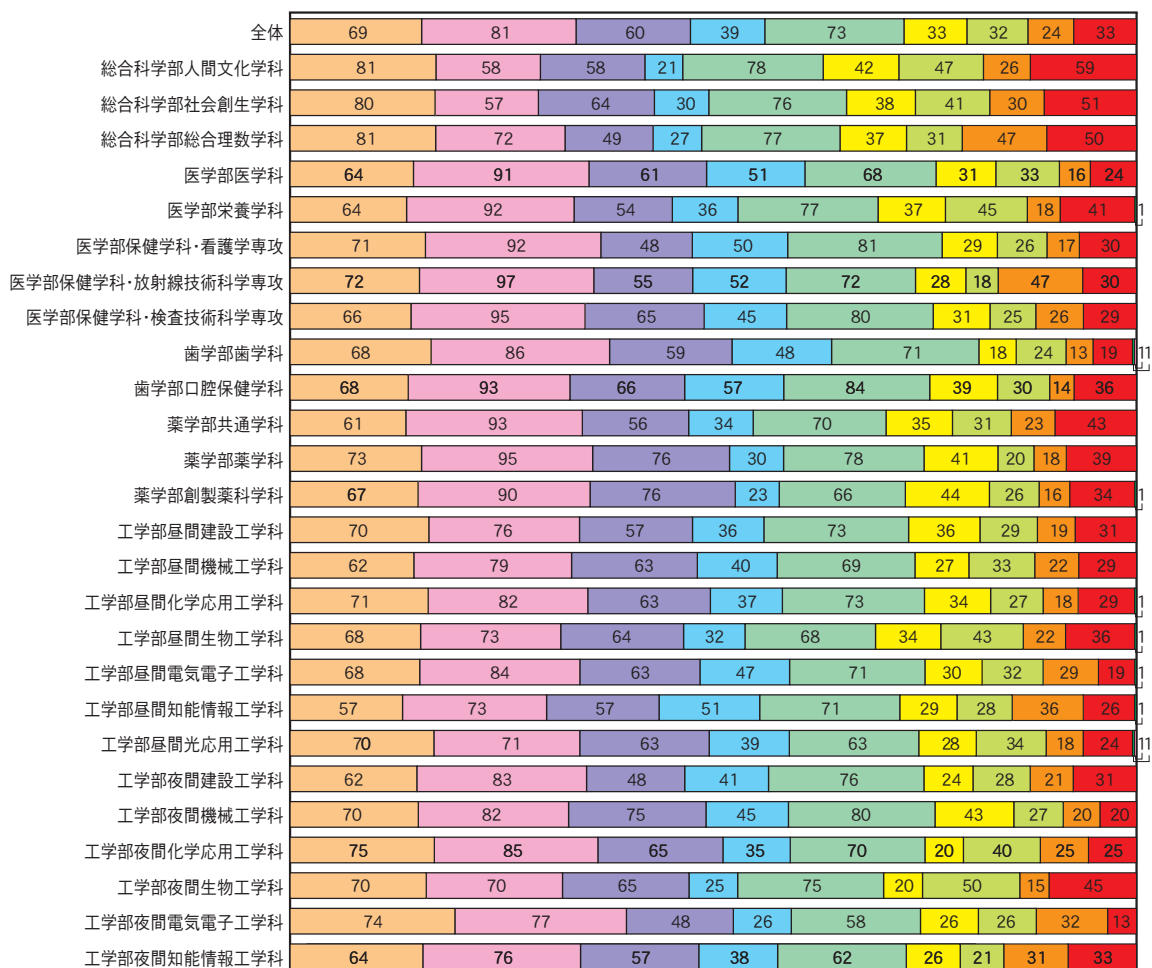
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

2-2 大学で獲得したい知識、能力

獲得したい知識・能力としては、全体的に「2. 専門的知識」が多く、それに続いて「5. コミュニケーション能力」と「1. 一般知識・教養」が多い。大学において専門的知識の獲得を期待するのは当然としても、学生はコミュニケーション能力の獲得も重視していることが分かる。尚、総合科学部では「1. 一般知識・教養」が最も多い。

問7 大学在学中にあなたが特に獲得したい知識・能力を5つ選んでください。

(%)



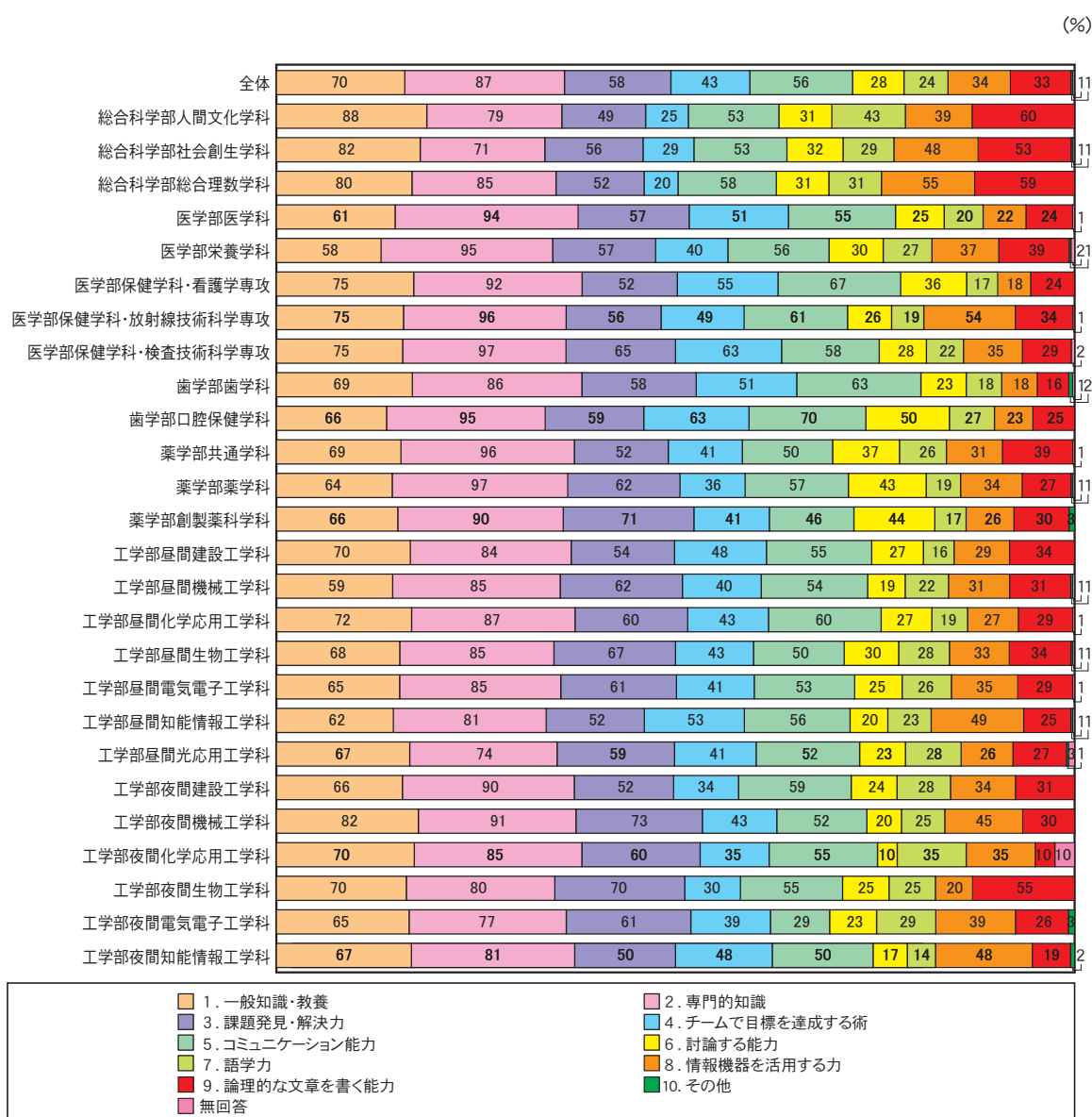
1. 一般知識・教養
 2. 専門的知識
 3. 課題発見・解決力
 4. チームで目標を達成する術
 5. コミュニケーション能力
 6. 討論する能力
 7. 語学力
 8. 情報機器を活用する力
 9. 論理的な文章を書く能力
 10. その他
 無回答

※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

2-3 大学教育で獲得が期待できる知識、能力

問7での回答に比べて、「5. コミュニケーション能力」の比率が小さくなっている。コミュニケーション能力は、授業での獲得を期待するよりも、クラブやサークル活動、アルバイトやボランティア活動なども含めて、学生生活全体を通じて獲得するものと捉えているのかもしれない。

問8 問7で、特に大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を5つ選んでください。

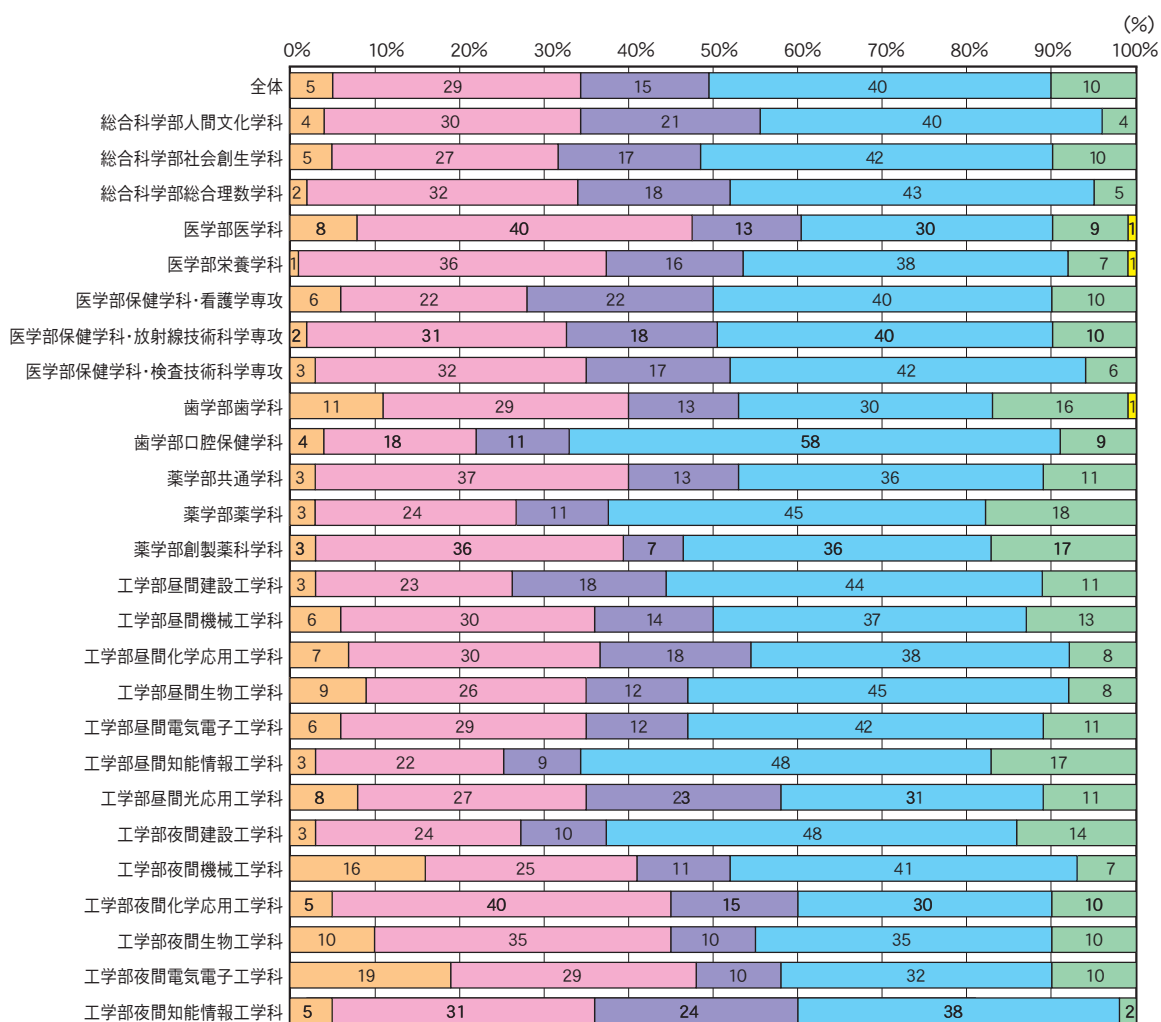


第3章 あなた自身について

3-1 予習・復習の実施状況

授業に関する自主学習は、全体として「4. 宿題が出た時のみ」が多く、続いて「2. 興味のある科目・分からない科目」が多い。「1. 必ず予習復習をする」は非常に少なく、「5. 何もしていない」よりも少ない学科が大半である。尚、医学科と薬学科および夜間の一部の学科では「2. 興味のある科目・分からない科目」と回答した学生が最も多い。

問9 定期試験前以外に、大学の授業に関して、授業時間外に学習を行っていますか。



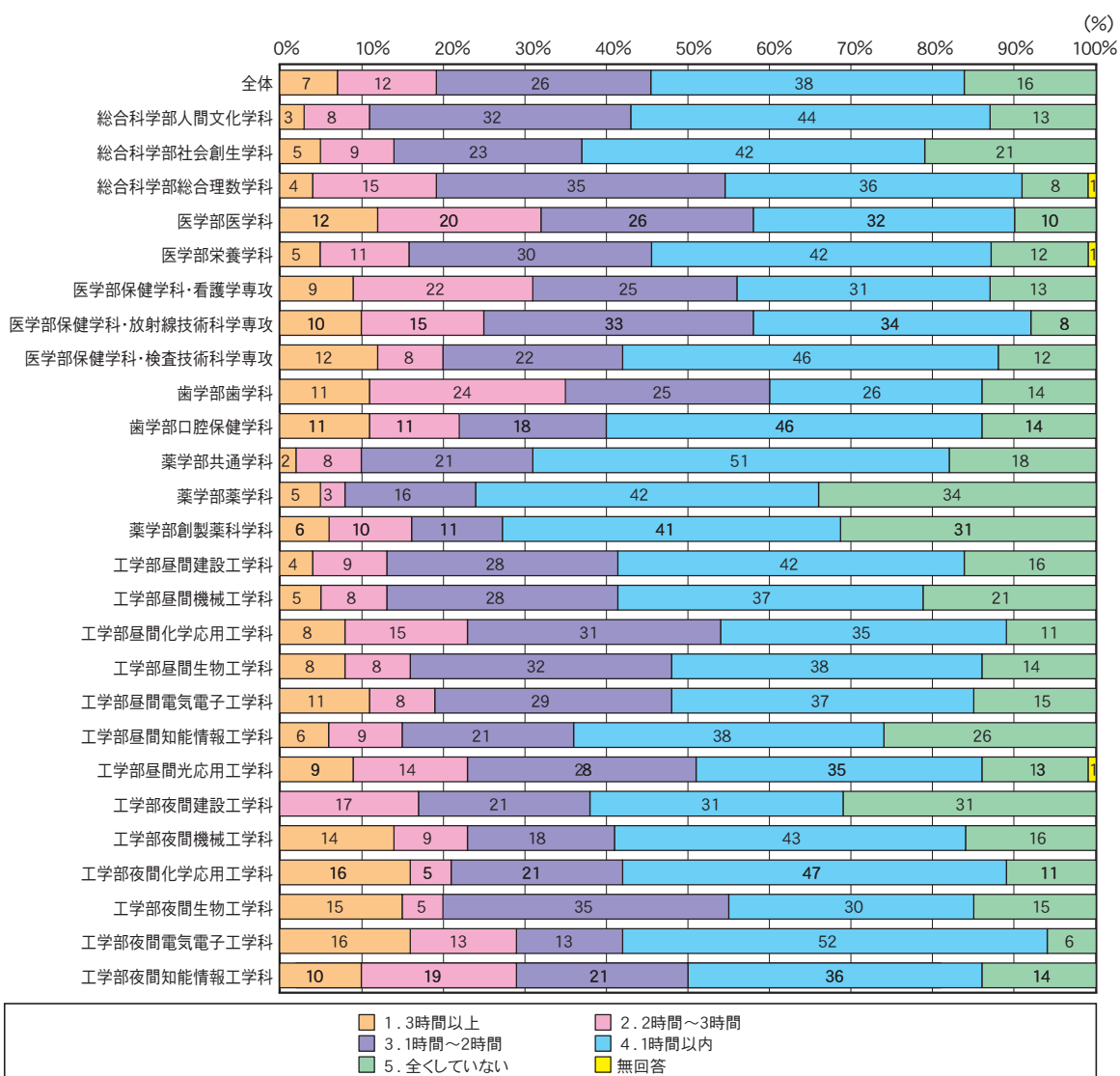
- 1. 必ず全科目予習あるいは復習を行っている
- 2. 興味のある科目や分からない科目は自主的に予習あるいは復習を行っている
- 3. 教員に促される科目のみ予習あるいは復習を行っている
- 4. 宿題が出た時のみ予習あるいは復習を行っている
- 5. 何もしていない
- 無回答

※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-2 予習・復習の時間

自主学習の時間は、ほとんどの学科で「4. 1時間以内」が最も多く、次いで「3. 1時間から2時間」が多い。ただし、薬学科・創製薬科学科では「5. 全くしていない」が目立つ。一方で、医学科・保健学科看護学専攻・歯学科では「2. 2時間～3時間」がやや多い傾向にある。大学設置基準の1単位あたりの学修時間45時間（例えば、1単位の講義・演習科目は（「授業1時間」＋「予習・復習2時間」×15回）に照らし合わせると、学生の自主学習の時間は不足していると言わざるをえない。

問 10 1日平均すると、大学の授業に関して、どれくらい授業時間外に学習を行っていますか。

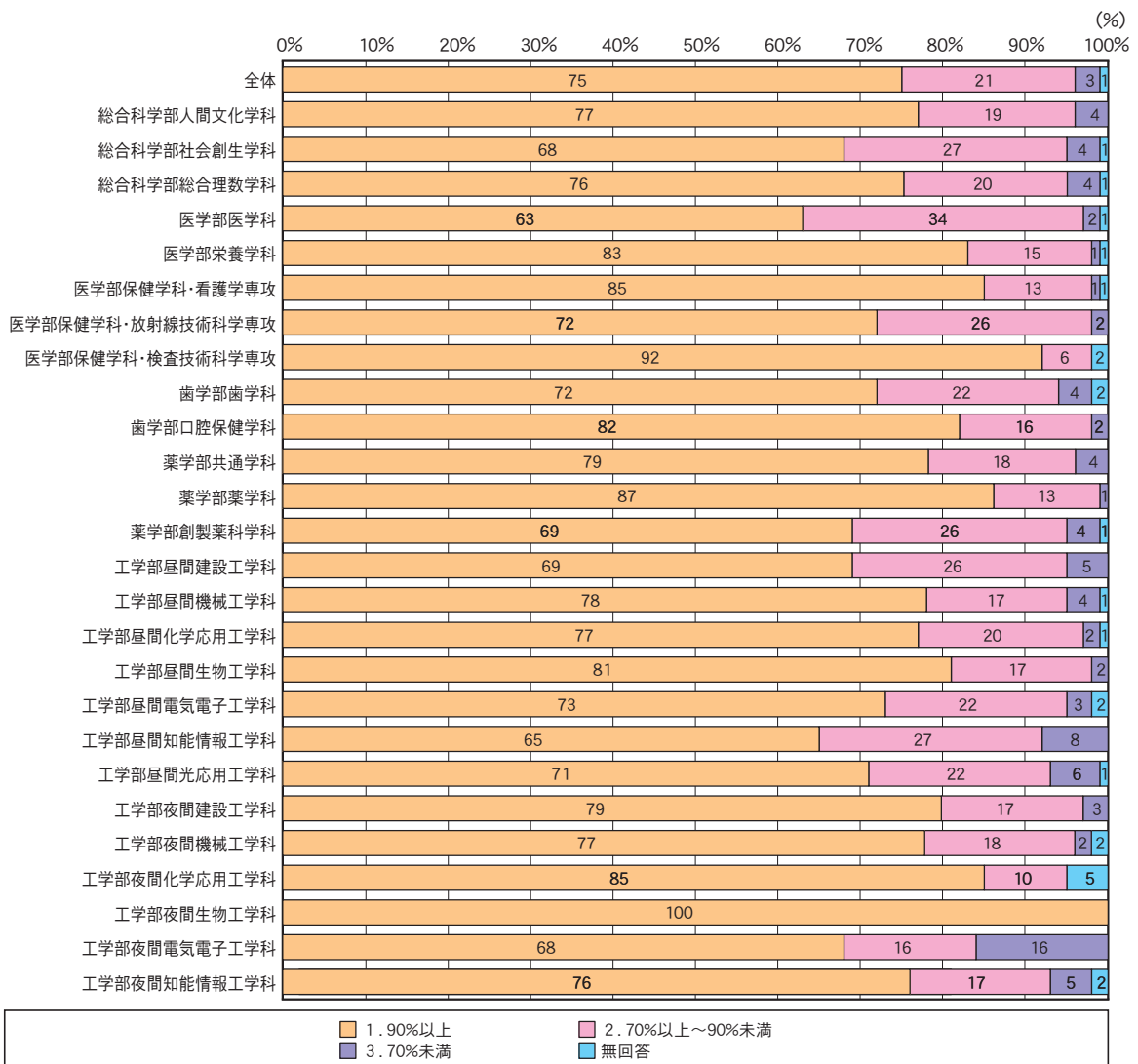


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-3 授業の出席率

授業への出席率は、すべての学科で「1. 90%以上」が多く、学生の授業への出席率は高いと言える。

問 11 授業の出席率は平均でどのくらいですか。



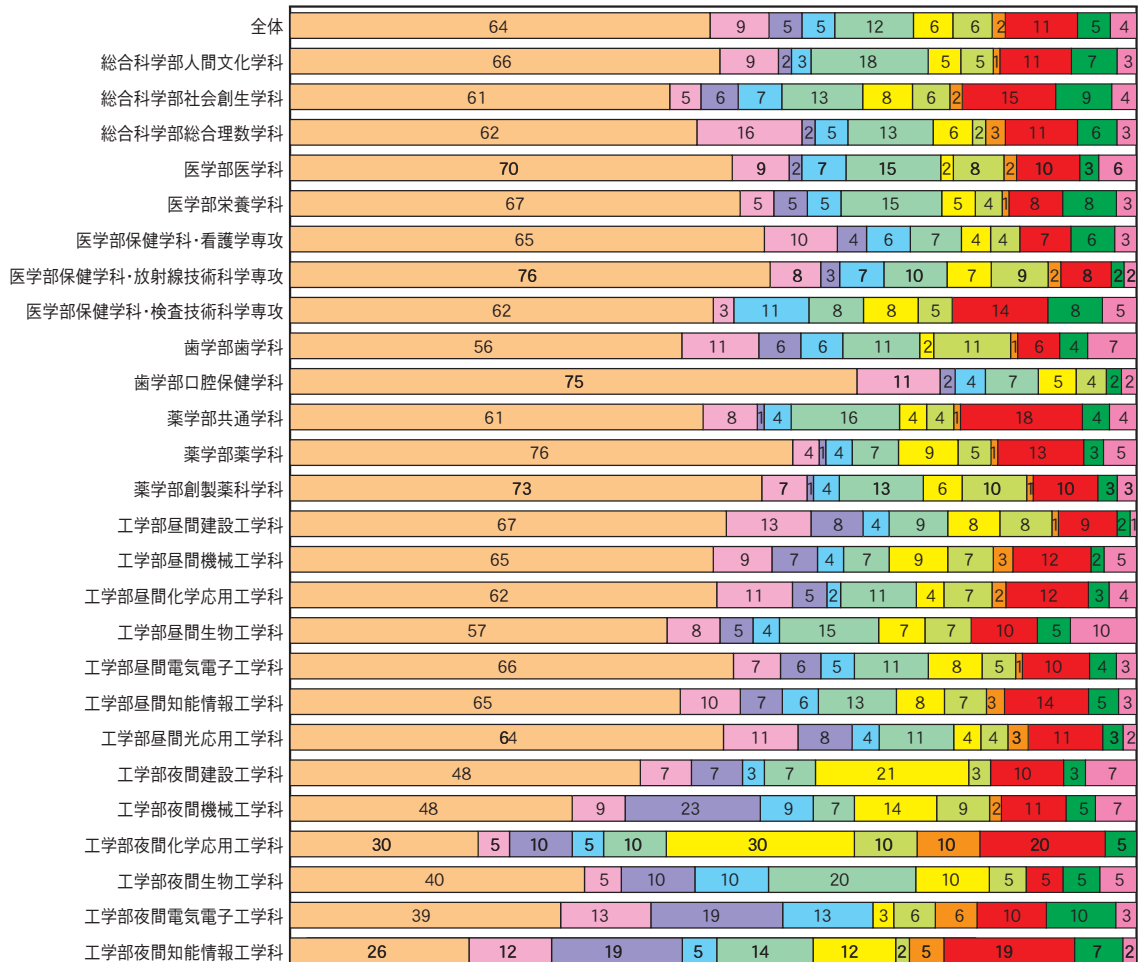
※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-4 授業を休む場合の理由

授業を休む理由としては、全体として「1. 朝寝坊」が多いが、それ以外では「5. レポート作成・試験勉強」がやや多い。夜間では「6. 出席をとらない」が目立つ学科もある。

問 12 病気などのやむを得ない理由なく授業を休む場合の理由は何ですか。(複数回答可)

(%)



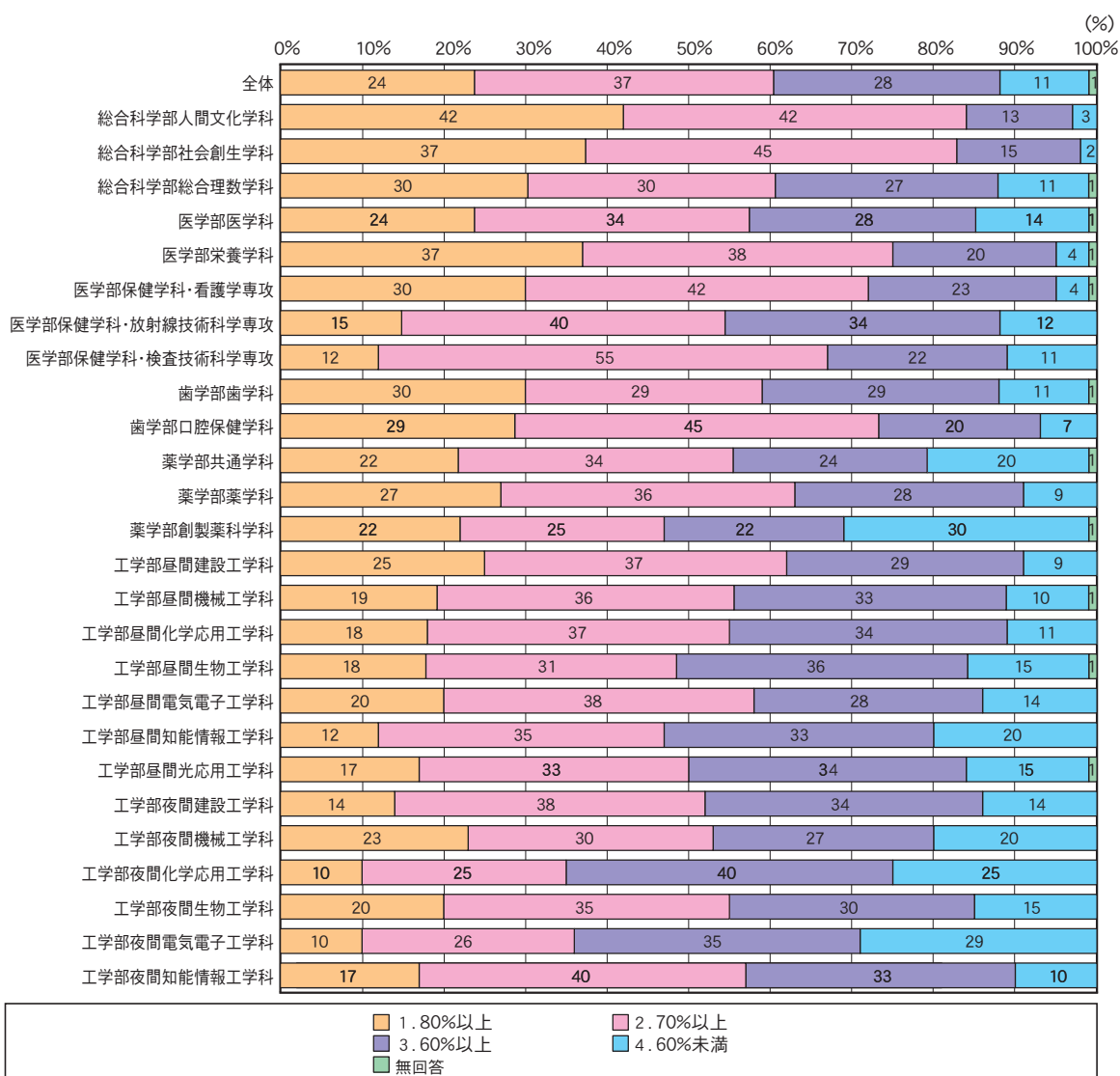
- 1. 朝寝坊
- 3. アルバイト
- 5. 他科目のレポート作成・試験勉強
- 7. 出席しても遅刻すると欠席になるから
- 9. 授業がおもしろくないから
- 無回答
- 2. サークル・クラブ活動
- 4. 遊び
- 6. 教員が出席をとらないから
- 8. 授業が理解できないから
- 10. その他

※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

3-5 授業内容を理解できる授業科目の割合

授業内容を理解できる科目は、ほとんどの学科で「2. 70%以上」という回答が最も多いが、人間文化学科・社会創生学科・栄養学科では「1. 80%以上」も多い。逆に、創製薬科学科では「4. 60%未満」という回答が最も多い。また、夜間でも「4. 60%未満」が多い傾向にある。

問 13 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。



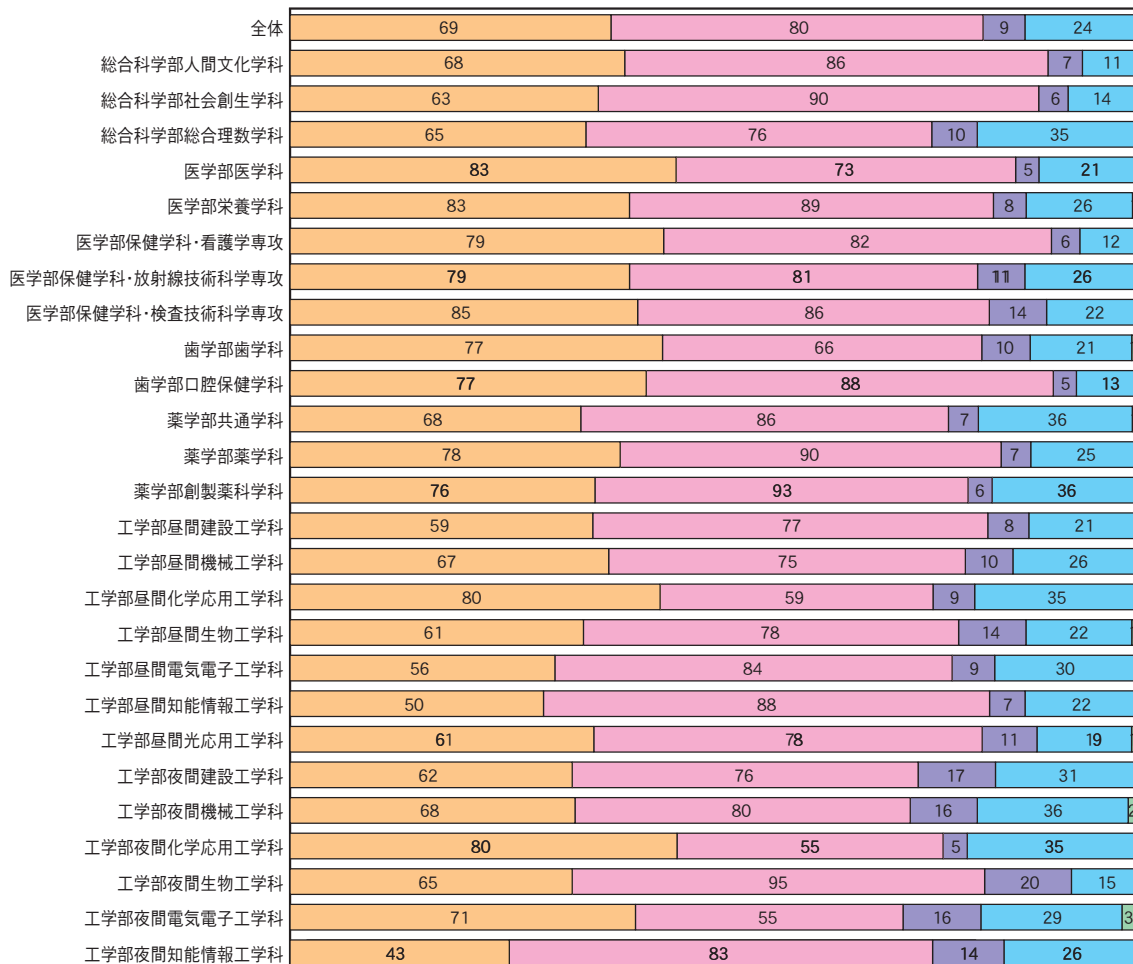
※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-6 レポートや宿題をする際の情報源

レポートや宿題の情報源としては、全体的に「2. インターネット」という回答が多く、次いで「1. 教科書・参考書」も多い。一方で「3. 教員」は全学科で少ない。

問 14 レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

(%)



1. 教科書・参考書 2. インターネット
3. 教員 4. 友人・先輩
無回答

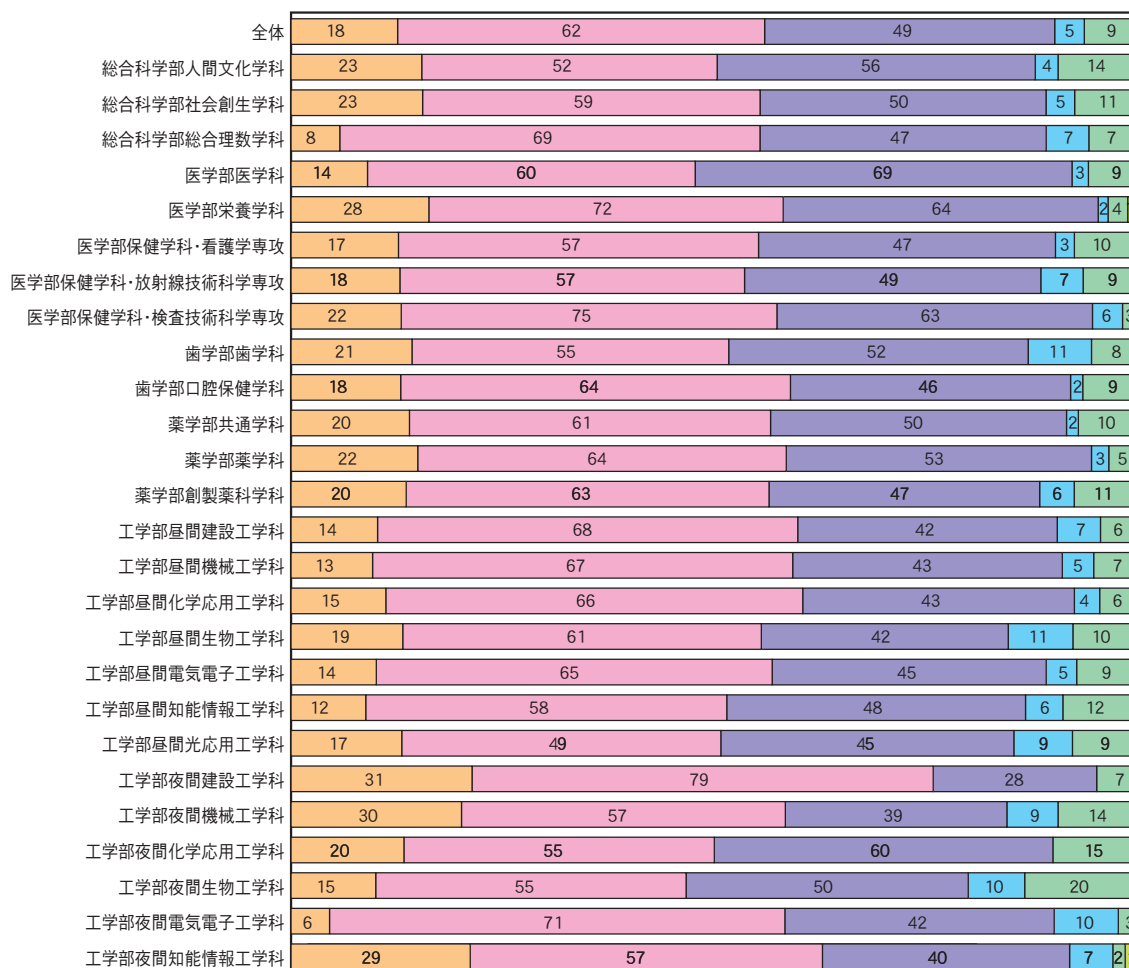
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

3-7 授業でわからないところの対処方法

授業での疑問点は、「2. 先輩・友人に質問」により解決している学生が多く、次に「3. 自分で解決」が多い。問14と同じく、「4. 授業時間外に教員に質問」は全学科で少なく、オフィスアワー等はあまり活用されていないようである。

問15 授業でわかりにくかったところは、どうしていますか（複数回答可）

(%)



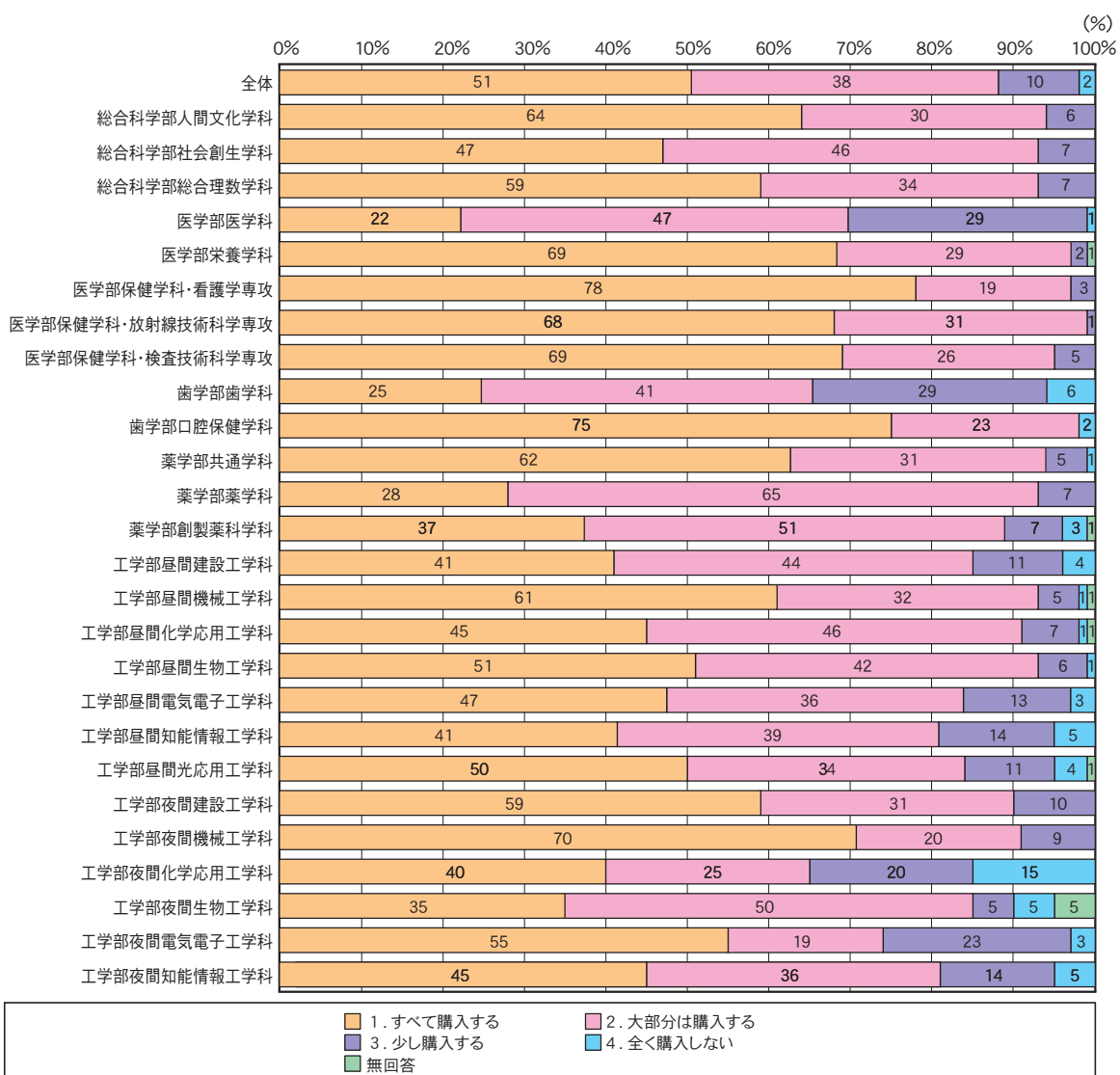
■ 1. 授業中または終了直後、教員に直接聞いている ■ 2. 先輩、友人に質問している
■ 3. 自分で勉強し、解決している ■ 4. オフィスアワー等、授業時間外に教員に質問している
■ 5. 何もしない ■ 6. その他
■ 無回答

※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

3-8 教科書の購入状況

教科書は「1. すべて」と「2. 大部分」を購入するという回答が全体として多い。ただし、医学科・歯学科では「1. すべて」よりも「3. 少し」の方が多く、必ずしも教科書を購入していないことが分かる。また、夜間でも「3. 少し」が目立つ学科がある。

問 16 指定された教科書は購入していますか。



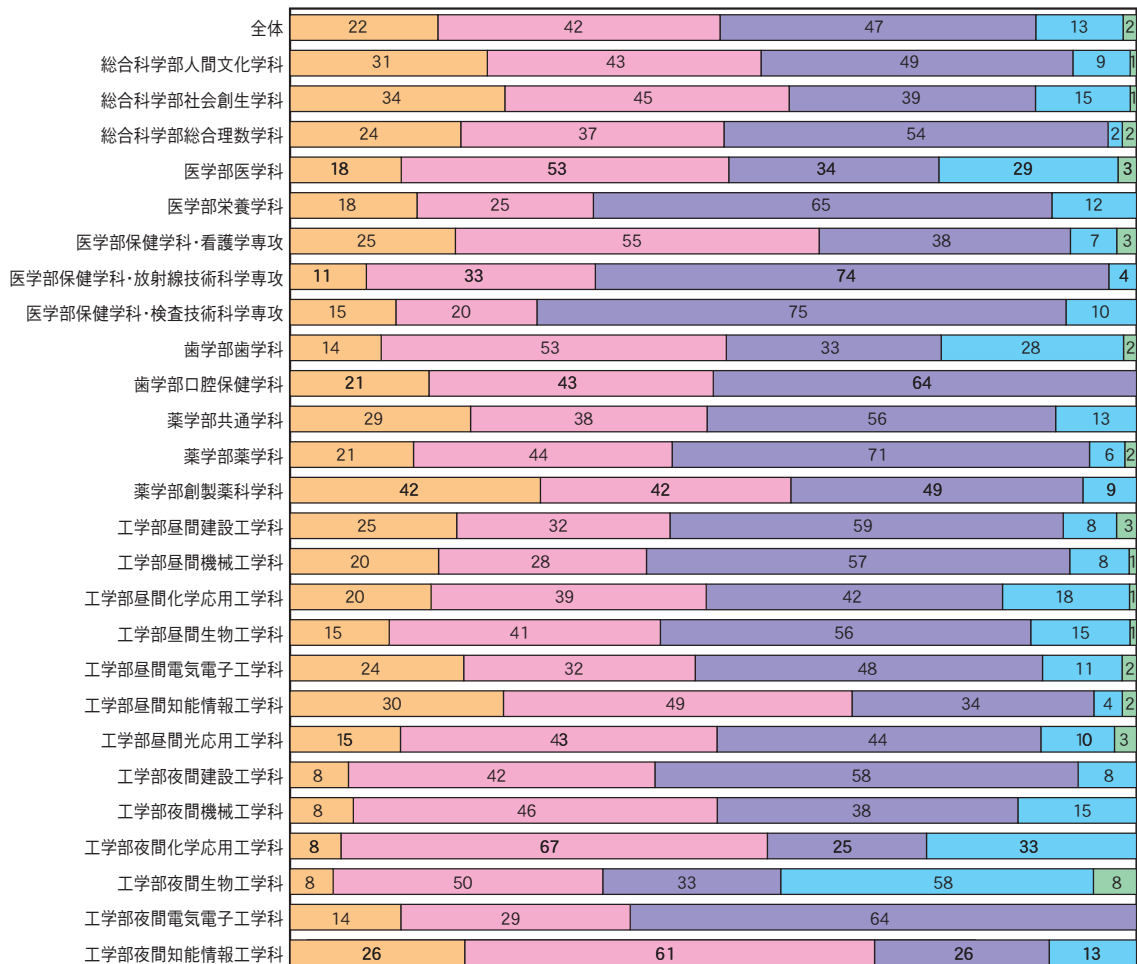
※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-9 教科書を購入しない理由

教科書を購入しない理由は、全体として「2. 高価」と「3. 先輩・友人の本を使う」が多い。問16で必ずしもすべての教科書を購入していない傾向のあった医学科・歯学科では、「4. 図書館の本を使う」が他学科に比べてやや多い。夜間でも「4. 図書館の本を使う」が多い学科がある。

問17 教科書を購入しない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

(%)



1. 教科書がなくても授業内容が理解できる
 2. 教科書が高価である
 3. 先輩、友人の本を使う
 4. 図書館などの本を利用する
 無回答

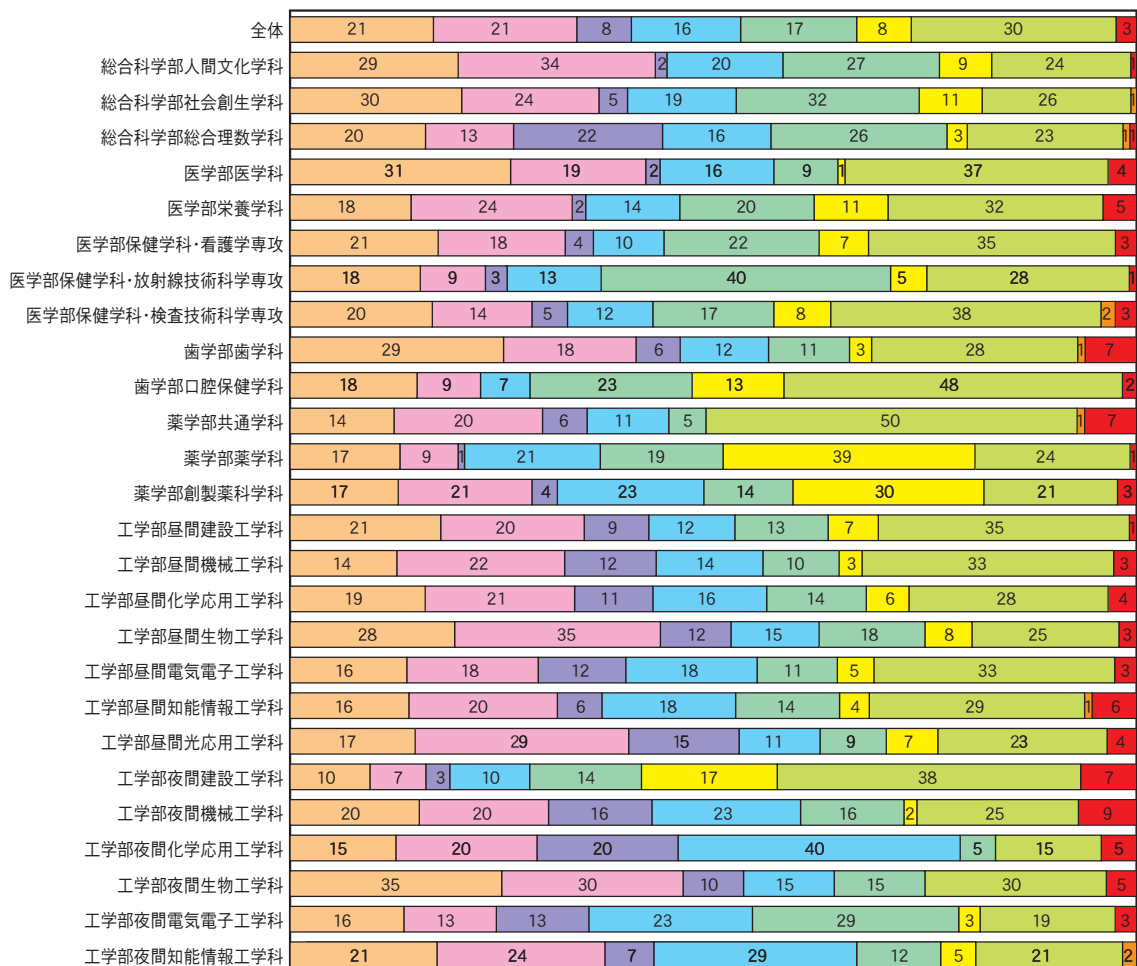
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

3-10 大学の授業以外の自分自身のための学習

授業に関すること以外の自主学習としては、人間文化学科・栄養学科・工学部では「2. 語学などのスキル修得」が多く、社会創生学科・総合理数学科・保健学科・口腔保健学科では「5. 資格のための学習」が目立つ。医学科・歯学科では「1. 読書」が他学科より多い傾向がある。

問 18 大学の授業以外に、自分自身のための学習として、
実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

(%)



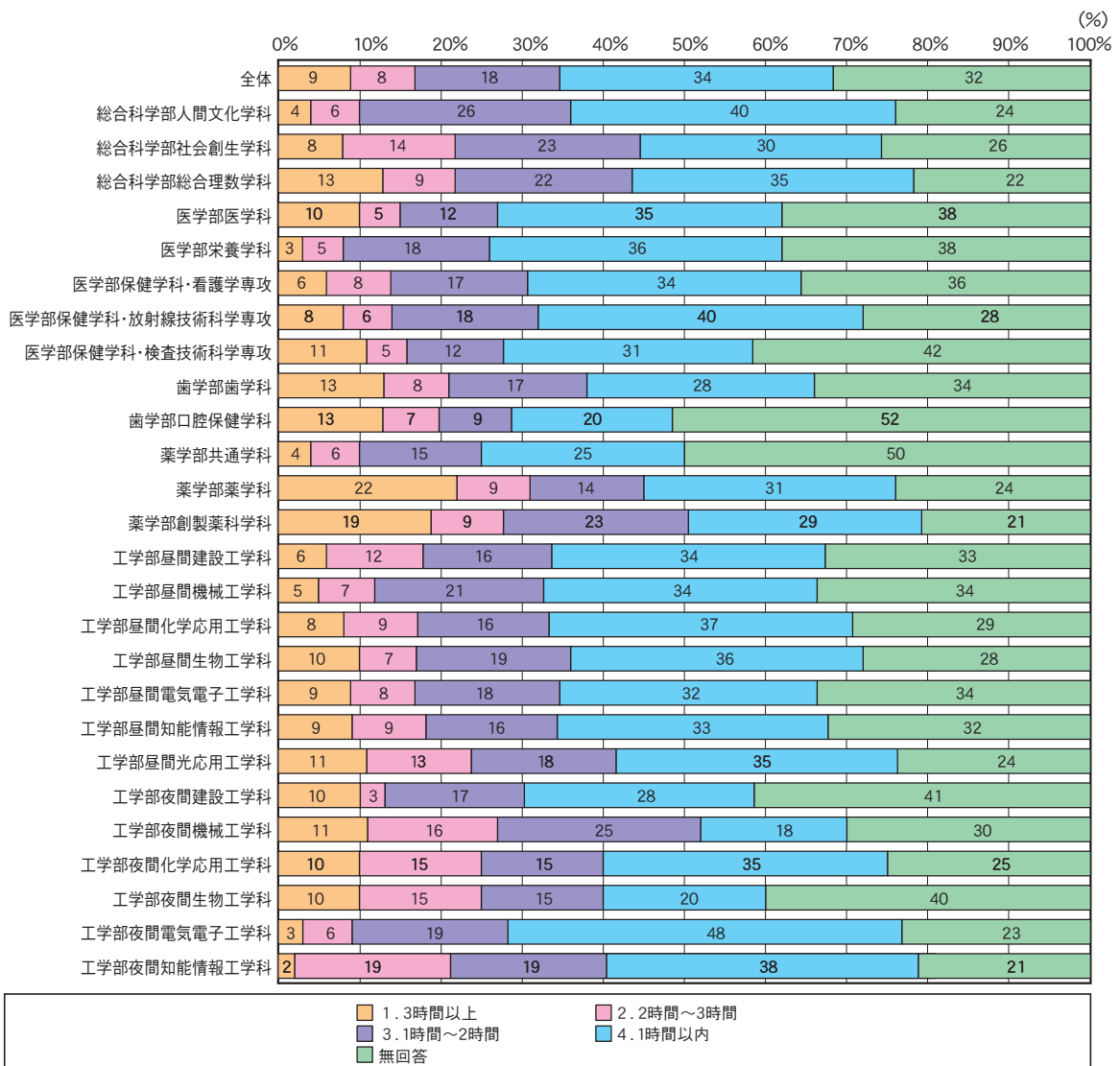
■ 1. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
 ■ 2. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
 ■ 3. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学習
 ■ 4. 自分の興味あるテーマの探究
 ■ 5. 資格取得や受験に備えた学習
 ■ 6. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等
 ■ 7. 大学の講義のみで、特に実行や計画していることはない
 ■ 8. その他
 ■ 無回答

※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

3-11 大学の授業以外の自分自身のための学習時間

授業に関すること以外の自主学習の時間は、ほとんどの学科で「3. 1時間以内」が多く、それに続いて「3. 1時間～2時間」が多い。問10で、授業に関する学習時間が全くないという回答が多かった薬学科・創製薬科学科では、「1. 3時間以上」も目立ち、授業以外の自主学習に時間をかけている学生もいることが窺える。

問19 問18で、実行していることがあると答えた方は、1日平均するとどれくらい実行していますか。

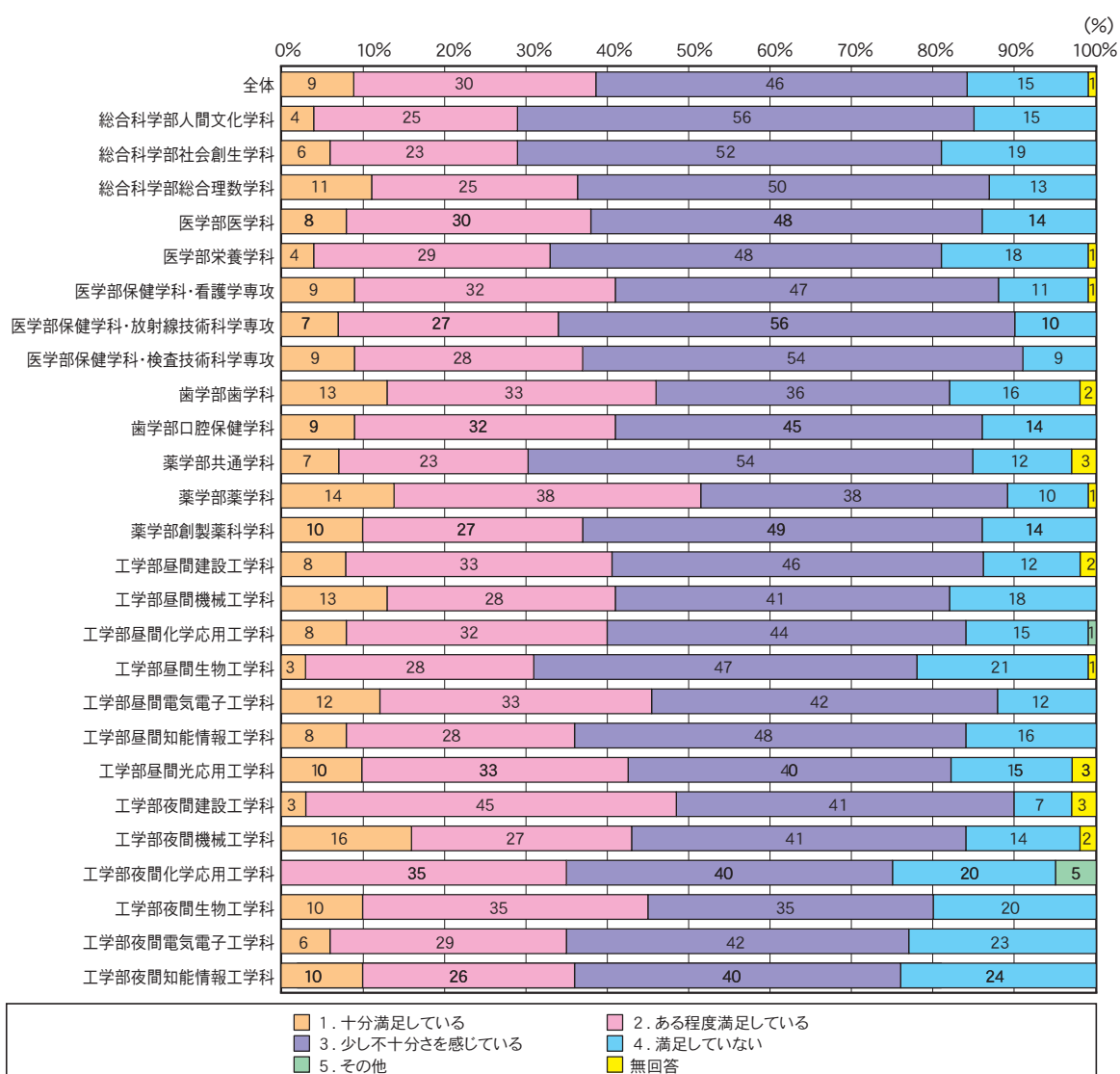


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-12 学習時間・態度への満足度

自身の学習時間や学習態度への満足度については、ほとんどの学科で「2. 少し不十分さを感じている」が4割～5割を占め、次いで「2. ある程度満足」が3割前後となっている。多くの学生が、自主学習が十分ではないことを自覚しているようである。

問 20 あなたは、現在の自分の学習時間や学習態度に満足していますか。

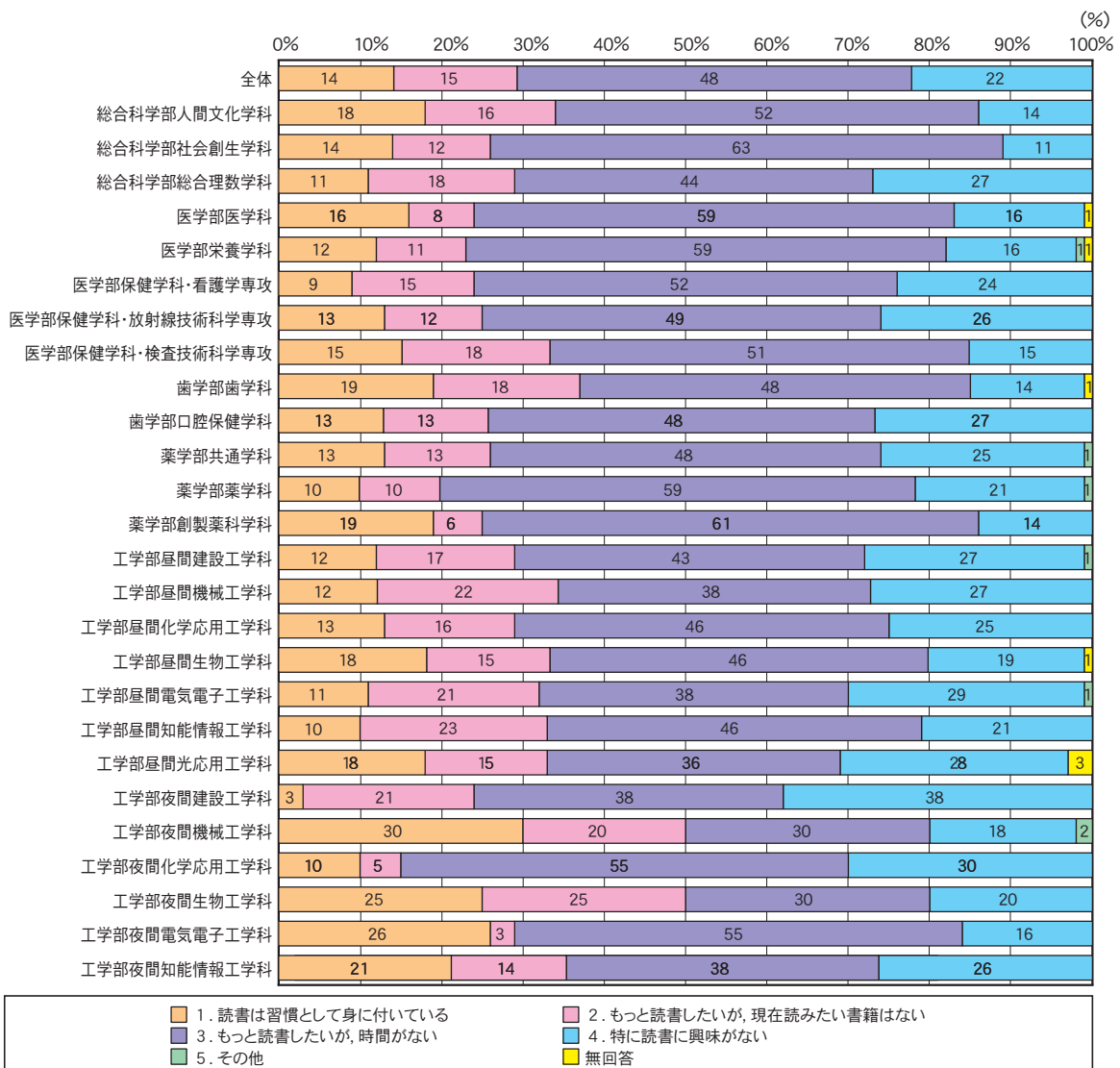


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-13 読書の習慣

読書の習慣については、全体的に「3. 読書の時間がない」が多い。学習にかける時間が必ずしも十分でない上に、読書の時間もないという回答から、それ以外の時間に費やす学生も多いという実態がうかがえる。

問 21 あなたは、読書の習慣についてどのように考えていますか。

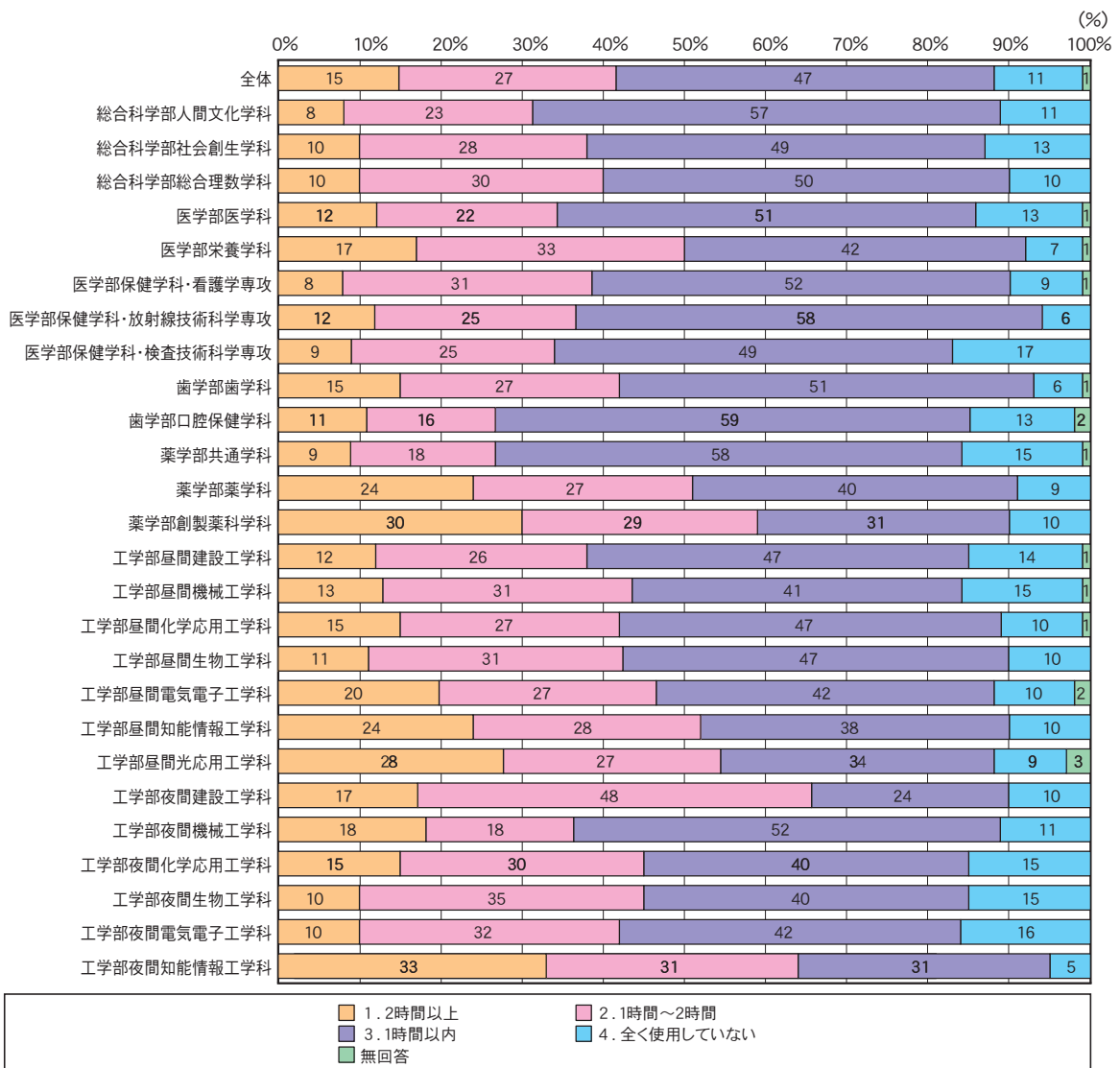


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-14 1日のインターネット利用時間

学習のためのインターネットの1日当たりの使用時間は、ほとんどの学科で、「3. 1時間以内」が多く、次に「2. 1時間～2時間」が多い。スマートフォンやタブレット端末の普及から「4. 全く使わない」は少ない。

問22 学習のためにインターネットを1日何時間くらい使用していますか。

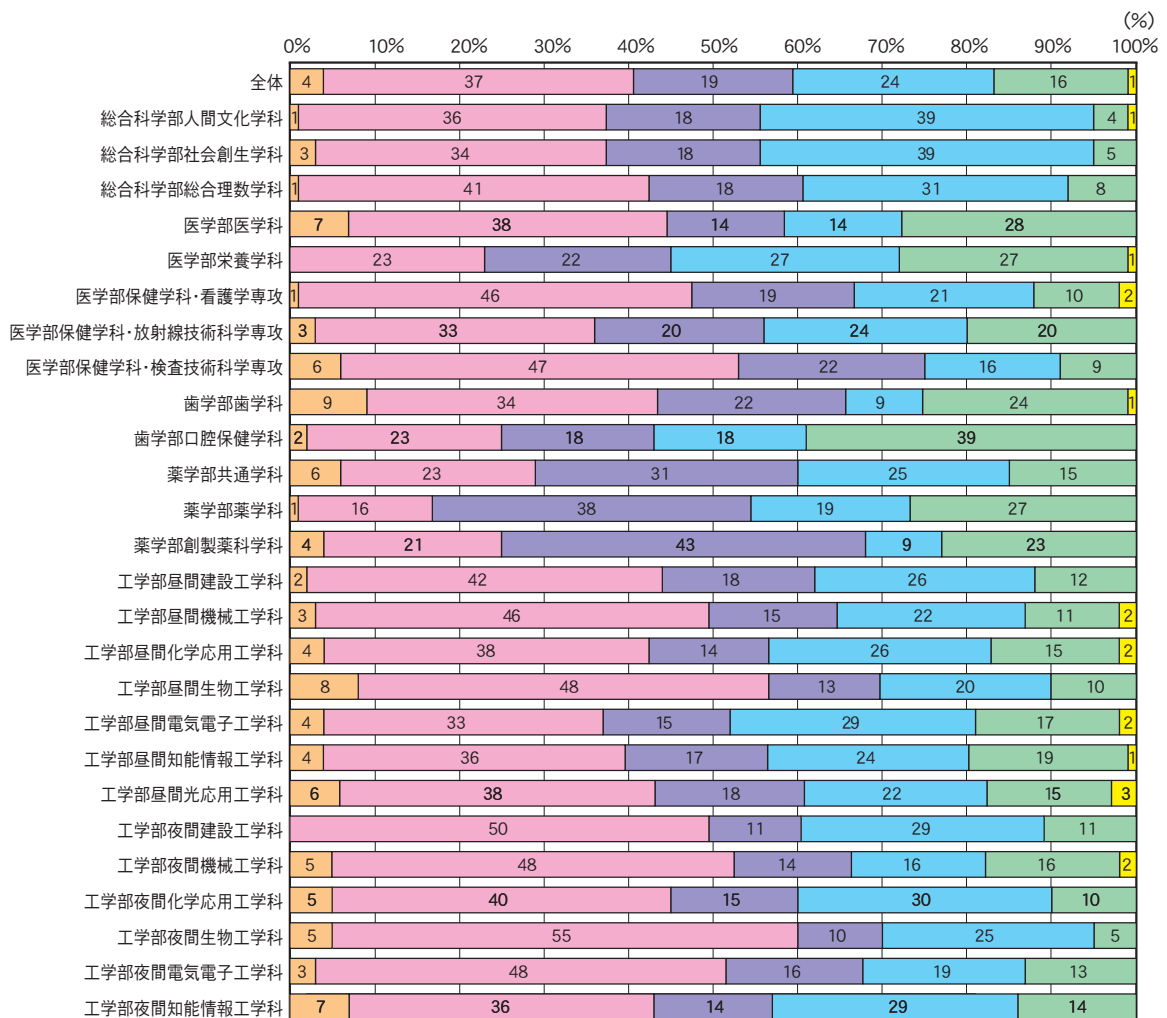


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-15 シラバスの利用状況

シラバスの利用は、ほとんどの学科で「2. 時々確認」が最も多い。ただし、薬学部では「3. 初回のみ」が多く、人間文化学科・社会創生学科では「4. 選択時のみ」が多い。すべての学科で「1. 毎週確認」は少なく、口腔保健学科では「5. 全く見ていない」が目立つ。

問 23 シラバスはどのように利用していますか。



■ 1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
■ 2. 気になった時に時々確認している
■ 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
■ 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
■ 5. 全く見ていない
■ 無回答

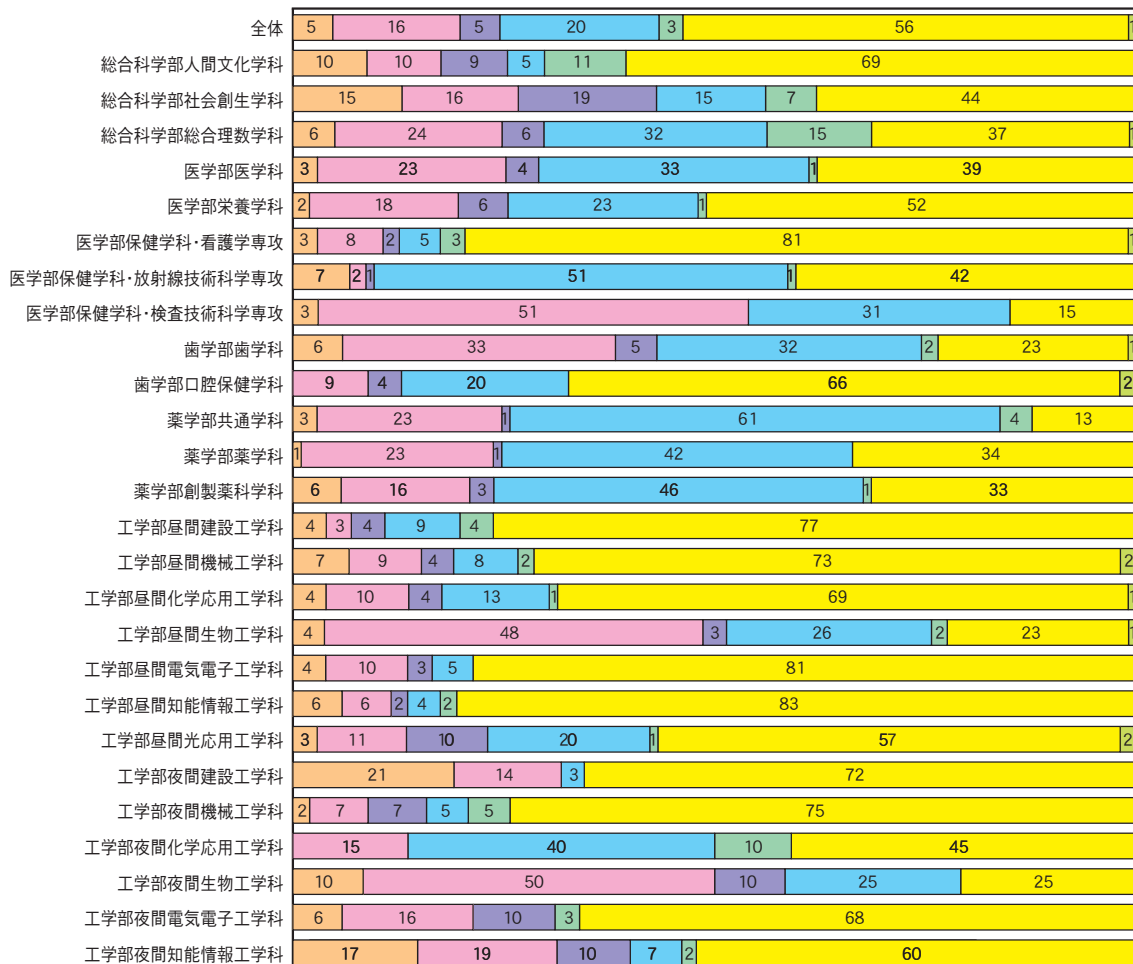
※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

3-16 高校で未履修科目があるため、大学で理解困難な科目の有無

学習に支障を感じる未履修の理系科目としては、「2. 物理」と「4. 生物」が多く、「3. 化学」は社会創生学科以外は少ない。保健学科検査技術科学専攻・生物工学科では「2. 物理」が目立ち、総合理数学科・医学科・栄養学科・保健学科放射線技術科学専攻・薬学部では「4. 生物」が多い。ただし、「6. ない」が大半を占める学科も多い。

問 24 高校で履修しなかったために大学での学習に支障を感じた理系科目
(数学, 物理, 化学, 生物, 地学) はありますか。(複数回答可)

(%)



■ 1. ある(数学) ■ 2. ある(物理)
■ 3. ある(化学) ■ 4. ある(生物)
■ 5. ある(地学) ■ 6. ない
■ 無回答

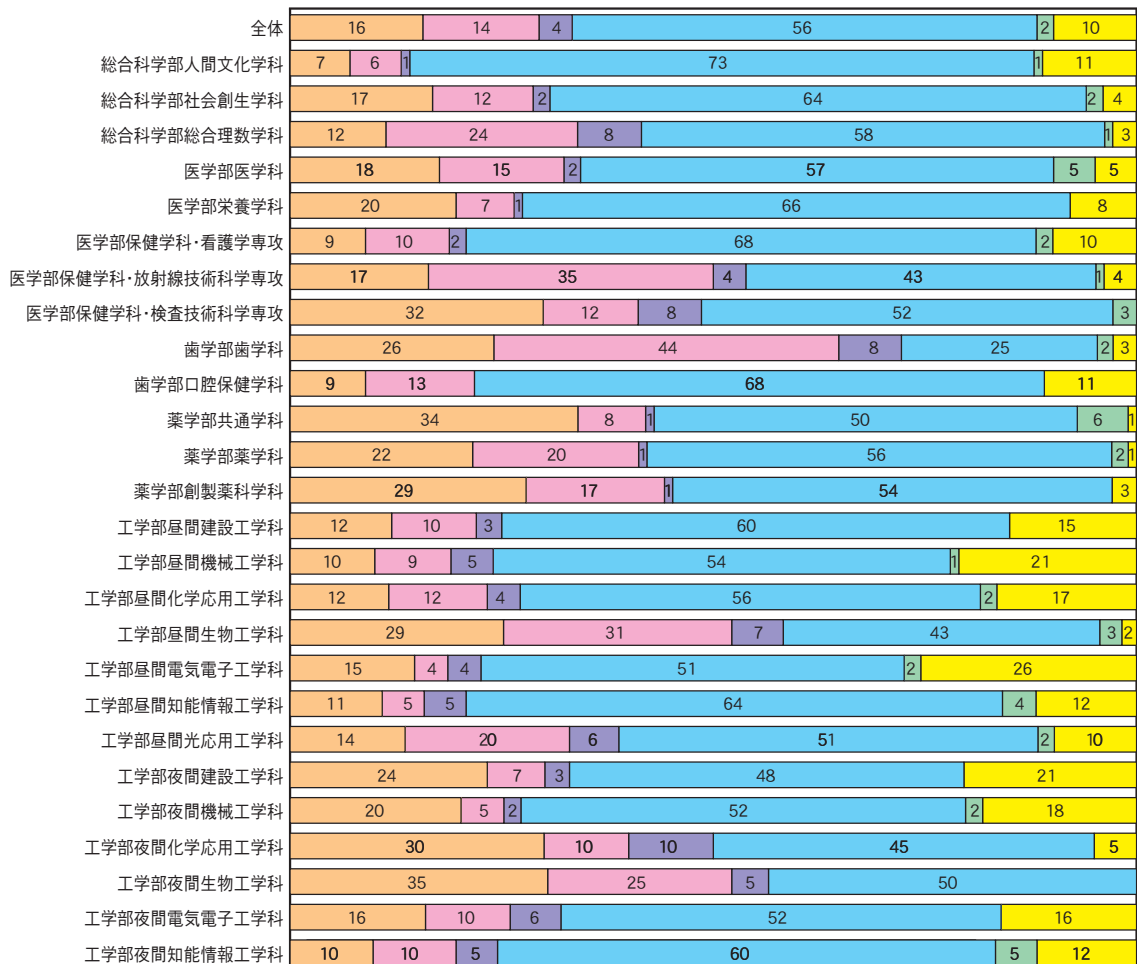
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

3-17 高校での未履修科目について、大学入学後の学習方法

未履修の理系科目への対応としては、歯学科では「2. 復習科目の履修」が最も多いが、それ以外の学科では「4. 何もしない」が多い。勉強したという回答の中では「1. 高校の教科書・参考書の利用」と「2. 復習科目の履修」が多く、「3. リメディアル教材の利用」は少ない。

問 25 高校で履修していない物理、化学、生物について、
大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

(%)



1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
 2. 全学共通教育で開講されている自然科学入門やその他の科目を受講した
 3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
 4. 何もしない
 5. その他
 無回答

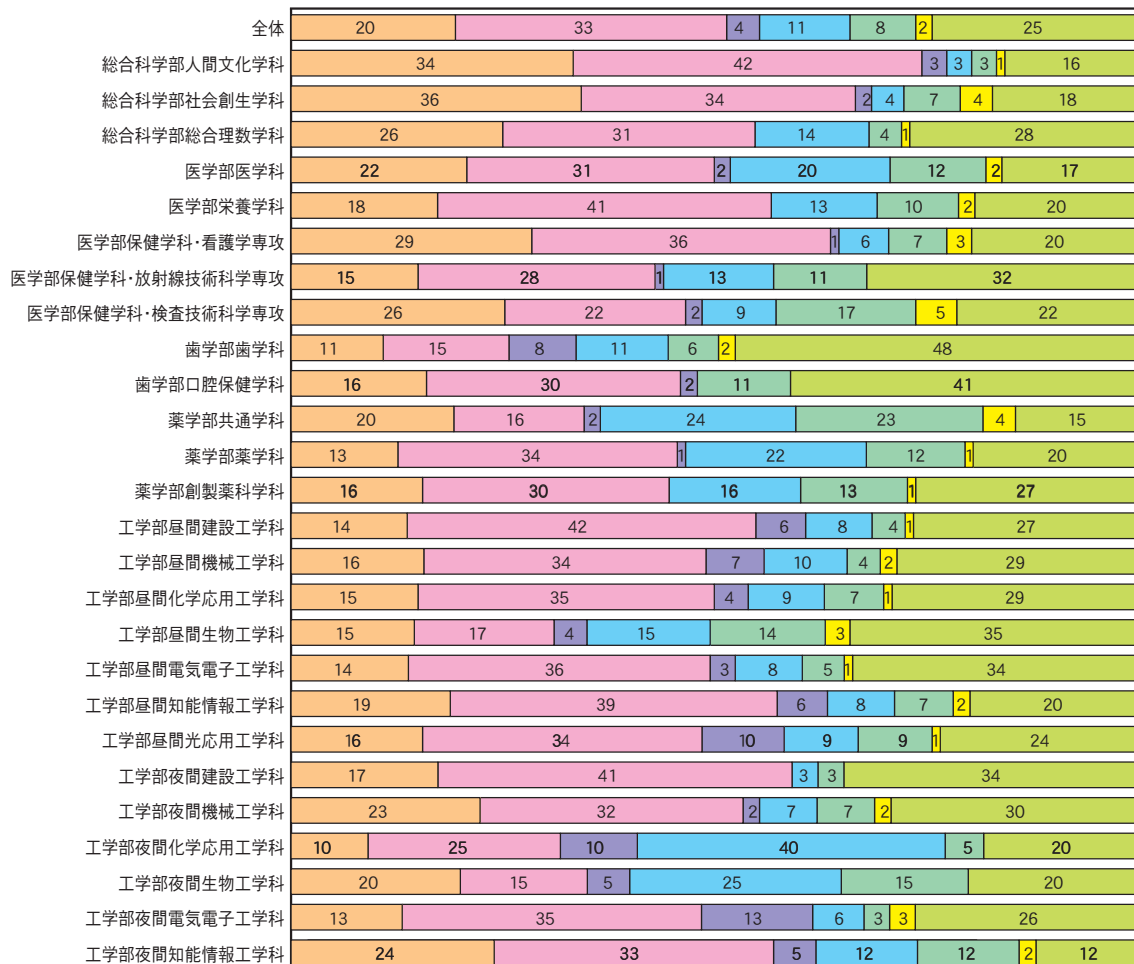
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

3-18 高校での未履修科目を大学で履修しない理由

復習科目を履修しない理由としては、全体的に「2. 不都合を感じない」が多いが、人間文化学科・社会創生学科では「1. 他に受けたい授業がある」が目立ち、医学科と薬学部共通学科・薬学科では「4. 自分で学習可能」がやや多い傾向にある。

問 26 高校で履修していない物理，化学，生物について，全学共通教育の自然科学入門を受講しなかった方は，その理由は何ですか。（複数回答可）

(%)



■ 1. 他に受けたい授業があった ■ 2. 不都合を感じない
■ 3. 希望したが抽選に漏れた ■ 4. 自分で学習可能
■ 5. 受講したかったが、時間割に余裕がなかった ■ 6. その他
■ 無回答

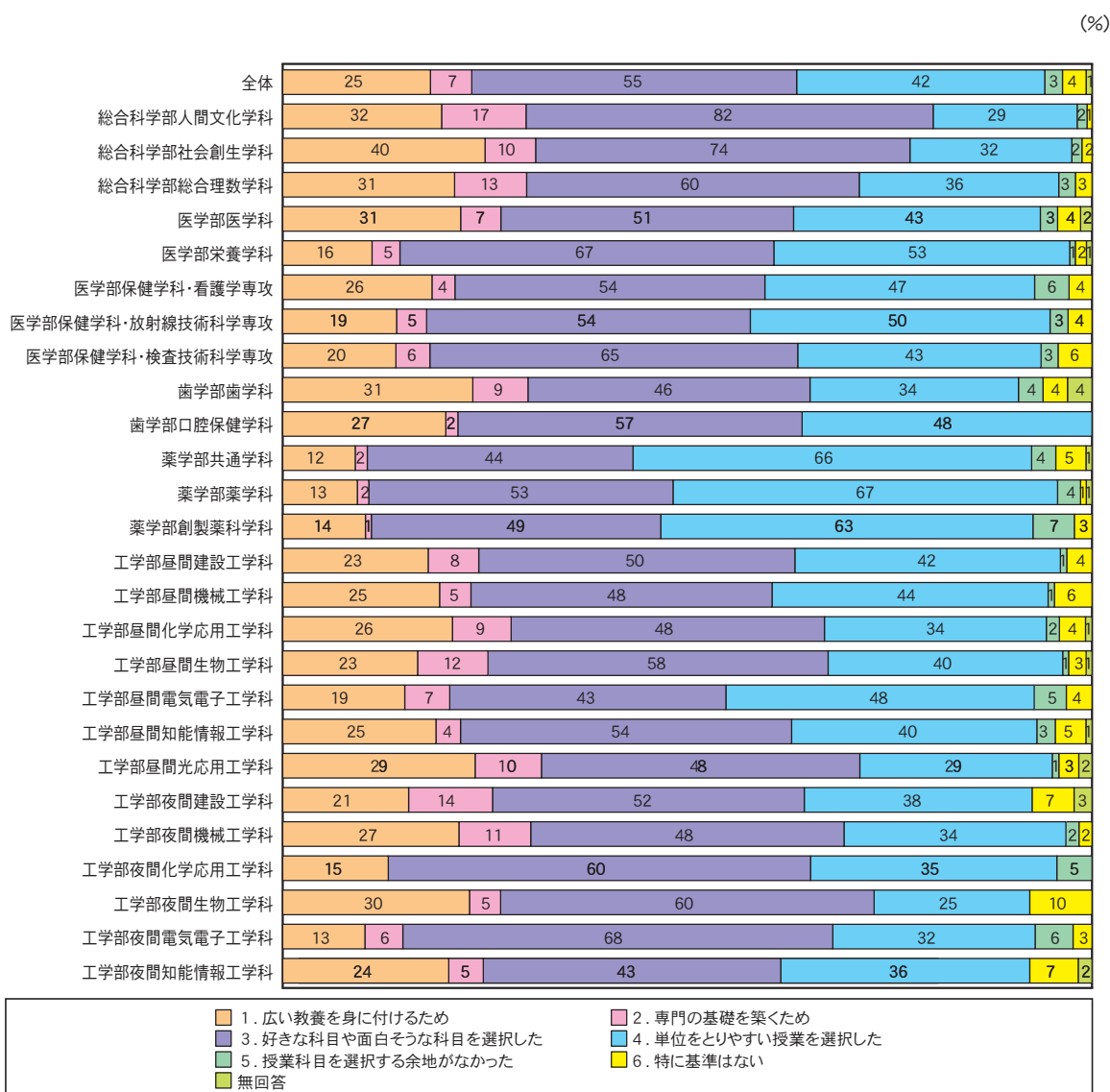
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

第4章 全学共通教育の授業について

4-1 科目の選択基準

受講する科目の選択基準は、全体として「3. 好きな科目・面白そうな科目」という回答が多いが、薬学部では「4. 単位をとりやすい授業」が60%を超えて最も多い。配属の関係から、このような傾向があると思われる。

問 27 全学共通教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

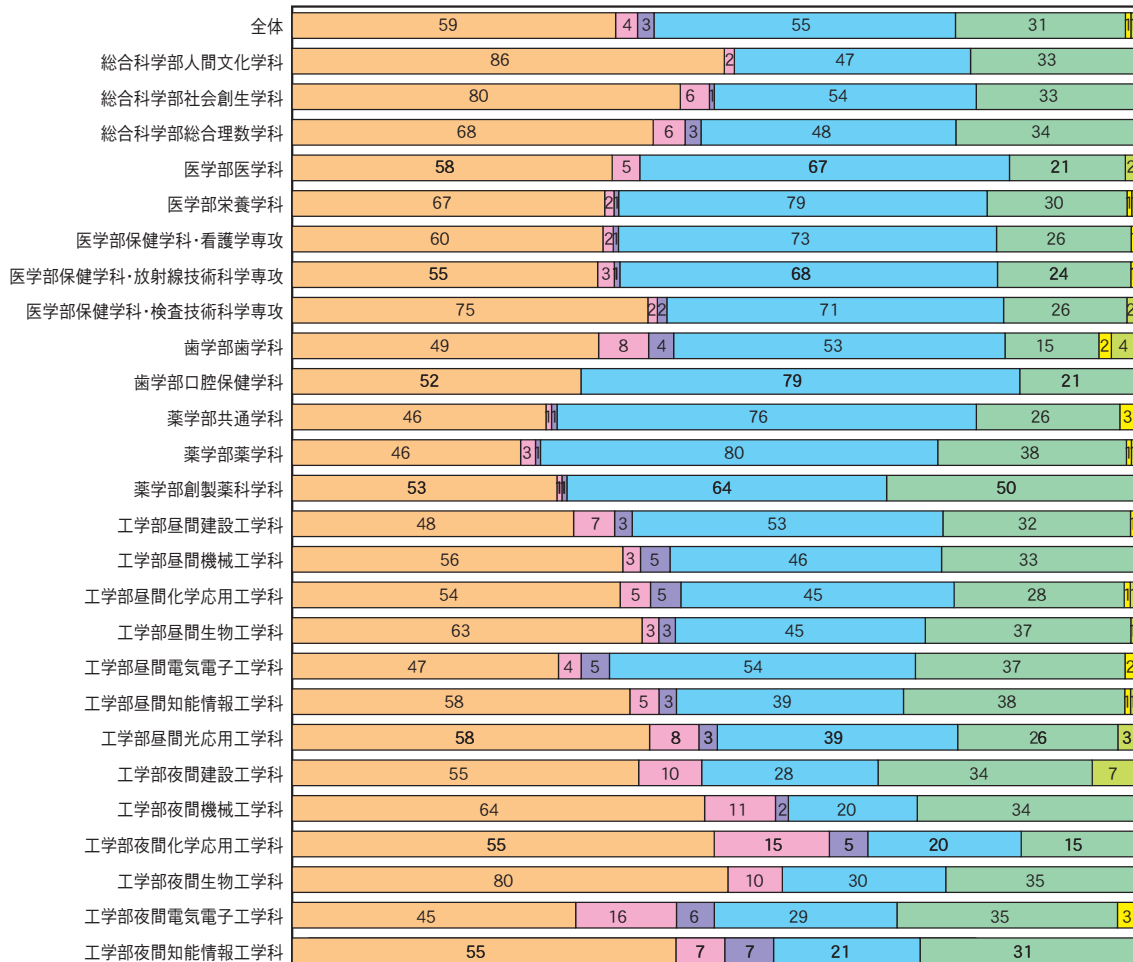


4-2 科目選択の情報源

受講科目の選択時の情報源は、「1. シラバス」と「4. 先輩」からの回答が多いが、常三島地区にある総合科学部・工学部では「1. シラバス」が多く、蔵本地区にある医学部・歯学部・薬学部では「4. 先輩」が多い傾向にある。

問 28 全学共通教育の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

(%)



- 1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
- 2. 教員からの助言や情報
- 3. 事務職員からの助言や情報
- 4. 先輩からの助言や情報
- 5. 友人からの助言や情報
- 6. その他
- 無回答

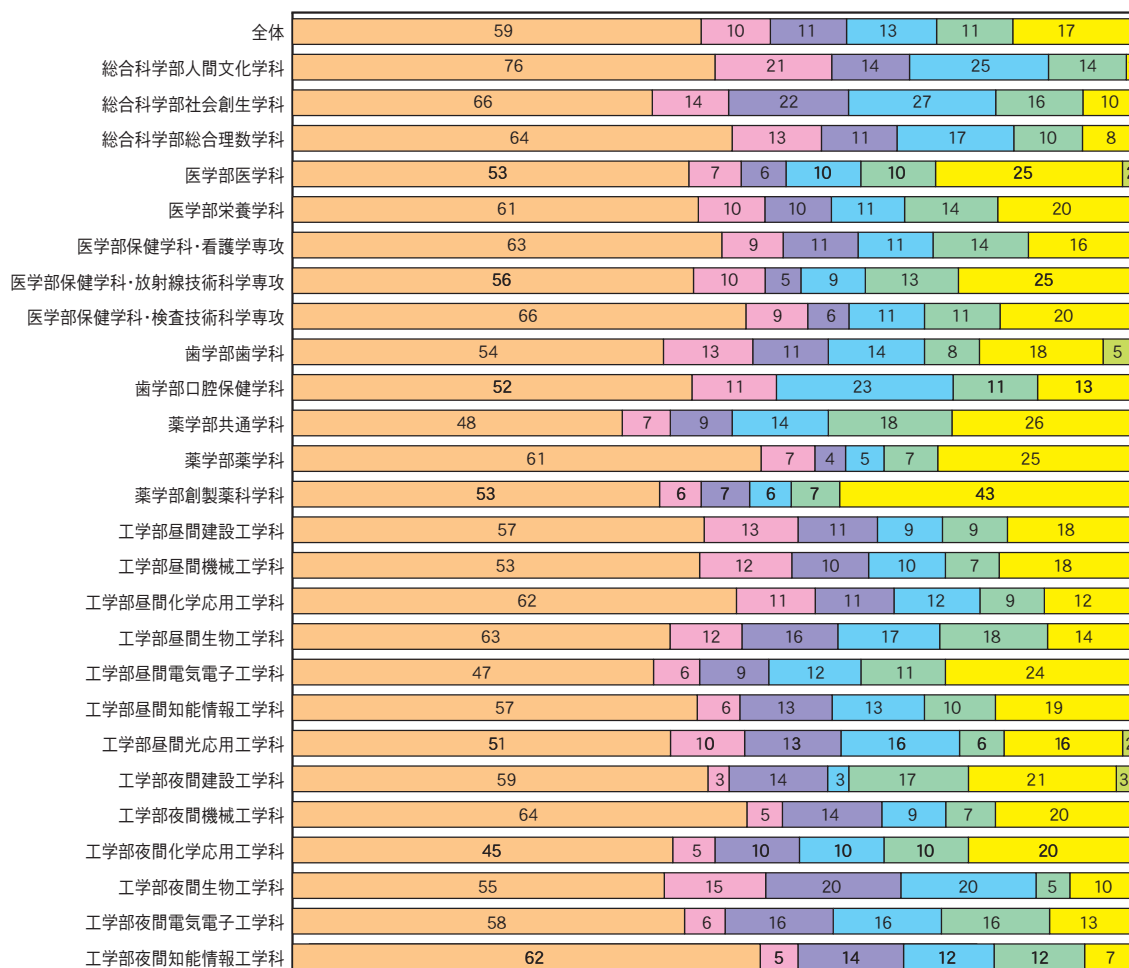
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

4-3 授業を受けて学び得たこと

全学共通教育科目で得られたものとして、ほとんどの学科で「1. 教養が身に付いた」という回答が50%を超えているが、創製薬科学科では「6. 得るものがない」が目立つ。

問 29 全学共通教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと思いますか。(複数回答可)

(%)

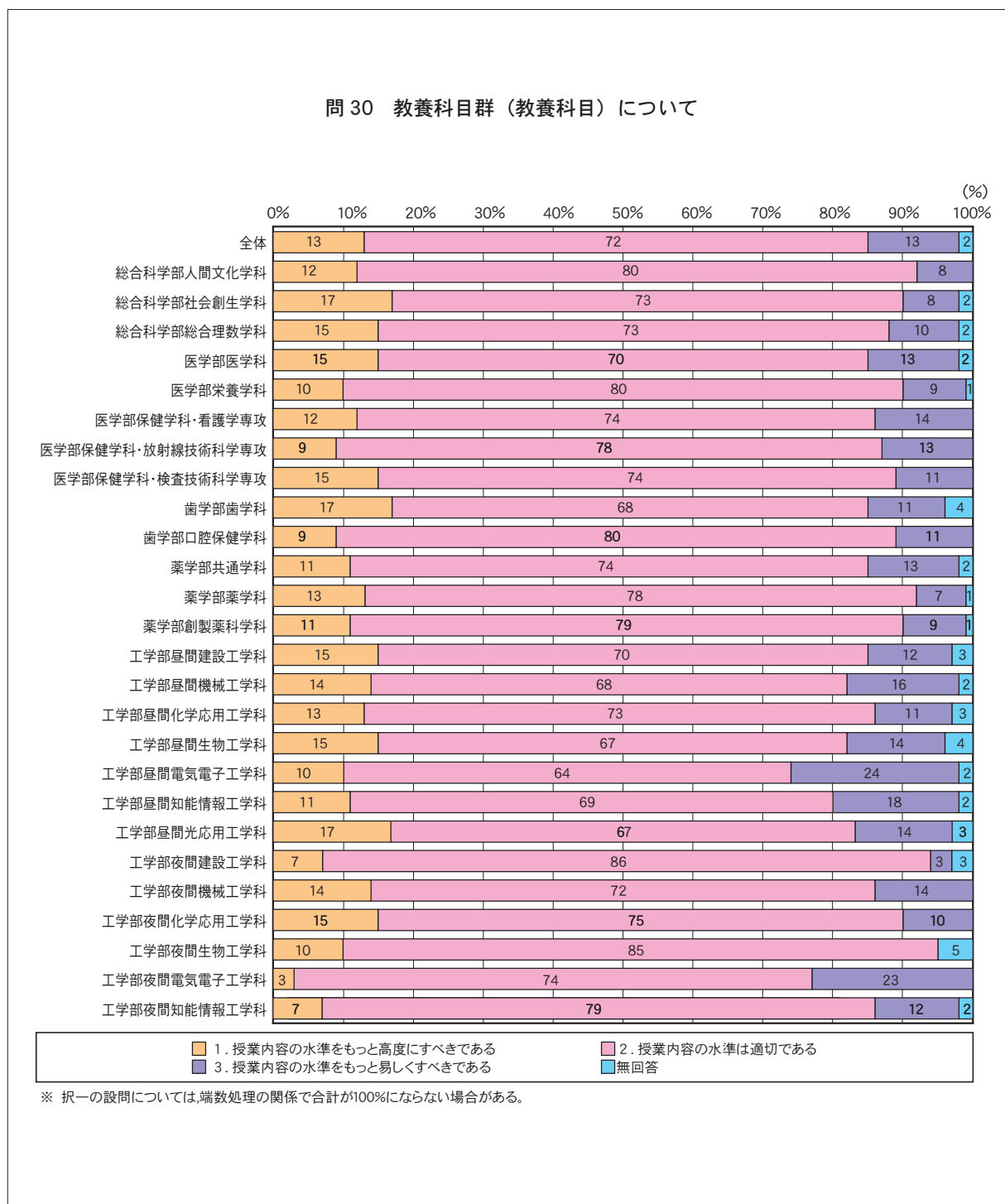


- 1. 広い教養を身に付けるのに役立った
- 2. 専門の基礎を築くのに役立った
- 3. 自分の進路について広い視野で考えることができたようになった
- 4. 学問・研究に興味を持った
- 5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
- 6. 特に得るものはなかった
- 無回答

※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

4-4 教養科目群（教養科目）について

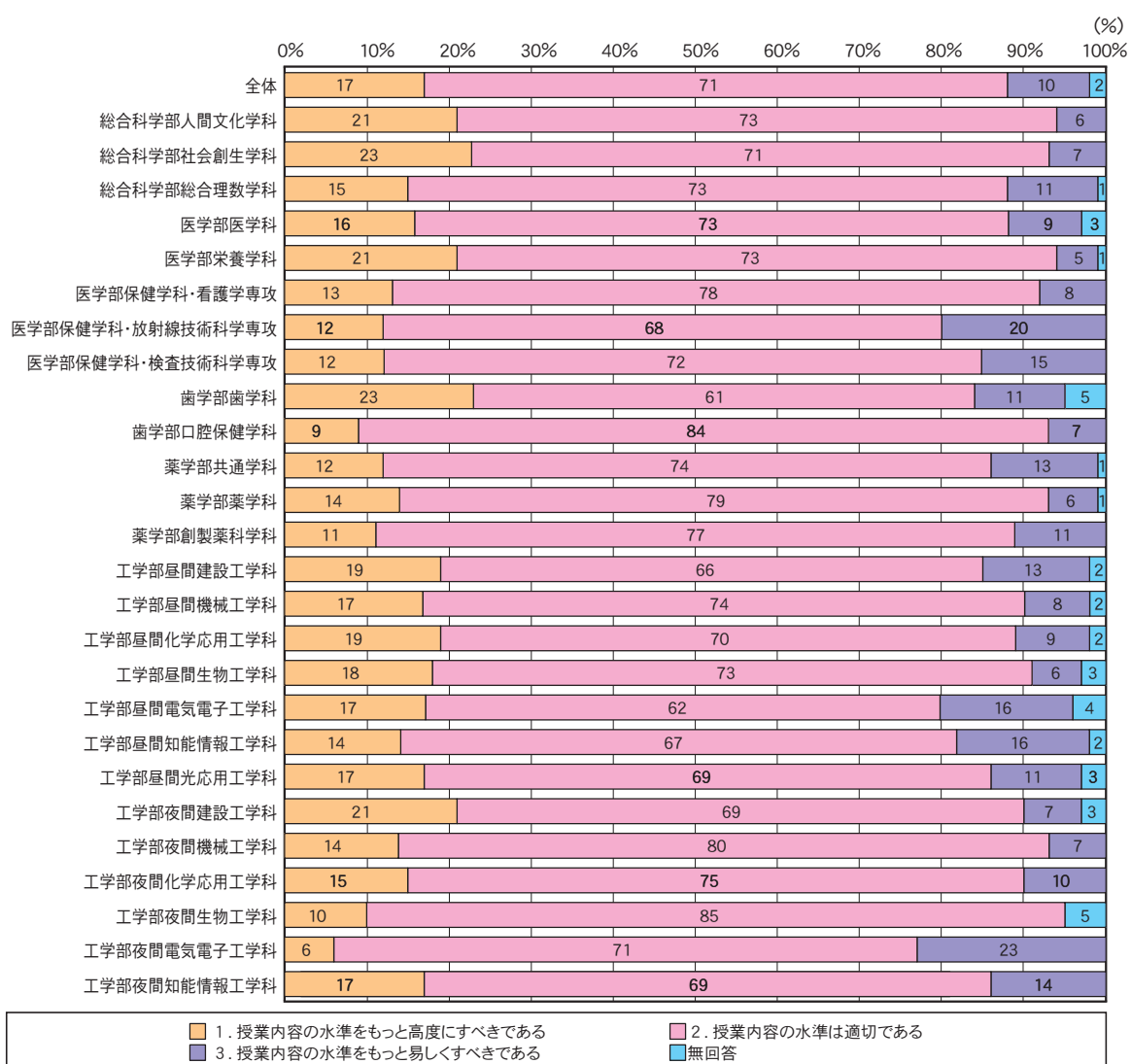
教養科目の難易度については、全体的に「2. 適切な水準」という回答が60%～80%程度となっており、特に学生の不満は少ないと思われる。



4-5 基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について

語学や健康スポーツ科目の難易度については、全体的に「2. 適切な水準」という回答が60%～80%程度となっているが、問30に比較すると「1. もっと高度に」が目立つ学科もあり、学科によっては授業にやや物足りなさを感じている学生もいるようである。

問31 基盤形成科目群（外国語科目・健康スポーツ科目）について

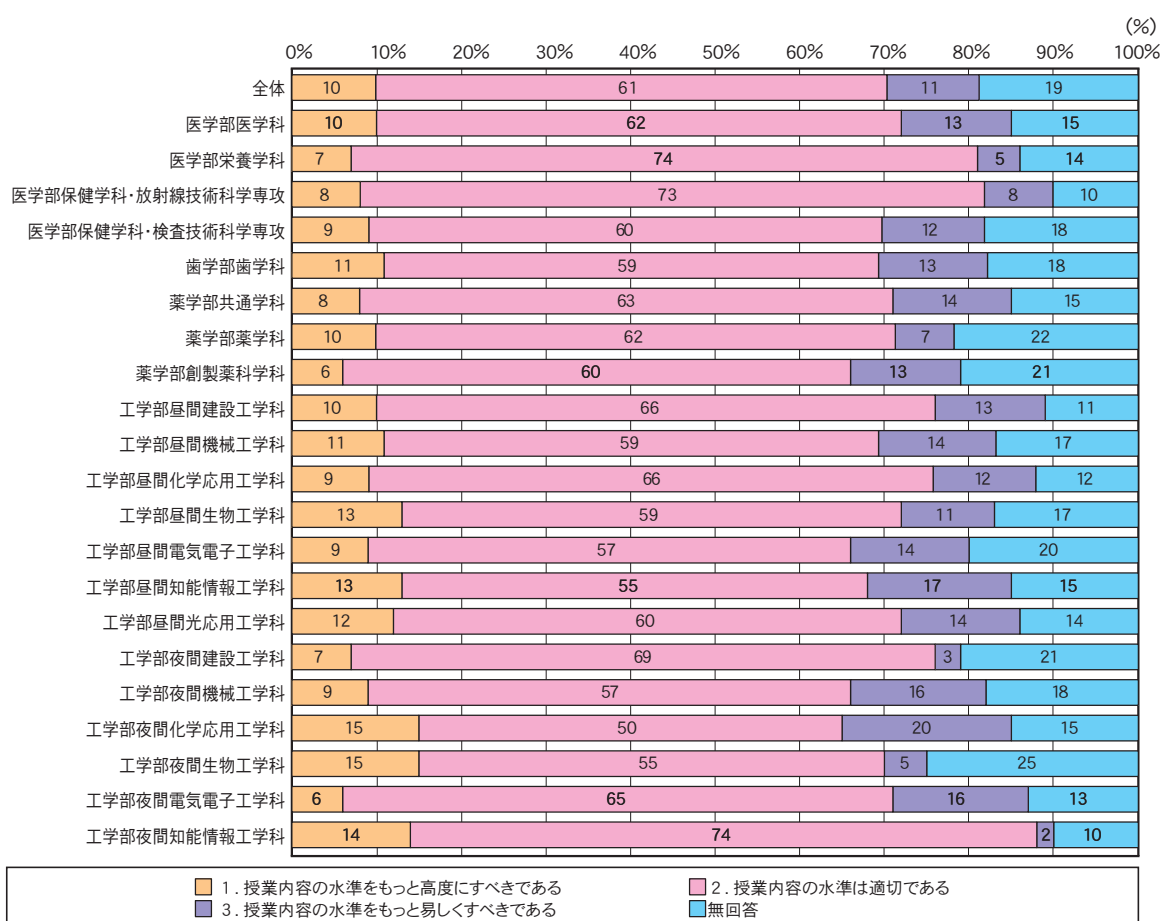


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

4-6 基礎科目群（基礎教育科目）について

基礎科目の難易度については、全体的に「2. 適切な水準」という回答が50%～75%程度と、前2問よりも少し低めである。ただし、無回答も20%前後あり、回答のあった範囲では、問30の回答比率とそれほど違いはなく、学生の不満は少ないと思われる。

問32 基礎科目群（基礎教育科目）について（履修している方のみお答えください。）



※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

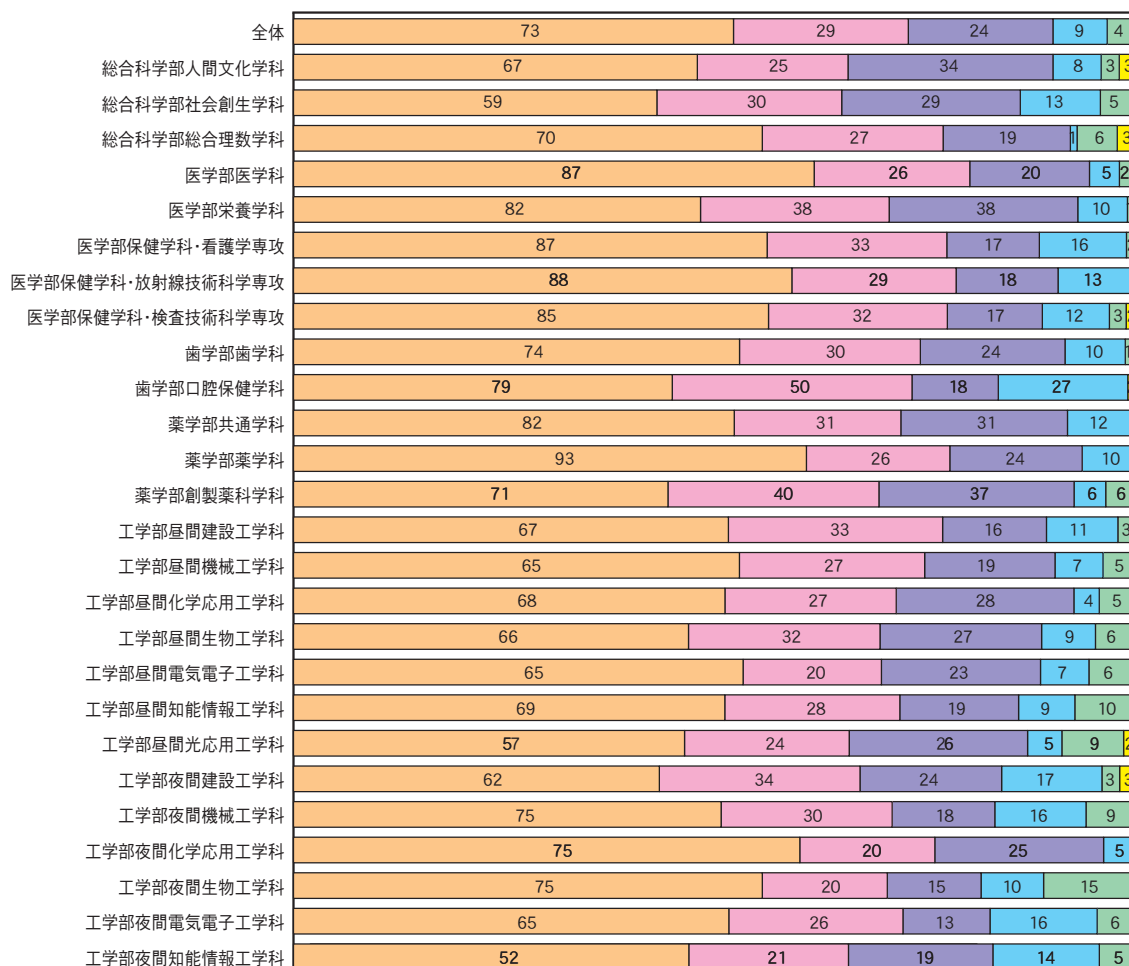
第5章 専門教育の授業について

5-1 授業を受けて学び得たこと

専門教育科目で得られたものとして、全ての学科で「1. 専門の知識」が50%を超えており、特に、医学部では80%を超えている。次いで「2. 自分の進路について考えることができるようになった」と「3. 学問・研究に興味を湧いた」が多い。「4. 社会で役立つ能力」は全体として少ない。

問33 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができたと感じますか。(複数回答可)

(%)

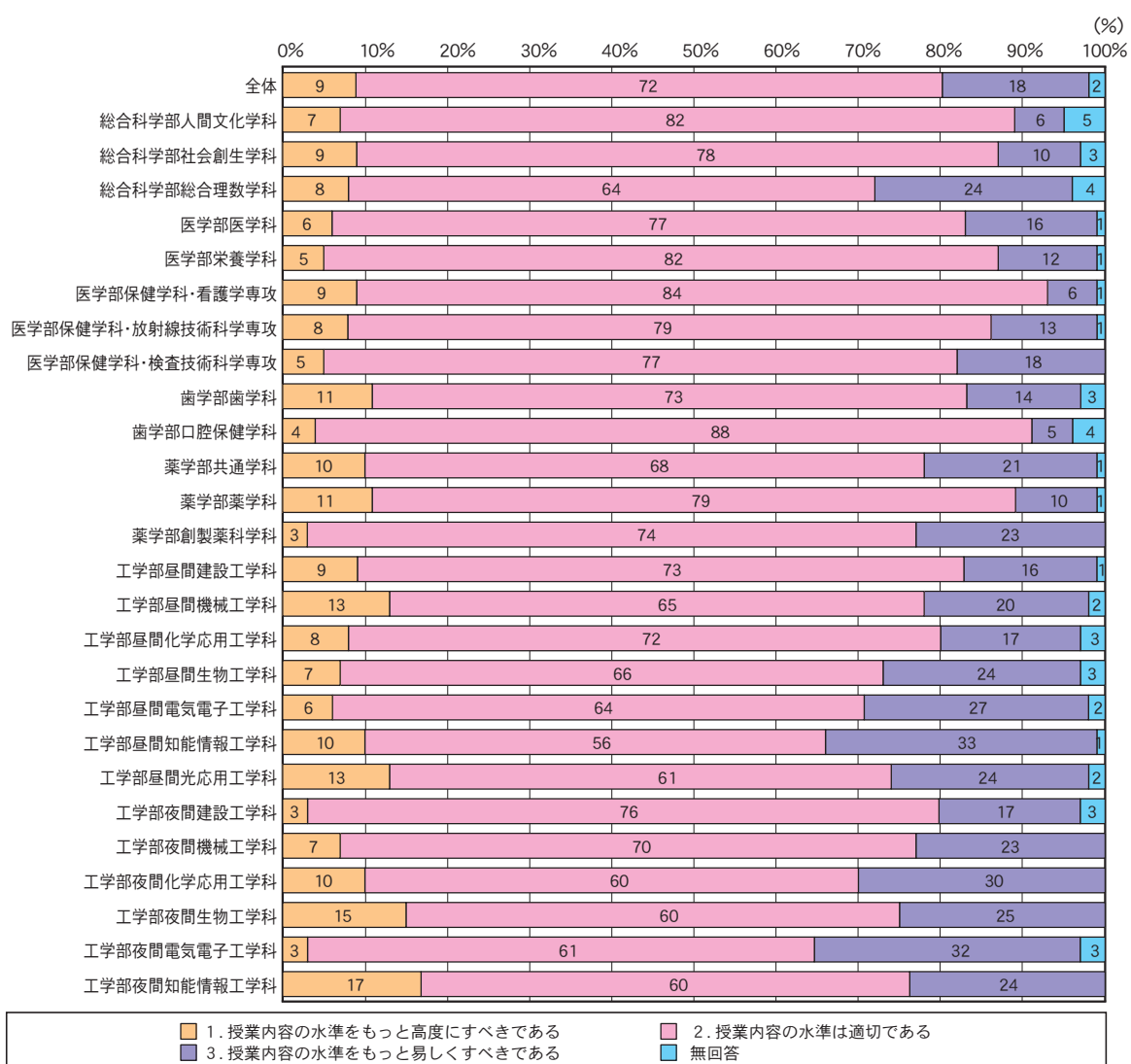


※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

5-2 授業内容の難易度

授業の難易度は、全ての学科で「2. 適切」が60%～85%となり、おおよそ授業の難易度は適切と考えられる。ただし、総合理数学科・工学部の一部の学科などにおいて「3. 易くすべき」という意見も目立ち、科目によっては難しく感じているものもあると考えられる。

問 34 授業内容の難易度についてどう思いますか。

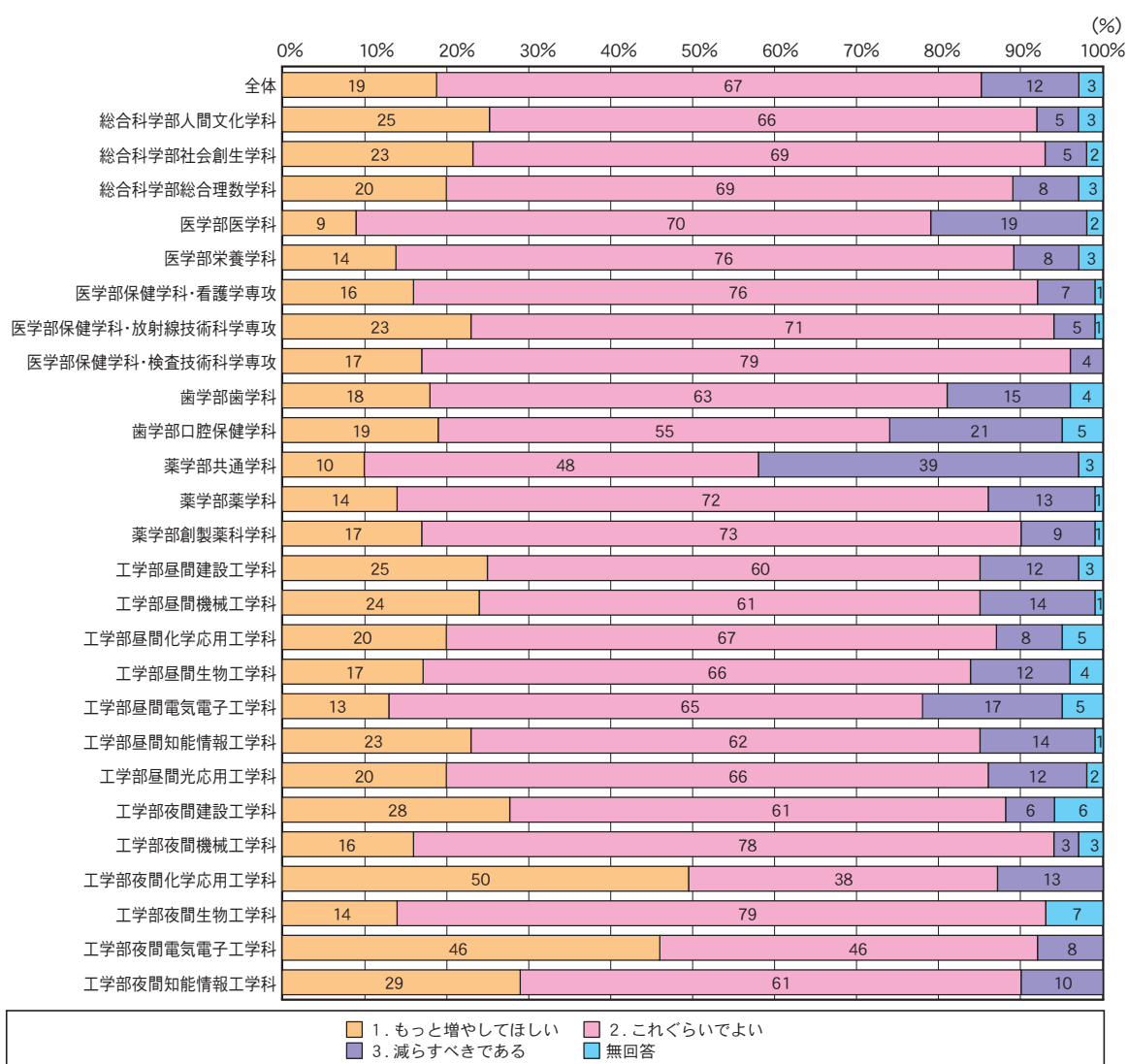


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

5-3 実習形式の授業時間数に対する希望

実習形式の授業は、ほとんどの学科で「2. これぐらいでよい」が60～70%を占める。ただし、薬学部共通学科では「4. 減らすべき」が4割近くある。逆に、夜間化学応用工学科・夜間電気電子工学科では、「1. 増やしてほしい」が多い。

問 35 実習形式の授業時間数についてどう思いますか。(2年生以上)



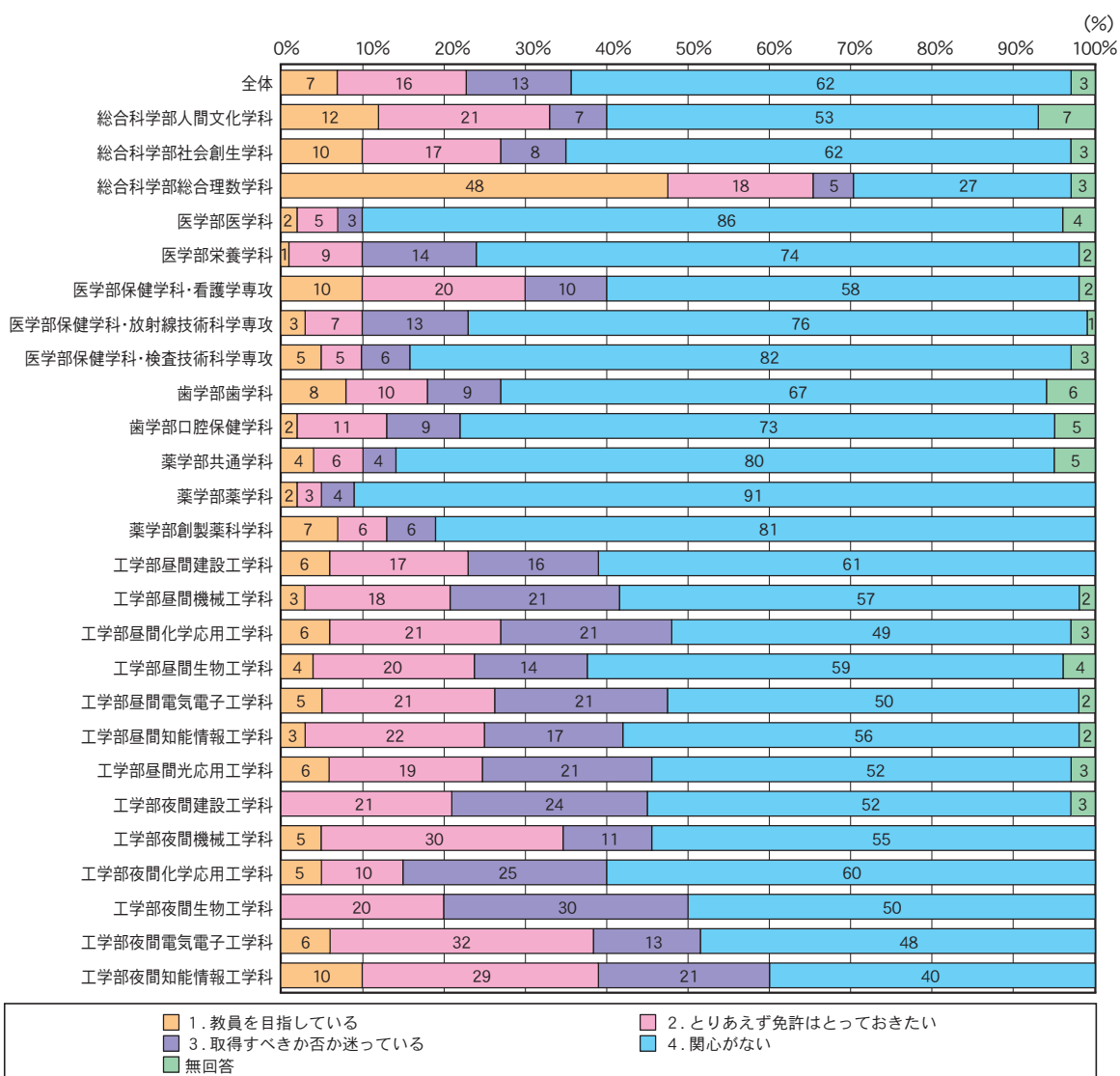
※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

第6章 免許・資格について

6-1 教員免許取得に興味のあるもの

教員免許については、総合理数学科の半数近くが「1. 教員を目指している」と回答しており、「2. とりあえずとっておきたい」と合わせると60%を超えている。また、総合科学部・保健学科看護学専攻・工学部でも「2. とりあえずとっておきたい」と「3. 迷っている」が多い。学生全体の1/3程度が教員免許の取得に関心を持っていることが分かる。

問 36 教員免許の取得に興味がありますか。



※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

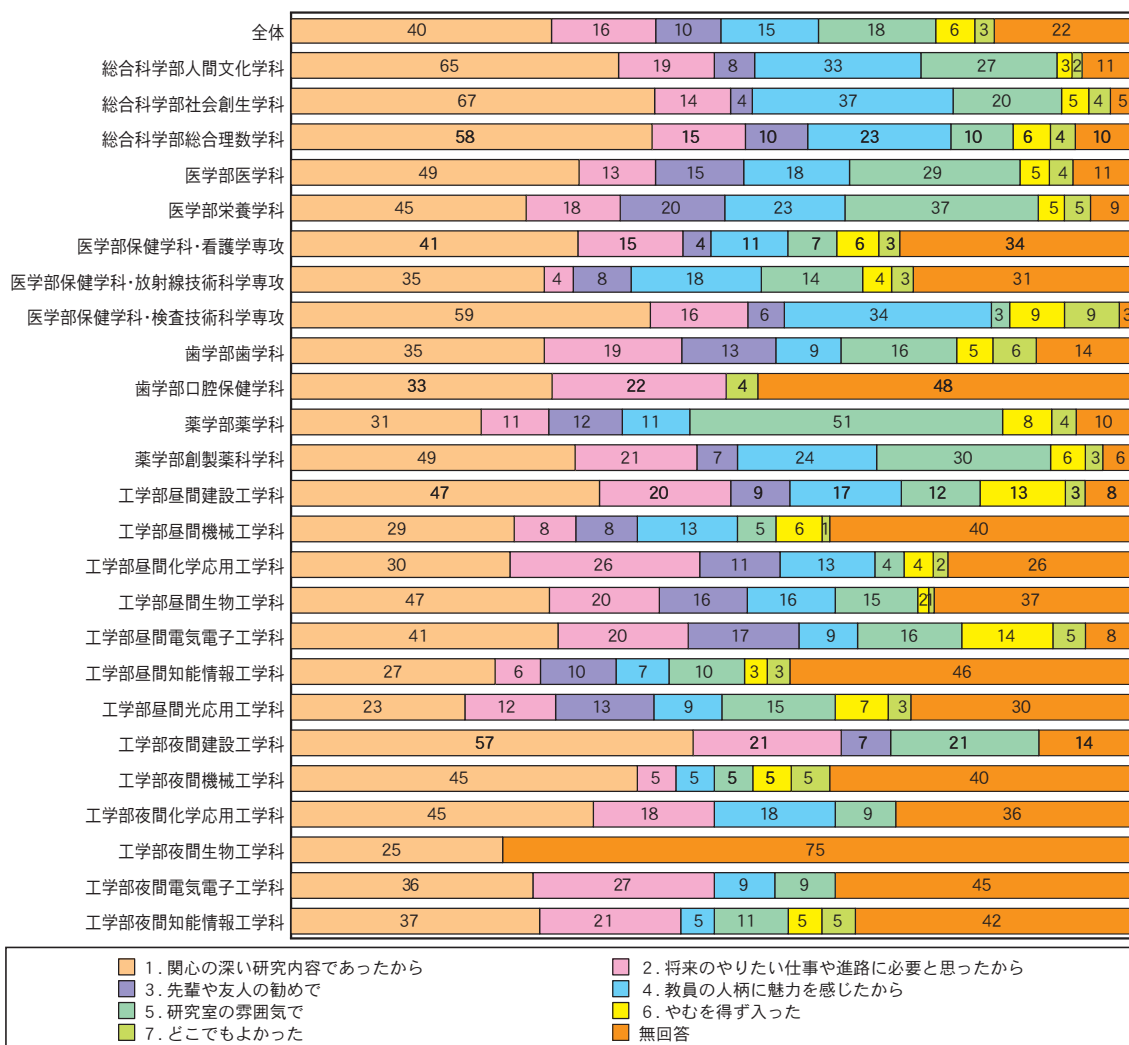
第7章 卒業研究，医学研究実習，研究基礎ゼミについて

7-1 研究室選考の基準

研究室の選択基準は，ほとんどの学科で「1. 研究内容」が多いが，「4. 教員の人柄」や「5. 研究室の雰囲気」などを考慮している学生も多い。特に，薬学科では「5. 研究室の雰囲気」が目立つ。

問 37 卒業研究または医学科では医学研究実習，歯学科では研究基礎ゼミの研究室をどういう基準で決めましたか。（複数回答可）

(%)

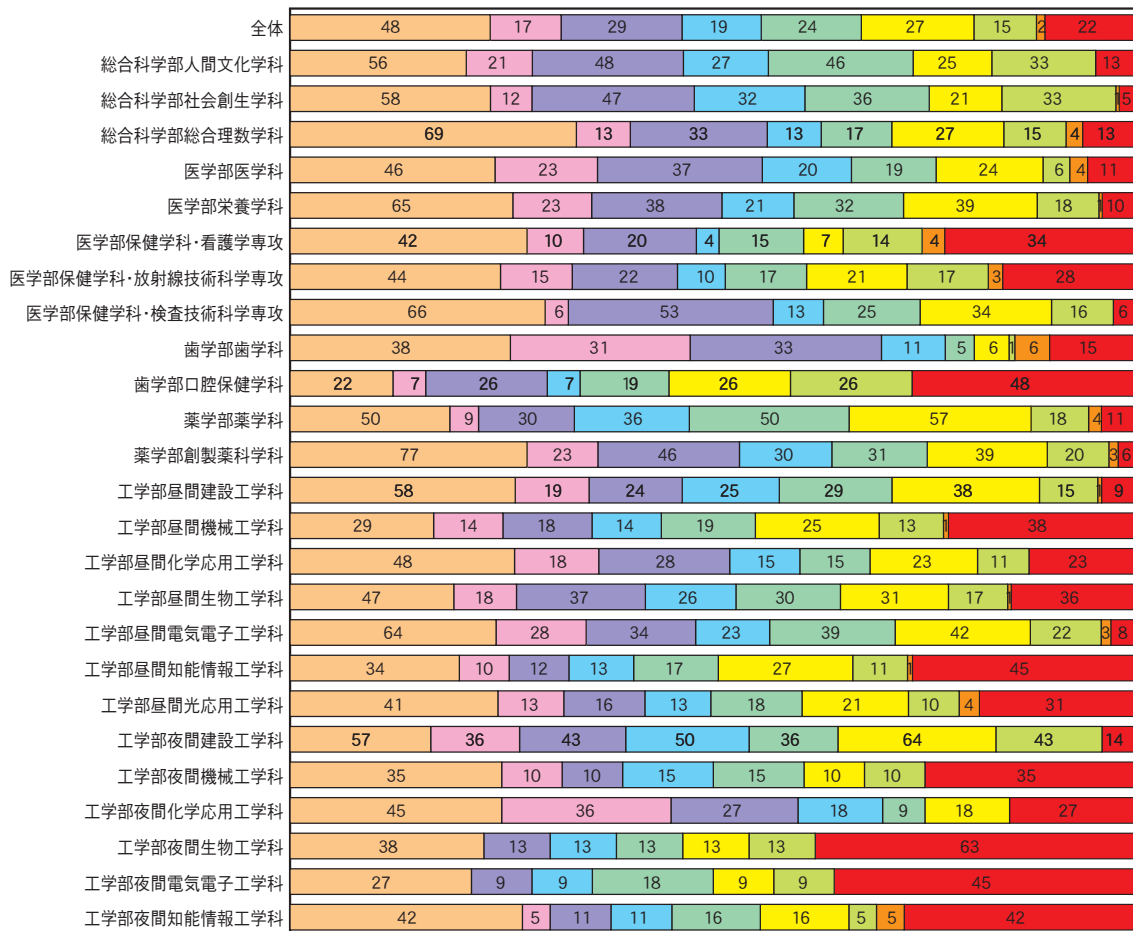


7-2 卒業研究, 医学研究実習, 研究基礎ゼミで学び得たこと

卒業研究等で得られることは「1. 専門的知識」が最も多いが、「3. 知的好奇心」「6. プレゼンテーション能力」「5. 課題発見・問題解決能力」などの回答も多い。

問 38 卒業研究, 医学研究実習 (医学科), 研究基礎ゼミ (歯学科) によって
何が得られると思いますか。(複数回答可)

(%)



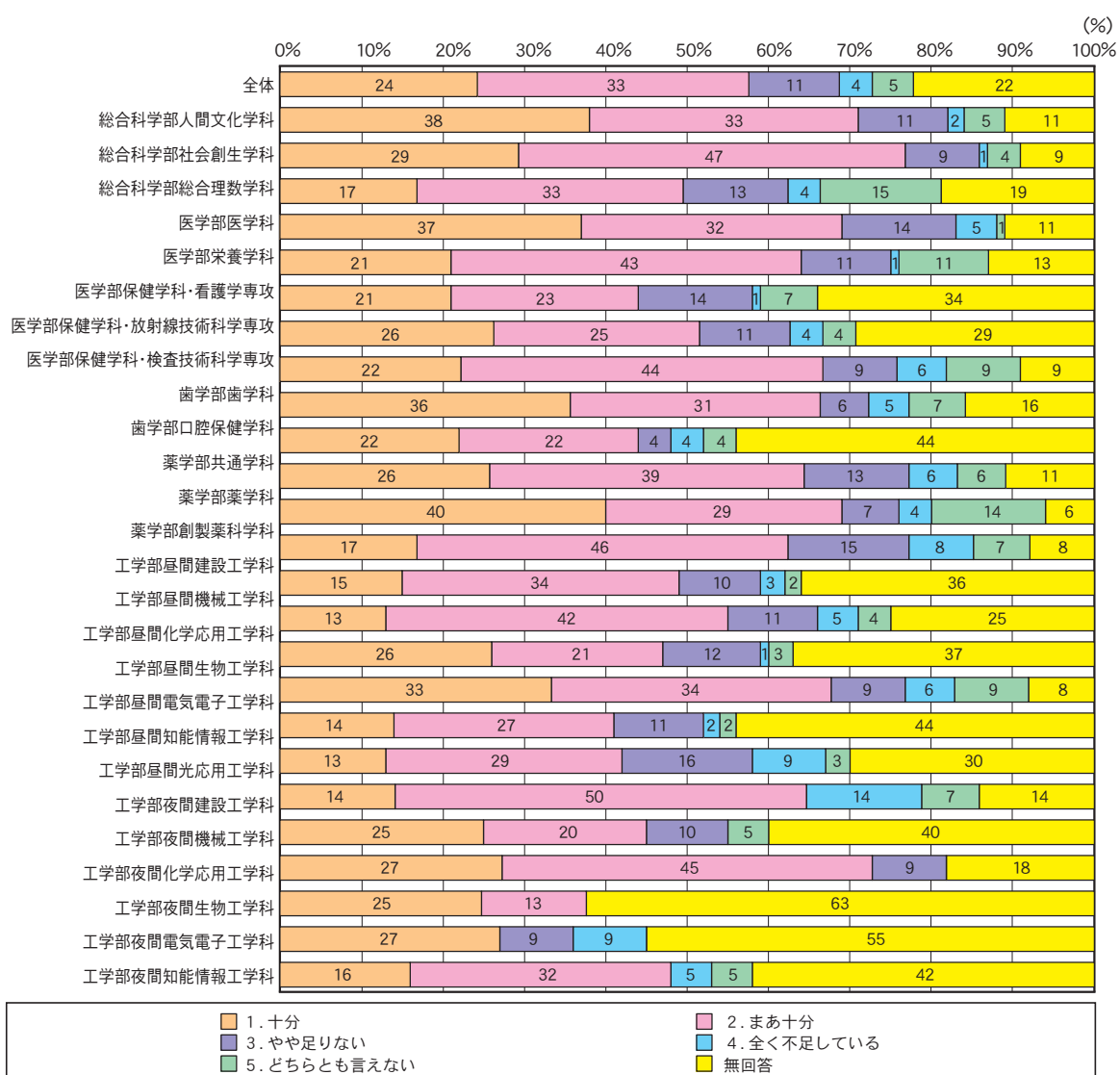
- 1. 専門的知識や技術
- 2. 進路を考えるための広い視野
- 3. 学問・研究への興味や知的好奇心
- 4. コミュニケーション能力や対人関係能力
- 5. 課題発見能力や問題解決能力
- 6. プレゼンテーション能力
- 7. 文章作成能力
- 8. 特に得るものがない
- 無回答

※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。
 ※ 全学部1, 2年を除く。

7-3 教員, TAによる研究指導時間の満足度

教員, TAの指導の時間は, 無回答を除けば, 「1. 十分」「2. まあ十分」が多く, 特に不足を感じている学生は少ないと言える。

問 39 教員, TAの研究指導(データの相談, 実験指導等)の時間は十分でしたか。

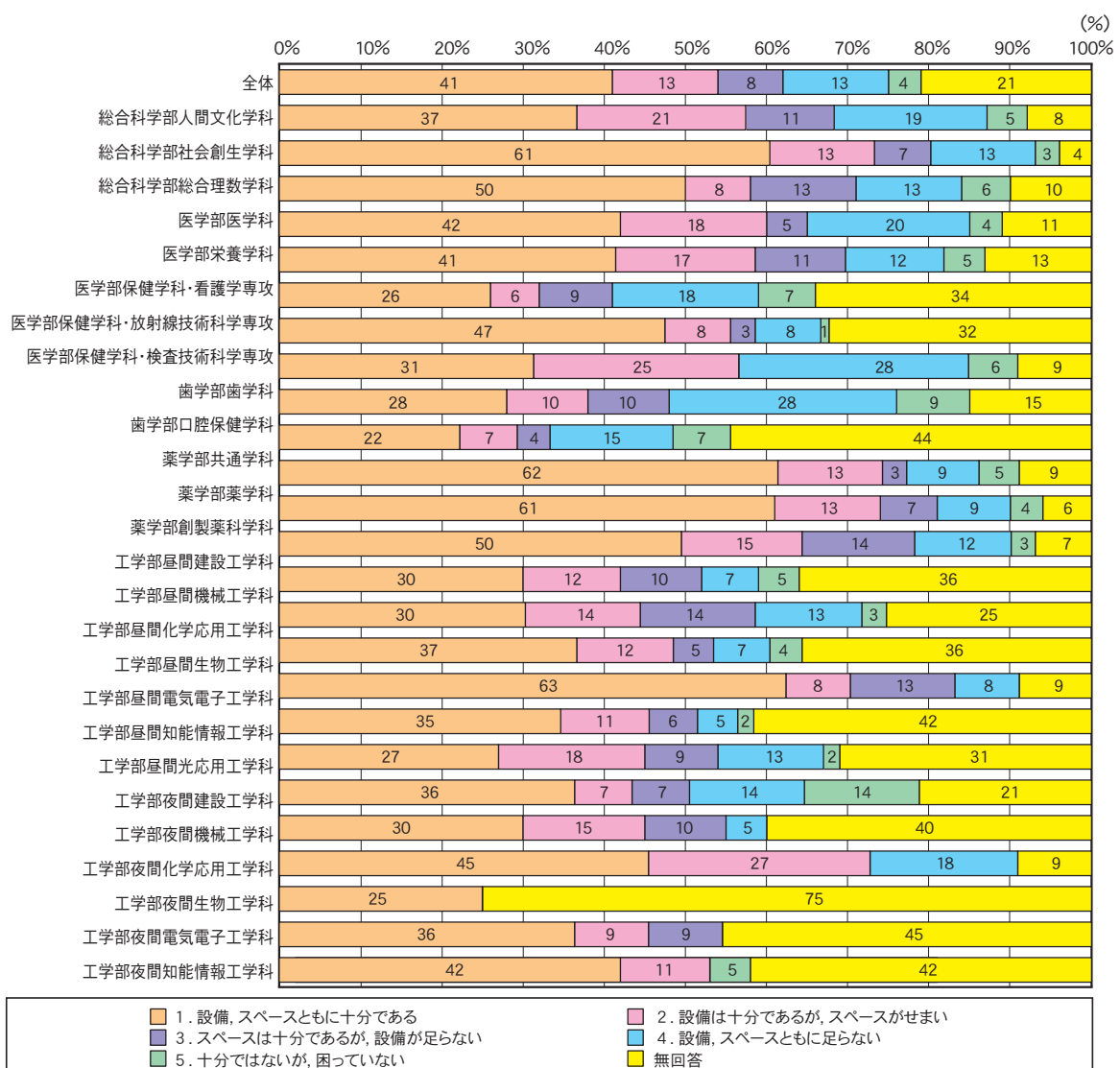


※ 択一の設問については, 端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。
 ※ 全学部1, 2年を除く。

7-4 学習（自習）設備、スペースの満足度

学習のための設備・スペースについては、無回答を除けば、「1. 十分である」が多い。ただし、保健学科検査技術科学専攻・歯学科では、「4. 設備、スペースともに足りない」が3割近くあり、やや目立つ。

問40 学習（自習）を進めるための設備、スペースは確保されていますか。

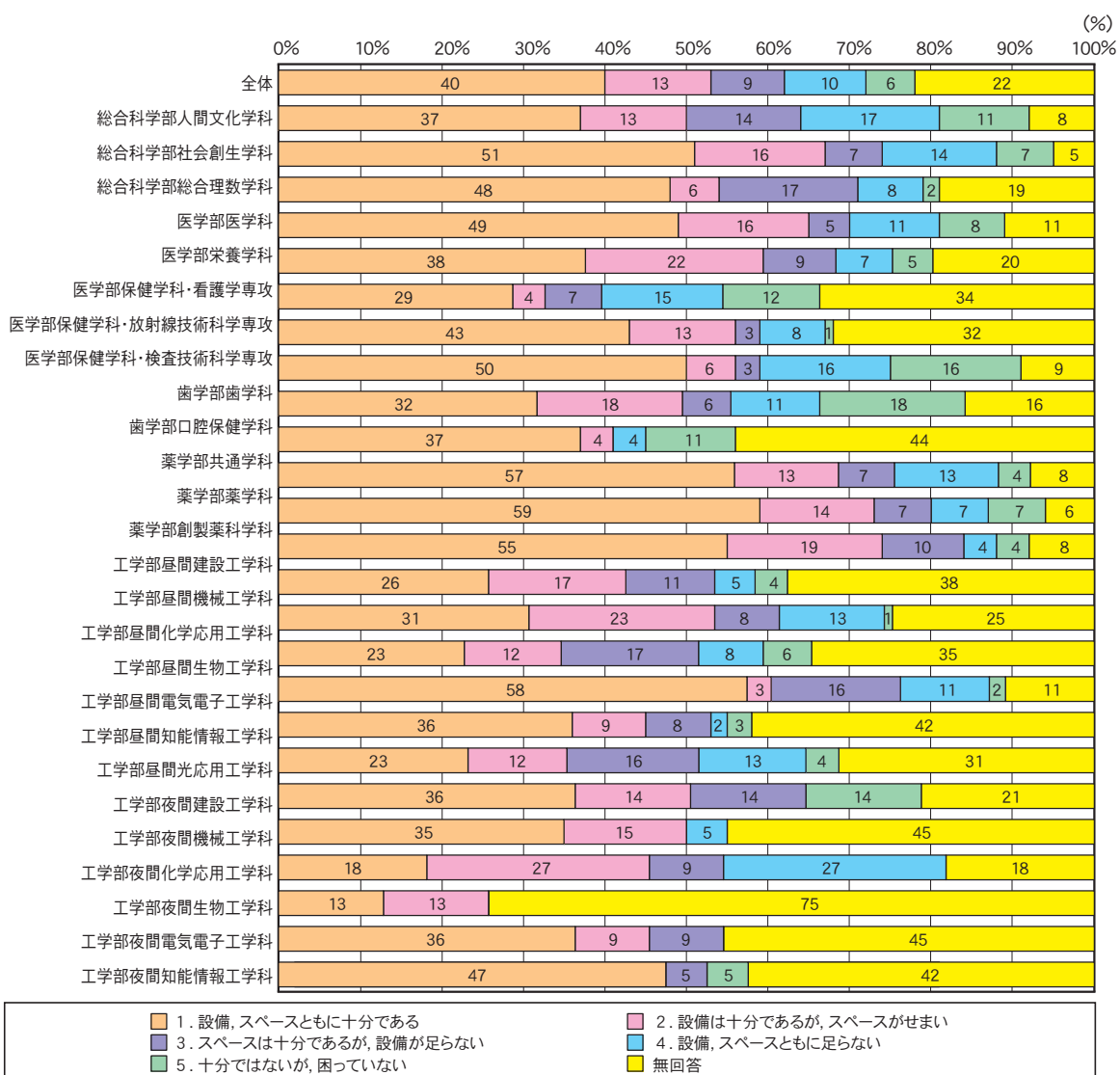


※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。
 ※ 全学部1, 2年を除く。

7-5 研究設備, スペースの満足度

研究のための設備・スペースについては、無回答を除けば、「1. 十分である」が多い。ただし、夜間化学応用工学科では、「4. 設備, スペースともに足りない」という回答がやや目立つ。

問41 研究を進めるための設備, スペースは確保されていますか。



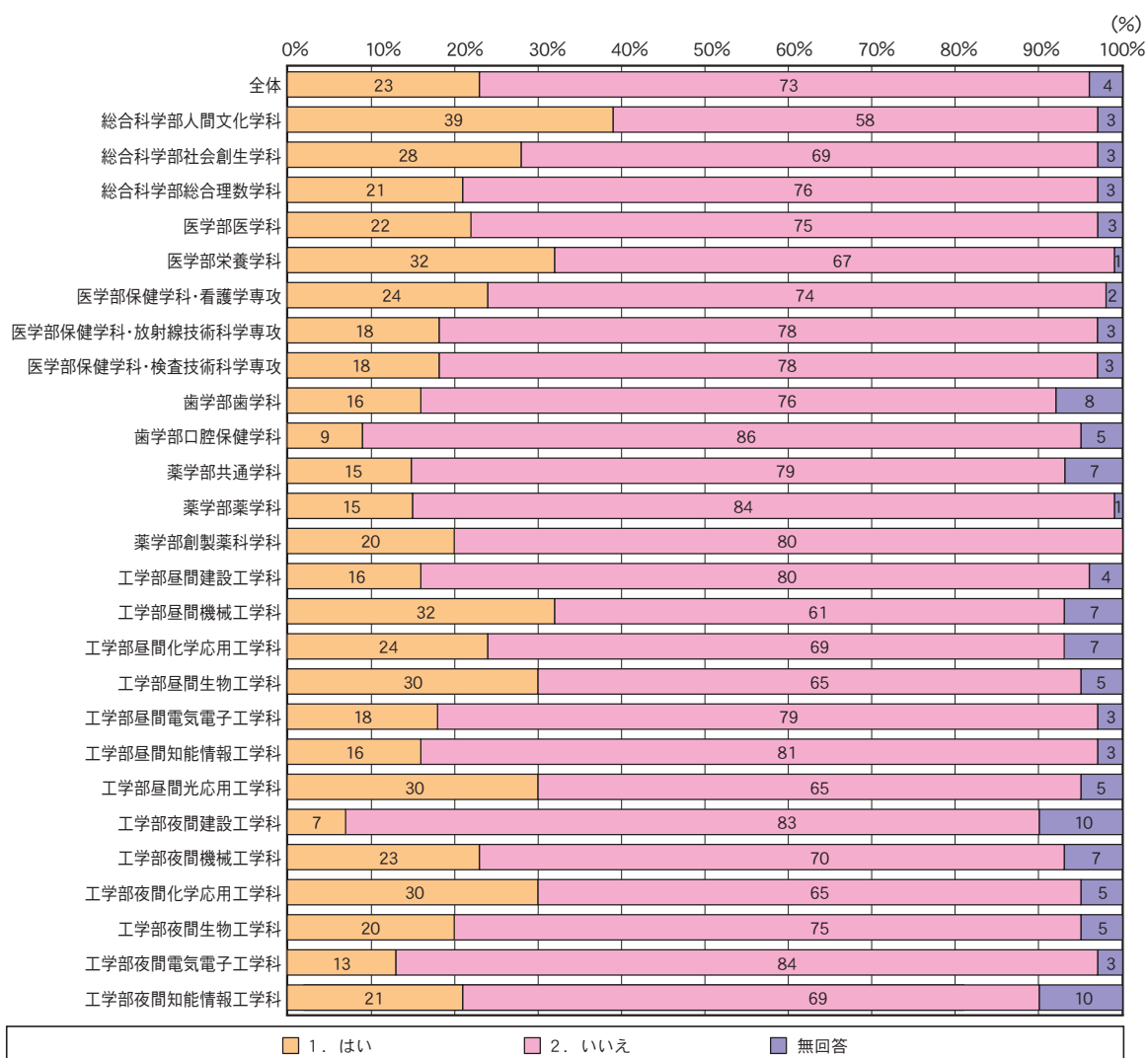
※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。
 ※ 全学部1, 2年を除く。

第8章 英語学習・教育について

8-1 英語学習の時間

英語の定期的な学習は、全体的に「1. いいえ」が7～8割を占めるが、人間文化学科では「1. はい」が4割近くある。

問42 英語は毎日または定期的に勉強していますか。



※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

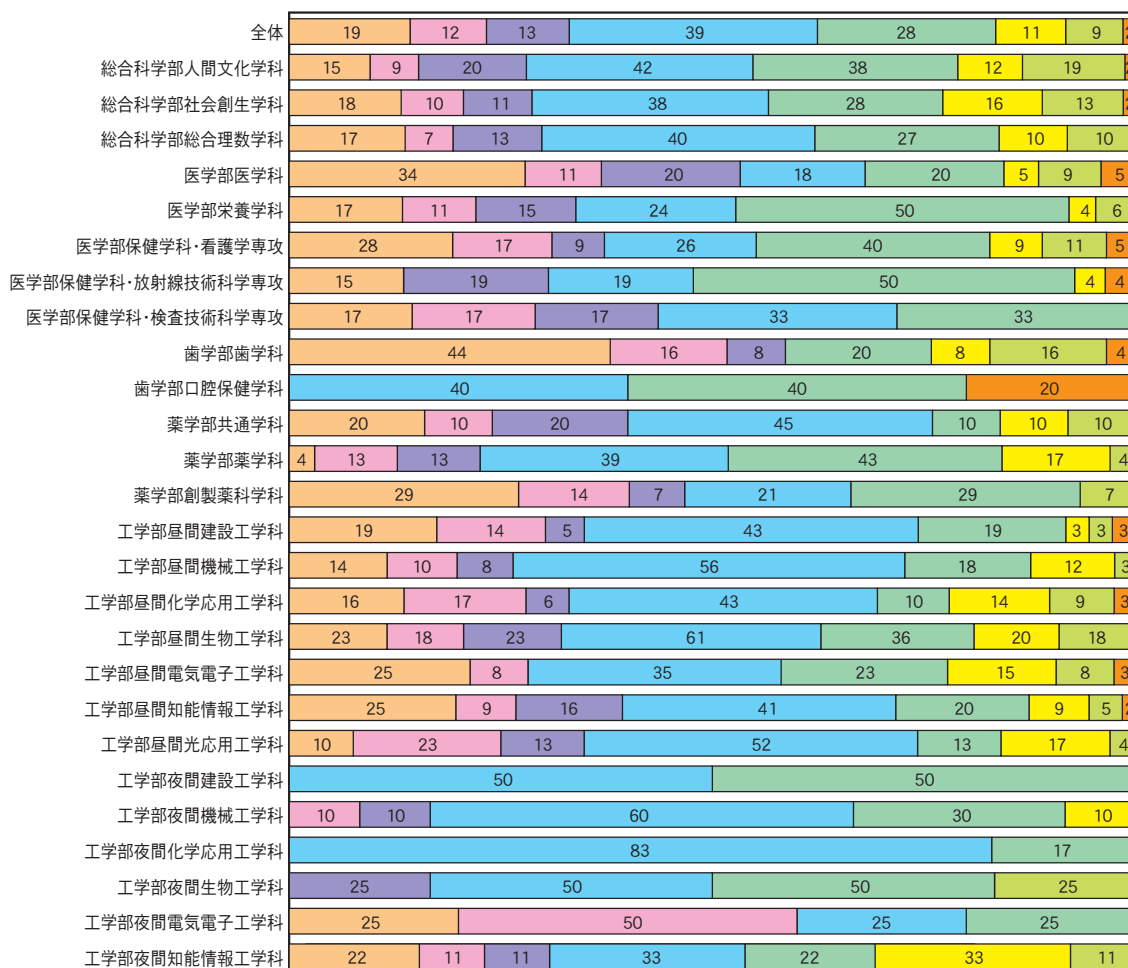
8-2 英語の学習方法

英語の学習の方法としては、全体として「4. TOEICなどの参考書や問題集」が多く、学科によっては「5. 授業で使う教科書や英語論文」も多い。歯学科では「1. テレビ・ラジオの番組」がやや目立つ。

問43 問42で「はい」と答えた人は、質問に教えてください。

どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

(%)



- 1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
- 3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
- 4. TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
- 5. 授業で使っている教科書、英語論文をよく勉強している
- 6. TOEICや英検などの英語能力試験を定期的受験している
- 7. 留学生と交流している
- 無回答

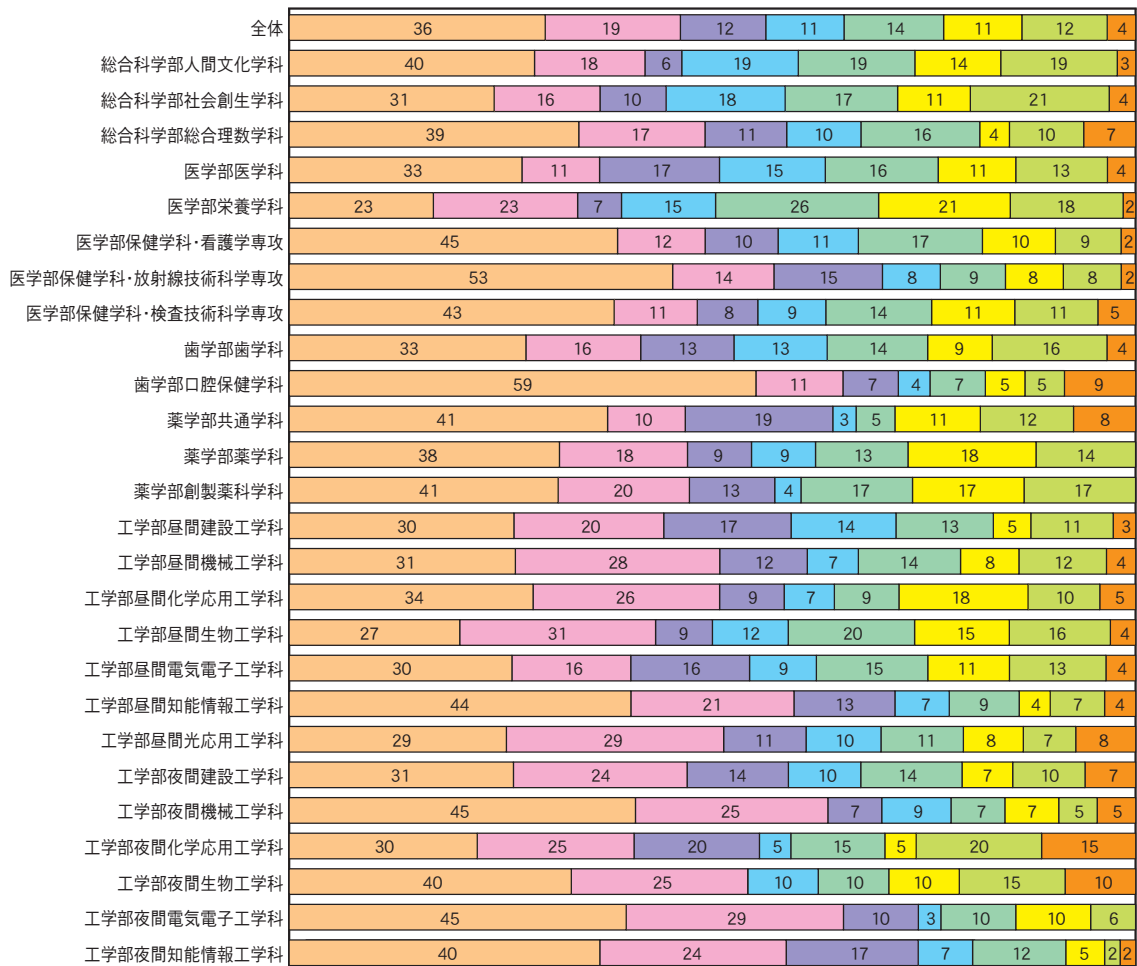
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

8-3 本学の英語教育への要望

英語教育については、全体的に「1. 十分」が多いが、「もっと授業数を増やしてほしい」が目立つ学科もある。学科によって意見が分かれるが、「4. 少人数にしてほしい」「5. ネイティブ教員を増やしてほしい」「6. 専門英語を増やしてほしい」「7. ライティング・会話を増やしてほしい」などの要望がやや多いところもある。

問 44 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

(%)



- 1. 全学共通教育, 専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい
- 無回答

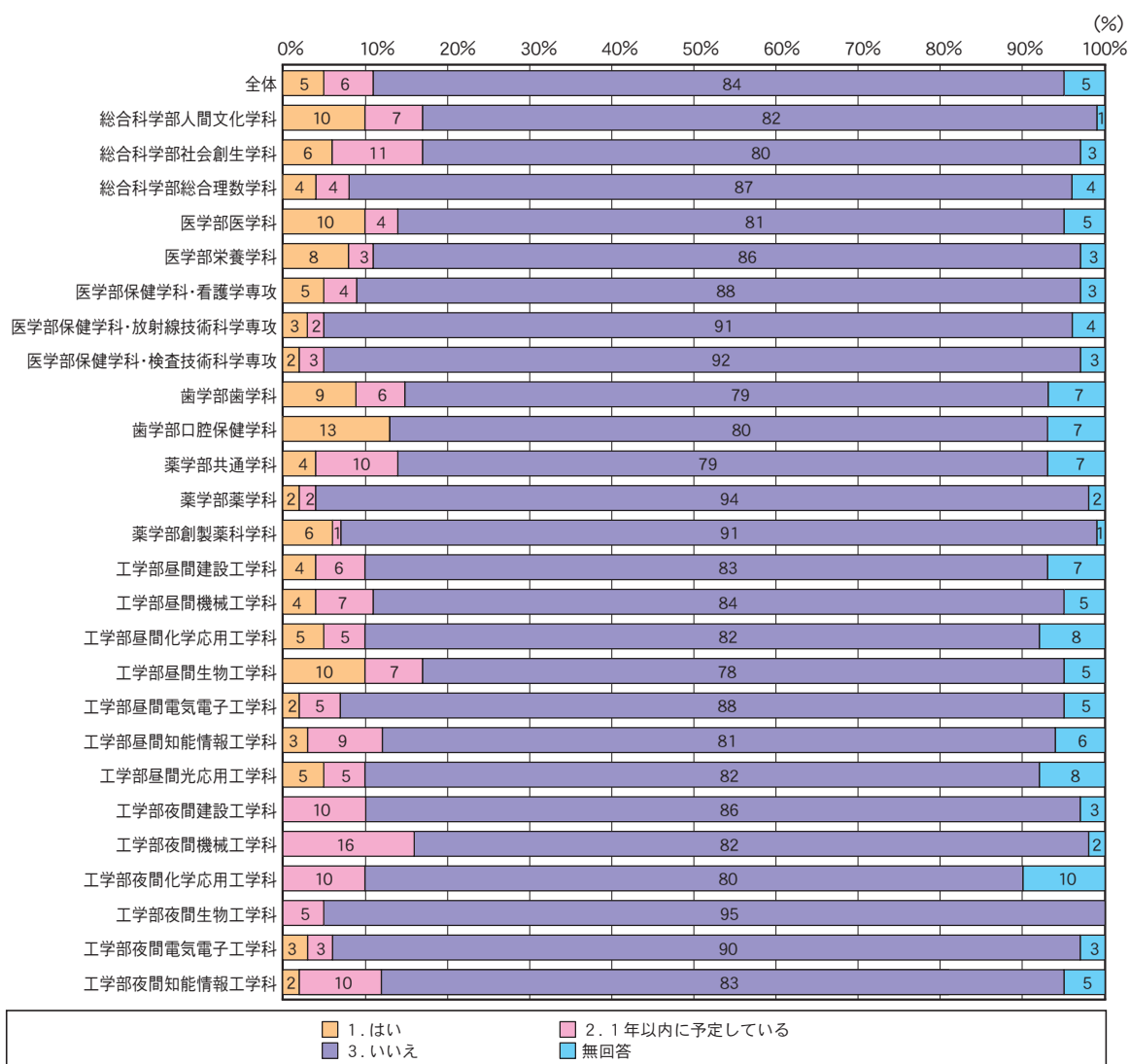
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

第9章 海外留学について

9-1 海外留学体験

留学経験の有無については、ほとんどの学科で「3. いいえ」が80～90%を占める。その中では、人間文化学科・社会創生学科・医学部・歯学部・薬学部共通学科・生物工学科で「1. はい」と「2. 1年以内に予定」を合わせて、若干多い傾向にある。

問 45 徳島大学在籍中に長期・短期海外留学を体験しましたか。



※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

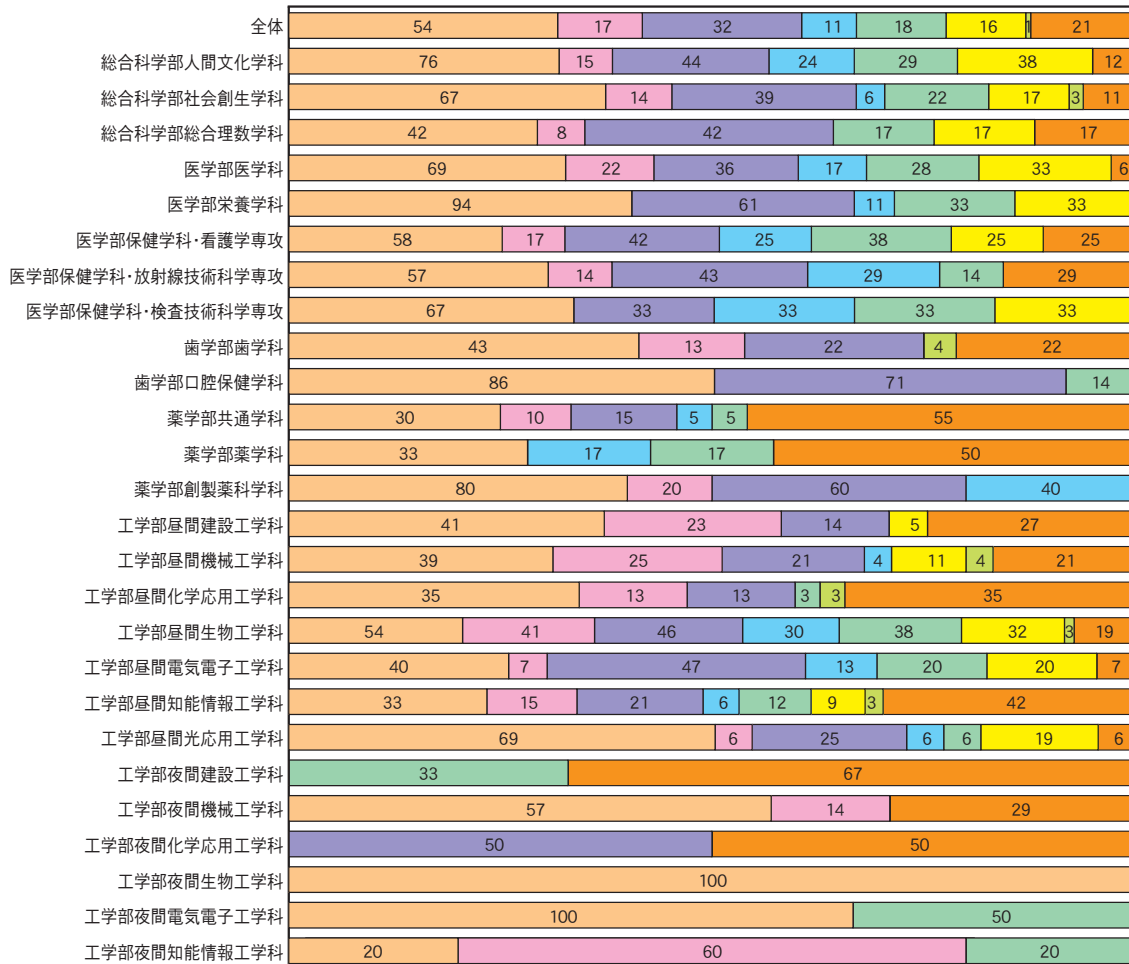
9-2 海外留学で学び得ること

留学で得られることとして、「1. 国際的感覚」が多く、「3. 進路についての広い視野」も目立つ。一方で、「2. 専門知識」という回答はあまり多くない。

問 46 問 45 で「はい」または「予定している」と答えた人は、質問に答えてください。

海外留学はどのようにその後の学習に活かされていますか。(活かされると思いますか)。(複数回答可)

(%)



- 1. 国際的感覚を身に付けるのに役立つ
- 2. 専門の知識を身に付けるのに役立つ
- 3. 自分の進路について広い視野で考えることができるようになる
- 4. 学問・研究に興味が沸く
- 5. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立つ
- 6. マナー、人格形成に役立つ
- 7. 特に思い当たらない
- 無回答

※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

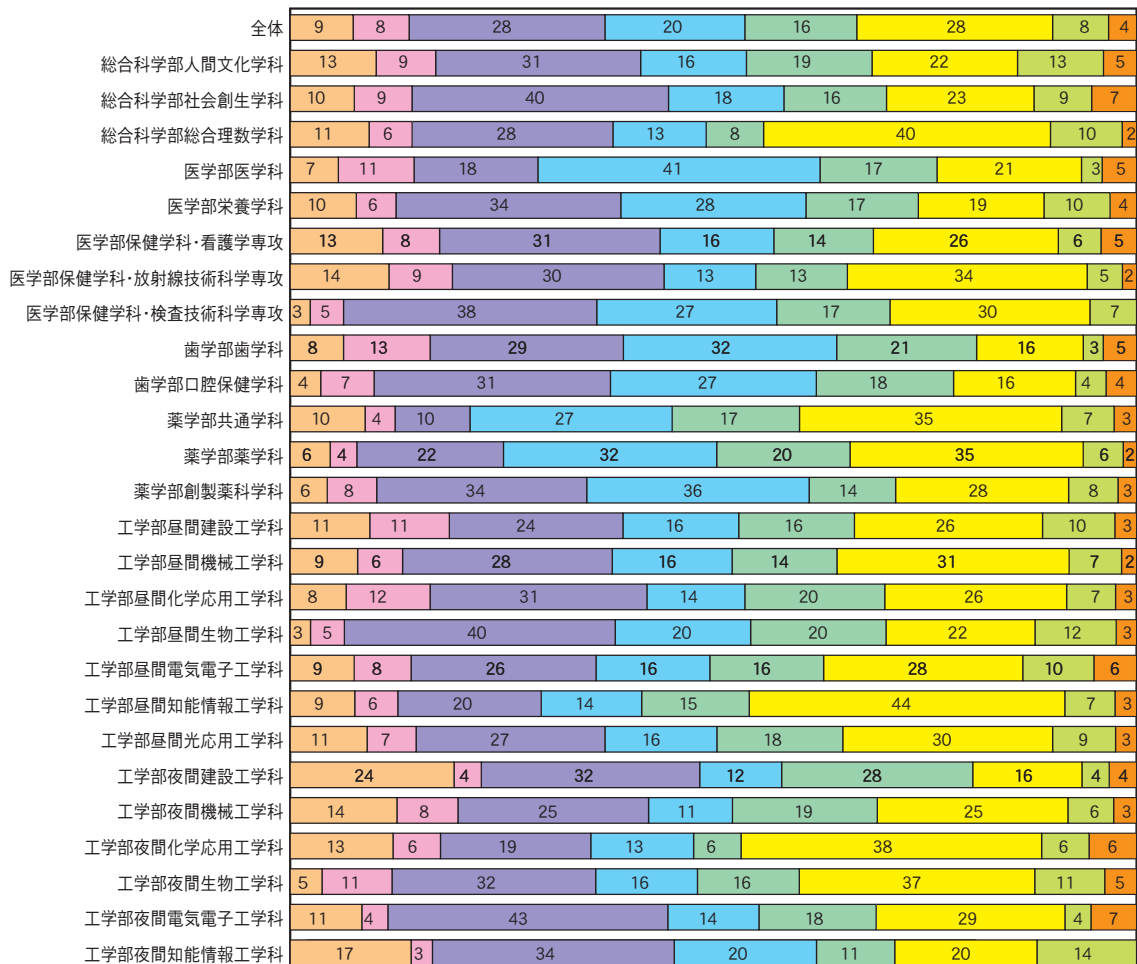
9-3 海外留学を行わない理由

留学しない理由としては、全体的に「3. 資金面」と「6. 興味ない」が多い。また、「4. 時間的余裕がない」や「5. プロセスが分からない」が多い学科もある。

問47 問45で「いいえ」と答えた人は、質問に教えてください。

海外留学を行わない理由は何ですか。(複数回答可)

(%)



- 1. 全学共通教育, 専門教育で行われる外国語教育で十分で, 海外留学に興味はない
- 2. 魅力的な海外留学プログラムがない
- 3. 海外留学を行いたい資金面が十分ではない
- 4. 専門教育においては短期でも時間的に海外留学を行う余裕はない
- 5. 留学するためのプロセスがわからない
- 6. 全く興味がない
- 7. 帰国後の就職活動に出遅れる心配がある
- 無回答

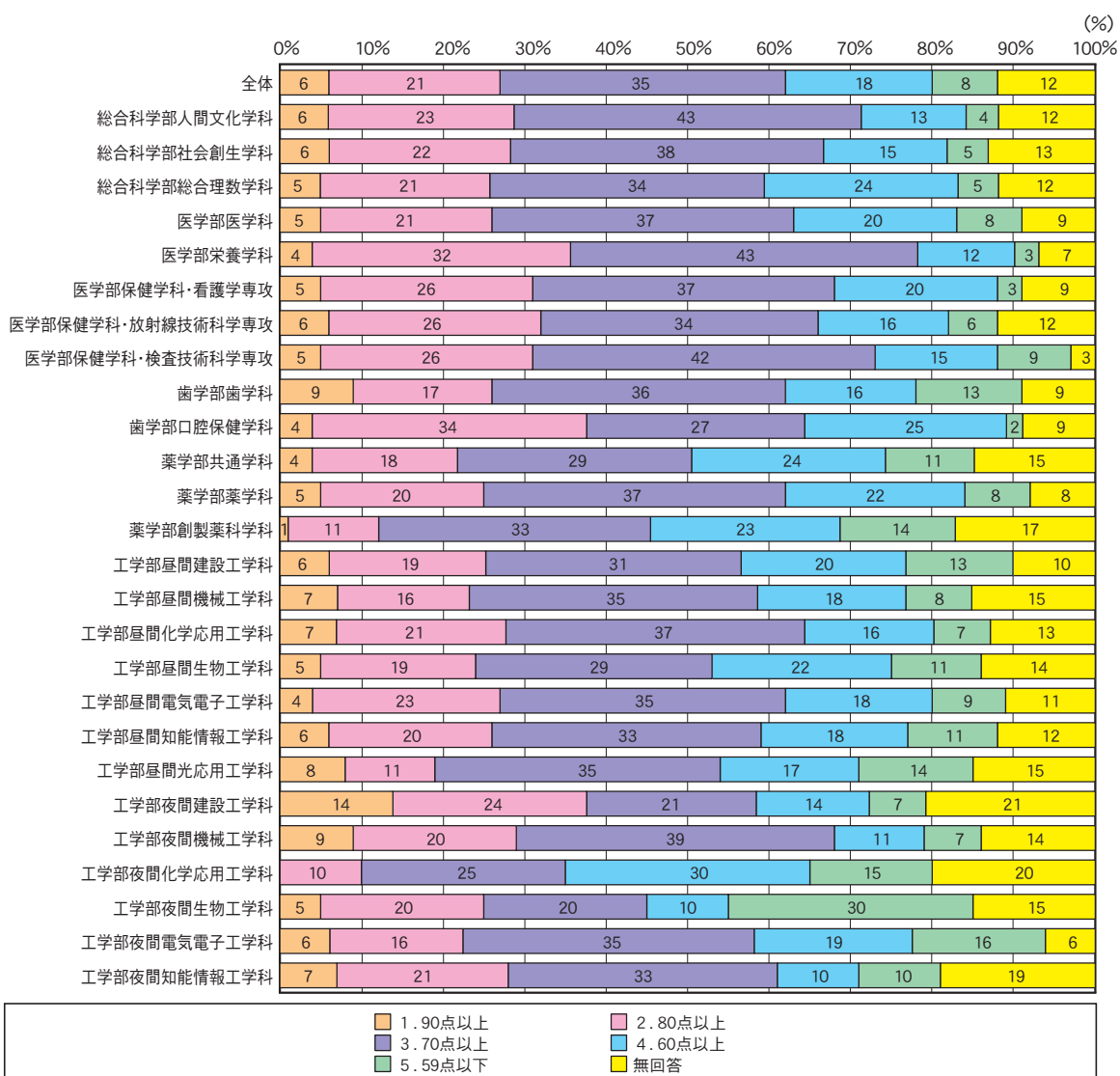
※ 複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。

第10章 大学に関する評価

10-1 大学教育全体の満足度

大学教育全体の満足度は、ほとんどの学科で「3. 70点以上」が多く、次いで「2. 80点以上」が多いが、「1. 90点以上」は少ない。学生はある程度は満足していると考えられる。ただし、夜間では「5. 59点以下」がやや目立つ学科もある。

問48 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



※ 択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

第11章 学部等の現状と課題

11-1 総合科学部

総合科学部の現状と課題として、以下の3項目にまとめて、考察を行った。

1. 将来の希望と大学教育への期待

総合科学部の学生は、問4の結果を見ると、全般的に民間企業への就職希望が多いが、他学部に比べて公務員や教員を目指す学生が目立っている。特に、総合理数学科では、教員を希望する学生が半数を超えており、大きな特徴となっている。地方にある大学では、公務員や教員の人気が高いが、徳島大学では総合科学部がその受け皿となっており、採用試験の合格実績も高い。

総合理数学科では、問5の結果より、入学前から将来像が明確な学生が半数を超え、問6と問36の結果からも、医・歯・薬に続き資格取得という目的意識を持った学生がかなりいて、資格としての教員免許取得への期待が非常に高いことが分かる。一方で、人間文化学科と社会創生学科では、問5の結果から、入学時点では将来像が明確でない学生も多い。このことから、今後もキャリア教育の果たす役割への期待は大きいと言えよう。また、問6の結果を見ると、両学科とも幅広い知識を得たいと回答する学生が目立ち、総合科学部の教育に対して、総合性・多様性が期待されていると言える。

尚、人間文化学科では、問18や問42の結果から、英語などのスキルを身につけて、留学等の経験を踏まえ、将来に役立たせたいと考えている学生も多いことが分かる。社会創生学科では、公務員以外に、専門性を活かせる就職先を確立することが、今後の受験生の確保や大学院進学率の向上につながるであろう。

2. 自習時間について

総合科学部の学生は、問10の結果から、授業に対する自習時間は不足していると言わざるを得ない。ただし、これは総合科学部に限ったことではなく、大学全体に言えることでもある。それでも、総合理数学科では、1時間以上の自習時間を持つ学生が半数を超えているが、人間文化学科と社会創生学科では1時間以下の学生が6割前後となっている。問5、問6の結果と見比べると、将来像が明確で、目的意識を持つことが、自習時間に多少なりとも反映されていることが分かる。ただし、問13の結果から、人間文化学科と社会創生学科の学生の多くは、授業内容をよく理解していると言える。教員が良い授業を行っているのか、分野に特有のものなのかは不明であるが、学生は予習復習の必要性を感じていないのかもしれない。しかし、自分の学習時間に必ずしも満足していない学生は、問20の結果のように、両学科とも7割を超えており、宿題が出た場合にのみ予習復習を行う学生も多いことが、問9の結果より分かるので、教員側ももっと課題を出すなどの授業改善も必要であろう。

今後、徳島大学として、CAP制の導入が検討されており、それによって、学生の自習時間が増えることが期待される。また、授業時間外での教員への質問が非常に少ないことが、問14と問15の結果から分かるので、自習を促すという意味からも、オフィスアワーなどの制度をもっと周知すべきだろう。その他、人間文化学科では、自習のための設備やスペースに不満を持つ学生が、問40の結果でやや目立つので、これらの改善も課題であろう。

3. 授業に対して

総合科学部の学生の授業への出席率は、問11の結果のとおり、かなり高いと言える。また、授業レベルについては、問30、問31、問34の結果のとおり、全学共通教育科目と専門教育科目のいずれに対しても、適切という回答が多い。これらは大学全体にも共通している。ただし、総合理数学科では、問13の結果も踏まえると、専門教育科目の中には、やや難しく感じている授業も含まれていると考えられる。

総合理数学科では、理系科目はすべて、学科共通科目として選択必修に含まれている。高校で未履修のため支障を感じた理系科目としては、問 24 の結果のとおり、物理と生物をあげている学生が目立つ。ただし、この傾向は、コース配属前の 1 年次の学生の回答に強く見られ、物理と生物に関する科目は 1 年前期に開講されるが、化学と地学に関する科目は 1 年後期に開講されるため回答にはあまり反映されていないことに注意すべきである。未履修科目については、復習科目の履修や Web 教材で学習しておくよう、大学入門講座で指導しているが、問 25 の結果を見る限り、Web 教材の利用率はあまり高くないようである。

人間文化学科と社会創生学科では、問 31 や問 44 の結果から、英語の授業に関して、授業レベルや授業形態に要望を持つ学生が多少いることが分かる。

11-2 医学部医学科

医学科学生の学習に関する現状と課題は次の通りである。

将来の希望では、79%の学生が専門職として医療機関で活躍したいと答えているが、民間企業（3%）および独立した経営者（4%）も医療法人と考えれば、全体としては86%にのぼり、大部分が臨床医を希望している。行政機関での活動、社会問題に関わる活動や国際的な活動を希望するものがそれぞれ3%、2%および9%で、公立病院の医師を希望する旨もあろうが、志向の多様化をうかがわせる。国際的な活動を希望する者も少なからずみられ、グローバリゼーションを唱える前に学生の志向は国際化に向いているのかも知れない。一方、将来の希望が明確化していない者も9%見られるが、低学年の可能性が考えられる（問4）。

将来の希望が明確になった時期では、小・中学（24%）、高校1・2年（29%）、高校3年（24%）、大学入学後（10%）となっているが、そもそも医学科に入学する時点で医師を目指していることが大前提であることから、大学入学後とそれ以前では希望の内容が異なると思われる。すなわち、入学以前は、例えば、医者や臨床医と言った漠然とした希望で、入学後は、専門性についての細分化がなされた希望であると思われる（問5）。

大学教育に対する期待では、資格取得（62%）や社会で役立つ知識（57%）が多く、豊かな生活を支える知識（36%）を経済的豊かさと考えれば、ほとんどが資格取得とその後の臨床活動のための知識と考えられる（問6）。一方、在学中に取得したい知識・能力では、21%最多の専門的知識以外では、多い順に一般知識・教養（15%）、コミュニケーション能力（15%）、課題発見・解決力（14%）、チームで目標達成する術（12%）であり、汎用的技能の取得にも期待していると思われる（問7）。

試験以外の授業時間外学習では、興味のある科目や分からない科目（40%）、宿題が出たときのみ（30%）と答えた者が多い。13%は教員に促されて学習することも加味すると、宿題を出したり、分からないところや授業で説明しきれない部分は成書で確認するように繰り返し伝えたりする事で学習を促すことが出来るのではないか。また、配付資料の完成度は、あまり高くない方が自主的学習を促す上では好ましいのかも知れない（問9）。

自習時間では、78%が3時間以内であるが、3時間以上の者が12%見られる。一方、全くしていないが10%見られた（問10）。自習を進めるための設備やスペースでは、十分と答えた者は42%、何らかの不足を感じている者は47%で拮抗していた（問40）。全学的に学習環境の整備が求められている。

授業への出席では、90%以上出席が63%、70%～90%出席が34%と大部分が進級要件を満たしている（問11）が、やむを得ない事情でない欠席の理由は、寝坊が70%であった。（問12）授業内容の理解では、70%以上理解している者が6割程度（問13）でいささか不安を感じるが、6割以上の正答を要求されるCBTや7割以上の正答を要求される医師国家試験に合格していることから、自学自習で補填し

ている様子が見られる。授業で判りにくかったことは、自分で勉強するが45%で最も多いが、先輩・友人に質問するも39%と次いで多く、教員への質問は、直後と授業時間以外を併せて11%である(問15)。一方、レポート、宿題となると情報源としては、成書(46%)について、インターネット(40%)が続き、先輩・友人が(12%)、教員は(3%)に留まる(問14)。教員への質問の敷居が高いのか信頼されていないのかは定かではないが、医学では、インターネットは言うまでもなく、成書でも間違っただけで見られることがあるので情報リテラシーの醸成が重要である。

教科書については、購入が少ない者が30%程度見られ(問16)、購入しない理由としては教科書が高価であるが53%であり、34%が先輩・友人の本を29%が図書館の本を利用している(問17)。医学の進歩は日進月歩で、先輩の本も図書館の本も内容が古くなっている場合があり注意が必要である。適切な学習環境を整えるために、少なくとも、図書館の書籍は、新刊にリニューアルし続ける必要がある。

学習時間・態度では、38%が概ね満足、62%が概ね不満足と答えている(問20)。無反省に満足するよりも不満足傾向の方が学習改善に繋がる可能性があると思われる。シラバスの利用では、予習・復習に役立っているのは7%に過ぎず、56%はあまり見ていないか全く見ていないであった(問23)。

高校で履修しなかった為に支障を生じた科目では、生物(33%)、物理(23%)が多かった(問24)が、57%が何も対策していなかった(問25)。入学直後に復習テストを実施し、学力の不足する科目のリメディアル教育を履修させる必要がある。

専門教育で、専門の知識を身に付けるのに役立つとの回答が62%であるのは当然であるが、進路について考えた(18%)や学問・研究への興味がわいた(14%)と少なくないことを鑑みれば、入学後早期に専門教育を開始することはモチベーションの維持に関しても有用と思われる(問33)。

医学研究実習での分野の選び方では、関心の深い研究内容(34%)、仕事・進路との関係(9%)、先輩・友人のすすめ(10%)、教員の人柄(13%)、分野の雰囲気(20%)であり、研究内容重視が43%、人間関係重視が52%と若干人間関係重視が多いが概ね拮抗していた(問37)。医学研究実習で得られるものは、専門的知識・技術(24%)、進路を考えるための広い視野(12%)、学問・研究への興味・知的好奇心(19%)、コミュニケーション能力(11%)、課題発見能力・問題解決能力(10%)、プレゼンテーション能力(13%)で、専門知識・技術のみならず、汎用的技能も得られると学生が感じているようである(問38)。教員・TAの研究指導では、十分とまあ十分を合わせて69%で概ね好評である(問39)。研究のための設備やスペースでは、十分と答えた者は49%、何らかの不足を感じている者は40%で拮抗していた(問41)。

英語学習では、毎日或いは定期的に学習しているのは22%に留まっていて、グローバル化の推進と言うには少々寂しい印象であるが(問42)、学習している学生は、テレビ・ラジオや英会話スクール、図書館の教材、専門の教科書や論文、英語能力試験の受験や参考書の活用など様々な取組を個人的に行っている(問43)。授業としての英語教育に対しては、もっと増やして欲しい(9%)という意見もある一方で、減らして欲しい(14%)や今のままで十分(28%)という意見もあり、また、専門英語を増やす(20%)希望やネイティブスピーカーの授業を増やす(13%)などの希望もあるので、すべての学生を対象にして授業数を増やすのではなく、英語学習に熱心な学生のために少人数の特別授業を行ったり、e-learning教材を利用できる環境を整備したりする必要があると思われる(問44)。

留学体験では、在籍中に体験したと1年以内に予定しているのを合わせても14%に留まり、81%の学生は留学していない(問45)。留学しない理由では、興味がない(23%)、時間がない(33%)、資金がない(15%)、魅力的なプログラムがない(9%)、留学するためのプロセスが分からない(14%)などが見られた(問47)。全学生が留学する必要はないと思われるので、興味がないに対して無理に働きかける必要はないと思われるが、他の理由に対しては、それぞれ、留学中の授業や実習の欠席に対する補填を行う、奨学金制度を充実する、学生との意見交換を行いプログラムを構築する、プロセスを周知す

る、などの改善策を講ずる必要があると思われる。

大学教育全体の満足度では、70点以上と答えた学生は、63%であり、60%点以上では、83%の学生が満足していると答えた（問48）。しかしながら、前述の通り、更なる教育改善が必要であると思われる。

今回の調査では、医学科の学生のニーズが多様化している様子が見て取れた。将来の進路についても臨床医だけでなく、行政、社会問題に関する活動や国際的な場での活動を希望している者も少なからずみられている。医学科の学習内容の中心は、医師の資格を得るためのものであるが、英語教育のようにプラス α を求める学生もおり、それに応えることも重要と考えられる。今後は、学生の希望に応じて、研究、国際化、地域医療、行政などのオプションを用意することが望ましいと思われる。また、このようなモチベーションの高い学生のモチベーションを維持するためにも、入学早期から専門教育を行うことが重要であろう。

11-3 医学部栄養学科

医学部栄養学科は管理栄養士養成課程としてのカリキュラムを第一優先に編成している。来年度から医科栄養学科と改組するにあたり、臨床教育に力を入れる方向に徐々に変更している時期である。疾患治療栄養学分野が今年度からスタートし、栄養教諭資格の取得は行わない方針を決定しているが、このアンケートを実施した時は、従来のカリキュラムと大きな変更はない。しかしながら、栄養教諭の採用数がほとんど増えなかったことや取得すべき単位数が多いことから、栄養教諭資格を目指す学生数が大きく減少しているため、実質的には各人における学習量の負担は減少していると考えられる。

その点を考慮すると、本アンケートに示された本学科学生の学習実態は全体としては良好であると判断できる。ただし、個々の点については学生ならびに教員側の努力による改善が必要な点が以下のとおりと考えられた。

- 1) 学生と教員、あるいは学生間のコミュニケーション不足も少しずつ表面化しつつある。特に、1年生は一週間の大部分を常三島キャンパスで過ごすため、専門科目の教員とのコミュニケーションをとる機会がほとんどない。学生間のコミュニケーションも乏しく、ある学生が不登校状態になっても、そのことが学生から教員に伝わるのはかなり時間が立ってからということもある。栄養学科は学年担任制を引いているが、50名の学生に対し、教授1名が割り当てられているに過ぎない。教授1名で、多様化しつつある学生の現状を捉えるのは難しいので、6-7名の学生に一人の教授が担当するグループ担当制の導入が必要な時期であると考えている。学生の出欠状況を一元的に把握できるカードリーダーによる講義の出欠集計システムの導入も検討している。
- 2) 講義の内容や難易度に大きな変化が無いはずであるが、理解度が減少傾向にある。アンケートには現れていないかもしれないが、(いくら説得しても)レポートを出さない学生や不登校になる学生の割合が徐々に増加している印象を受けている。少人数で行われるチュートリアル形式の実習や分野配属後の卒後研究は概ね順調に行われていることより、1)と併せて、グループ担当制の講義形式なども必要なかもしれない。

11-4 医学部保健学科

保健学科学生の学習に関する現状と課題は次の通りである。

将来の進路について、78%の学生が専門職として医療施設等で活躍したいと希望し（問4）、多くの学生の将来像は明確である。前回調査の割合85%と比較してやや低いのは、研究職、教職、国際的な活

躍など、以前と比べて展望が多様になっていることに起因しているとうかがえる。看護学専攻では特徴的に、将来の希望を小中学生までの早い時期に決めている学生の割合が21%と高い（問5）。

大学教育に対し、学生の多くは「資格取得に必要な知識」や「社会に出たときに役立つ知識」が得られることに期待し（問6）、大学で獲得したい知識・能力として、割合の高い順に、「専門的知識」、「コミュニケーション能力」、「一般知識・教養」を挙げている（問7）。専門的学問だけでなく、汎用的技能の修得に期待していることがわかる。

授業時間外の学習は「宿題が出たときのみ」（40%）「興味のある科目や分からない科目」（26%）「教員に促される科目のみ」（20%）と答えた学生が多い（問9）。教員の工夫により自主的な学習を促進できる可能性がある。学科では、幅広い学修の促進を目的として、専門性を志向した学修方法を入学時に提示するとともに、将来像をイメージした「学修設計」の立案を指導している。希望の進路を実現するため目的意識を持続させ、学修計画に沿った学修ができるよう継続的に指導と支援を行うことが重要である。授業時間外学習を2時間以上行っている学生は、学科全体で28%、看護学専攻31%、放射線技術科学専攻25%、検査技術科学専攻20%であり（問10）、大学全体の19%と比べて比率が同程度またはやや高いが、大学生としての必要な学習時間が確保されていない。予習・復習の課題を提示するなど、自己学習を習慣づけるよう継続的に指導することが必要である。

放射線技術科学専攻の学生は、大学の授業以外に資格取得や受験に備えた学習を行っている割合が40%と、全学の2倍以上高い（問18）。一方、大学の講義以外に自分自身のためのなんらかの学習を「特に実行・計画していない」学生の割合は、看護学専攻と検査技術科学専攻ではそれぞれ、35%、38%と全学の24%より高く、放射線技術科学専攻では全学と同等の数値である（問18）。将来の目標を達成するための学修がカリキュラムに含まれていることに起因していると考えられるが、学生には、大学時代において教養やスキルを身につける努力を惜しまないでほしいと願う。学生自身の学習時間や学習態度に「少し不十分さを感じている」「満足していない」学生は合計で6割と多く（問20）、意欲を高める適切な指導により自発的な学修が可能ともとれる。

高校で履修しなかった科目（物理、化学、生物）のために、大学での学習に支障を感じた科目が「ある」と答えたのは、看護学専攻15%、放射線技術科学専攻52%、検査技術科学専攻82%であり、専攻間で大きな差がみられる（問24）。放射線技術科学専攻では「生物」、検査技術科学専攻では「物理」の学習が不足していると感じており、このうち約半数の学生は自発的に勉強して解決の努力をしている。他方、何も対応していない学生も多いことから、自然科学入門の受講やリメディアル教材の学習を個別に勧める指導が必要である。

授業内容を理解できる科目の割合が60%以上の学生は92%である（問13）。また、専門教育の内容の難易度が適切と答えた学生は82%と、全学の72%より高い傾向にある（問34）。授業内容の水準をもっと易しくすべきであると答えた学生は9%と低い。難易度に関していえば授業改善の必要は無いと考えられる。

教員免許の取得に興味があり、実際、教員を目指していたり免許取得を希望している学生の割合は、看護学専攻で29%、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻で8%ある。看護学専攻において養護教諭を指向している学生は多い（問36）。教員免許取得希望に比して教員採用の門戸は狭く、進路相談や採用試験対策等、学生の進路選択への包括的な支援が重要である。一方、教員養成のカリキュラムを用意していない専攻でも希望があり、大学等における教育研究者の希望者も含まれていると推測できる。これらの学生に対しては、大学院への進学や臨床経験等に関する個別の対応が必要である。

卒業研究配属の選定に関し、研究内容や将来の仕事・進路を基準に配属研究室を決めた学生がほとんどで、「やむを得ず入った」「どこでもよかった」を理由に挙げた学生は4%と少数である（問37）。自分の興味や将来の希望に繋がる配属が概ね実現できているとみられる。卒業研究は、「専門知識や技術」

または「学問・研究への興味や知的好奇心」が得られると答えた学生が多い（問 38）。「特に得るものがない」と答えた学生は、検査技術科学専攻では居ないが、看護学専攻と放射線技術科学専攻ではそれぞれ、6人、2人ある。魅力的かつ達成感のある研究課題を全ての研究室において学生に与えられるよう検討が必要である。

大学教育全体の満足度として、60点以上、70点以上と答えた学生は、回答した学生のうち、それぞれ、95%、75%であり、学生は教育に概ね満足していると考えられる（問 48）が、上述の個別の問題を解決させるなど、更なる教育改善が必要である。

11-5 歯学部

歯学部の現状と課題について下記の項目別に考察した。

1. 履修科目の状況

・歯学科では高校での未履修科目に関して、物理および生物の科目で30%程度の者が支障を感じたと回答している（問 24、問 25）。歯学部では未履修科目への対策として、全学共通教育での未履修科目の受講を指導しているため、全学共通教育での受講をしたと回答した者が44%と非常に多くなっており、一定の効果は期待される。しかし、本アンケートだけでは効果の判断が難しい点も残る。

・歯学科での研究指導は3年次の「研究基礎ゼミ」が該当するが、「進路を考えるための広い視野が得られる」と答えた者が31%と他学科と比較して多く存在し、注目される（問 37、問 38）。

2. 学習態度

・歯学科では自主的な予習、復習を行っている者の割合（40%程度）および時間（1時間以上の者は60%程度）は他学科と比較してその割合は多い。一方、口腔保健学科ではそれぞれ、20%、40%程度と他学科と比較してその割合は低く（問 9、問 10）、同学科では他学科と比較して授業を休む理由として朝寝坊が多い（問 12）。このような問題点に対しては、対象学生の学習・生活指導を検討していく必要がある。

・歯学科では教科書をすべて購入する者の割合は1/4程度と少なく、口腔保健学科では3/4と非常に高い（問 16）。歯学の教科書は高価のものが多く、歯学科教員は、教科書を用いる授業よりも、資料を作成して配布していることが多いためと考えられる。ただ、教科書を用いない場合でも、参考書などで知識を整理することが望まれるが、参考書を記載しているシラバスの利用に関して、歯学科では全く見ていない者は1/4存在し、口腔保健学科では40%程度と非常に高い（問 23）。このような問題点に対し、今後改善が必要である。

3. 授業評価等

・自分の学習時間・学習態度の満足度に関して、「満足・ある程度満足」と答えたものは歯学科では45%程度、口腔保健学科では42%程度と他学部と同程度であるが、高い比率ではない（問 20）。本アンケートではその内容にまで言及していないため、学生を交えた教育改革WGなどで原因を考え、自学自習を推進できる環境づくりに役立てる必要がある。

・授業内容の理解で「60%以上」と答えた者の割合は、歯学科では88%と高く、口腔保健学科は93%程度と非常に高い。（問 13）。また、両学科とも概ね教養科目・専門科目の授業内容の水準は適切であると答えている（問 30、問 34）。大学教育全体の満足度で「60点以上」と答えた者の割合は、口腔保健学科は89%程度と高く、歯学科では77%程度とやや低い（問 48）。歯学部では最低限の評価は得られているが、「80点以上」と答える者の割合が半数を超えるよう（現状は25%～35%程度）、一層の教育の質の向上が必要である。

4. その他

・他の医療系学部と同様に歯学部では大学における教育に対する期待として「資格取得に必要な知識、受験に必要な単位」と答えた者が両学科とも最も多く（問6）、獲得したいものとして「専門的知識」「コミュニケーション能力」と答える者が比較的多い（問7）。現在も「コミュニケーション能力」に関する授業は組み入れているが、一層充実させた授業展開を推進できるよう努力したい。

・口腔保健学科は歯科衛生士に加え、社会福祉士の受験資格を有することが可能である。そのため、行政機関等での公務員希望者が多いと思われる（問4）。本アンケート結果も今後の教育方針、進路指導に役立てたい。

11-6 薬学部

平成18年度の薬学教育改革により、薬学部では3年前期終了後に薬学科（6年制）と創製薬科学科（4年制）に配属されるため、本アンケートでは共通学科（1, 2年生）と、薬学科（3-6年生）、創製薬科学科（3, 4年生）の3グループに分けて、調査結果を分析した。なお、今回の調査回収率は共通学科84%、薬学科93%、創製薬科学科89%、薬学部全体では88%であった。

将来の希望は、共通学科では薬剤師職54%、企業等29%であった。学科配属後は薬学科では薬剤師職75%、創製薬科学科では企業等60%と各学科の教育理念に沿った結果となったが、後者については薬剤師職を希望する者も23%に達し、志望とは異なる学科に配属されたことが窺われる。将来の希望が明確になった時期については、共通学科は「まだ明確になっていない」が26%、薬学科および創製薬科学科ではそれぞれ38%と41%の学生が「大学入学以降」と回答していることから、大学入学時点では必ずしも明確にはなっていないことがわかる。大学教育に対する期待は、いずれのグループでも「社会に出たときに役立つ知識」が最も高く（全体で66%）、大学在学中に獲得したい知識・能力についても同様の傾向が見られることから、学生は実学的な知識や技能を期待していると判断できる。

授業時間外の学習については、共通学科および創製薬科学科では「自主的に」と「宿題が出たときのみ」が同数程度だったが、薬学科では後者が前者の2倍近くに達した。いずれのグループでも学習時間は、「1時間以内」が圧倒的に多く、「全くしていない」と合わせると70%前後にも達している（他学部・学科に比べても高い）。この割合は前回（62%）より増加しているが、70%以上授業を理解できる学生も前回の調査（43%）より増加し、全体で56%であった。学習時間の少なさは、自学自修への意識の低下と言うよりも、薬学部の密なカリキュラムが反映している可能性もある（読書への興味でも「時間が無い」と答えた学生が55%に達する）。授業への出席率「90%以上」が、共通学科で79%、薬学科で87%と高かったが、創製薬科学科では68%へと低下しており、希望学科に進学できなかった学生のモチベーション低下が懸念される。なお、病気などのやむを得ない場合以外の欠席理由としては「朝寝坊」が最も多い。調べものをするときの情報源としてインターネットを挙げる学生が89%に達し、勉学において欠かせない存在になっていると言える（1時間以上使用する学生は全体で43%であり、学科配属後の方がこの割合は高い）。理解できなかったときに教員に聴く学生は25%であり、前回調査の13%よりも大きく増大している。担任制による少人数教育により、教員を身近に感じられる効果が現れているのかもしれない。教科書は大部分（92%）の学生が購入しており、購入していない場合でも、先輩等から譲り受けることで確保しているようである。大学の授業以外の学習については3分の1の学生が「ない」と回答しており、薬学生の余裕のなさが見て取れる。自分の学習時間や学習態度を「少し不十分」「不十分」と感じている学生は、共通学科（66%）および創製薬科学科（63%）に多く、薬学科では逆に「十分満足」「ある程度満足」と感じている学生の方が多い（52%：全学部・学科で最高の数字である）。シラバスの活用の程度は全学部・学科の中で最も低いレベルにあるが、これには薬学部が小さい学部であり、

各科目を把握しやすく、先輩からの情報も得やすい（問 28 の回答結果）ことも反映している可能性があり、良くないことと決めつけることはできない。高校で履修しなかったため支障を感じた理系科目として「生物」を挙げる学生が多い（全体で 49%）。化学や物理でセンター試験を受験した影響と考えられるが、半数以上の学生は、大学入学後、特に対策を講じていない。

全学共通教育の科目については、約半数の学生が「単位を取りやすい授業」を選択基準に置いており、他学部・学科に比べ「広い教養」を意識する傾向は低く、全学共通教育で「得るものはなかった」と回答する学生も多い。これは 3 年前期末の学科配属のために、よい成績を取ることに精一杯であるためかもしれない。共通教育の各科目群および専門科目の難易度については「適切」と答えた学生が圧倒的に多く、実習形式の授業の時間数についても 3 分の 2 の学生が「適切」と回答している。英語についてはいずれのグループでも 80% 前後が定期的に勉強していると答えている。留学については「時間的余裕がない」および「全く興味がない」という回答が多く、いずれも 25% 程度であった。教員免許には関心がない学生が大部分（85%）である。卒業研究における研究室の選択は、薬学科では研究室の雰囲気（51%）、創製薬科学科では研究内容を（49%）それぞれ重視する傾向がある。教員や TA の研究指導については、概ね（両学科とも約 3 分の 2）満足している。学習のためのスペースについては、学科配属後では「十分」という回答（62%）が多かったが、研究のためのスペースについては少々手狭さを感じているようである。

大学教育全体に対する満足度については、薬学科では 70 点以上とする学生が 62% であるのに対し、創製薬科学科では 46% であり、前回調査と同様の傾向であった。特に創製薬科学科の満足度は全学部・学科で最低レベルである。

以上、薬学部では 3 年次前期終了後の学科配属が、学生の知的好奇心や満足度など、学生生活のさまざまな面に影響を与えており、志望学科に入るために良い成績を取ろうと頑張る一方、時間的・精神的に余裕のない学生生活を送っている実態が浮かび上がる。平成 27 年度からの薬学教育のカリキュラム改正、平成 30 年度入学生からの薬剤師受験資格に関する特例措置（4 年制学科でも所定の科目を履修し単位を取得すれば、国家試験受験資格が得られる）の廃止に応じて、より良い方向へと学部の将来を構想してゆく必要がある。

11-7 工学部

将来の希望について（問 4）、前回調査（平成 22 年度）と同様に、半数前後の学生が企業への就職を望んでいる。しかしながら、そのような希望が明確になった時期（問 5）としては、まだ明確になっていないとの回答が 4 割弱と目立つ。免許・資格の取得と関連させて将来像を見定めて学部・学科を選択している医歯薬系に対して、漠然と企業への就職を意識しつつも将来に対する自己確立へのプロセスが描き切れていない工学部生像が透けて見える。入学後の早い時期から学科に関連する産業分野の実態を伝えること、特にその分野で活躍する卒業生らの声に触れさせることは、学生の意識啓発や意欲喚起の面で効果的である。平成 23 年度から導入されたキャリア教育科目は、このような点も考慮した教育内容となっており、今後の成果が期待される。

学習状況について、授業の出席率（問 11）は前回調査同様かなり高い。自由記述欄には「授業を欠席したことはない」「忌引等やむを得ない理由以外では休まない」などの回答が目立った。しかしながら、このことが授業の理解度（問 13）には必ずしも結びついておらず、理解できる科目が 80% 以上は 2 割弱、70% 以上を含めても 5 割前後と他学部と比べてやや低い状況にある。特に夜間主コースでは、一部学科で 60% 未満との回答も目立つ。CAP 制との関連もあり、予習・復習の時間確保と能動的学習は学生の義務と見なされるが、授業以外の学習（問 9）については受動的態度（教員に促された時のみ、宿

題が出された時のみ)が6割弱を占め、学習時間(問10)も2時間未満が6割以上となっている。一部の科目では、予習用プリントの配布、授業冒頭での小テスト実施、レポート課題に対する質疑応答形式の授業など予習を促すための試みがなされているが、その広がりや内容はまだ十分ではないようである。

大学での学習に支障を感じた高校未履修科目(問24)については、生物工学科における物理が高かった。また、生物・光応用・化学応用(夜間)の各学科における生物も目立つ。これに対する入学後の対応(問25)としては、生物・化学応用(夜間)では何らかの方法で勉強をしたとの回答が半数以上あるが、工学部全体としては何もしないが過半数を占めている。勉強方法では、高校の教科書を用いた自習と大学によるサービスの利用(自然科学入門等の受講+リメディアル)がほぼ半々であった。入門科目を受講しなかった理由(問26)については、問25で勉強をしたとの回答が高い学科では自習可能との回答が多く、その他の学科では不都合を感じないが多かった。なお、自由記述欄には(入門科目の開講を)知らなかったとの回答が複数あった。以上の結果からは、前回調査で指摘された入門科目の未利用についてはある程度改善されていると考えられる。その一方で、自学自習で対応可能との学生も多いことから、入学時復習テストなどを引き続き活用し、個々の学生の状況に応じた指導をする必要がある。このことは、新学習指導要領対応にも繋がると思われる。

専門教育について、授業によって身についたもの(問33)が、少数ではあるが特になしが他学部比べてやや目立つ。問5にあった将来の志望が明確でないとの回答は、学生自身の価値判断の基準が未だ定まっていないことを類推させ、そのことがここに反映されている可能性が考えられる。先述のキャリア教育を含め、将来像を早いうちから意識・模索・確立させる取り組みが必要である。授業の難易度(問34)については、適切との回答が多数ではあるが、共通教育科目に対する同様の設問(問30~32)に比べて易しくすべきが明らかに多い。しかしながら、昨今産業界から大学に対しては、入社後即戦力となる人材育成への要請が高まっており、近年加速する技術の高度化や関係分野の広範化に加え、イノベーション創出が大学改革のキーワードの1つとされている現状を考慮すると、授業の難易度を安易に変更することには慎重にならざるを得ない。これらへの対処として工学部では現在、6年制教育の導入も検討されているところである。一方で、各分野における基本科目に対する教育の充実が強く要望されている面もあり、必修指定科目の見直し等カリキュラムの変更や先述の授業時間外学習の徹底とも合わせて検討されるべき事項と考える。これに対し、実習形式の授業に対する希望(問35)は、他学部比べてやや高く、特に夜間主コースの一部学科で非常に高い。工学部夜間主コースは平成25年度からフレックス制となったため、今後は夜間主コース学生のこういった希望にも十分応えられるものと考えている。前回調査で指摘された学習・研究のための設備・スペース(問40,41)については、前回同様、建設・電気電子・知能情報で満足度が高いのに対し、化学応用・生物・光で不満が多く、問題は解消されていない。引き続き環境の整備が必要である。

大学改革のもう1つのキーワードとされるグローバル化であるが、英語学習の実行率(問42)は2~3割程度とかなり低い状況にある。また、大学の英語教育に対する要望(問44)も、授業時間増加やネイティブスピーカーによる授業希望などの積極的な回答は必ずしも高くなく、むしろ前回調査時よりも減少している。海外留学に関して(問47)も、工学部は他学部比べて興味なしがやや多く、総じて巷間指摘される学生の内向き指向が見て取れる。英語の学習方法(問43)は、TOEIC等の参考書等を用いた自習が大半であるが、これと試験を受験しているとの回答数は一致せず、実際の受験には必ずしも繋がっていないようである。以上の結果からは、一部の積極的な学生を除いて、工学部学生のグローバル化に対する意識はあまり高くないと言える。英語力の向上を企図した授業科目も平成22年度以降幾つか設定されているが、履修者は多いとは言えない。英語による授業の実施や国際コースの設置などが検討されているが、入試改革とも合わせて議論されるべきと考える。

11-8 全学共通教育

大学の教育に期待するものを聞いた問6に対して、「豊かな生活を支える幅広い知識」と答えた学生は37%であり、「社会に出て役に立つ知識」の62%、「資格取得に必要な知識」の42%と比べると些か少ない。新入生に対して教養教育の意義や意味について理解を深める機会を増やす必要があると思われる。

高校で履修していない理系科目に関連する問24, 25, 26に対して、全体では56%の学生が「大学の学習の不足を感じた理科系科目がない」、リメディアル授業の履修や自習は「何もしていない」と答えている。また、33%が高校での未履修科目について「不都合を感じない」、11%が「自分で学習可能」と答えている。ただし、学部・学科別に見ると、物理と生物のどちらか一方について高校での未履修が支障と感じる学生が40～50%に達する学部・学科がある（医学部保健学科、歯学部、薬学部、工学部生物工学科、工学部夜間化学応用工学科等）。

その一方で、リメディアル教材の活用は低調であり、また学生の基礎学力に疑問を唱える声が教員の間で多いことを考え合わせると、学生の自己認識と実態にはギャップがあると考えられる。新学習指導要領に基づく学生の入学を控えて、共通教育と専門教育の間で協議の上で、リメディアル授業や自然科学入門等について学生に具体的な履修のあり方を提示していく必要があると思われる。

授業の選択基準（複数選択）に関する問27には、「好きな科目や面白そうな科目」（55%）、「単位のとりやすい授業」（42%）、「広い教養を身に付けるため」（25%）の順となっている。この比率と順番は3年前と大きく変わっていない。今回新しく聞いた選択にあたっての情報源については、『履修の手引き』やシラバスが59%、「先輩からの助言」が55%で大半を占めている。この2つの問いの比較から、「単位を取りやすい授業」を選択した比率の高い学部・学科で、「先輩からの助言」の比率も高いという相関関係がある。先輩後輩関係は、大学の学びにとって大切なものであるが、その中身を先輩が良いロールモデルとなるような関係となるように、積極的に働きかけていく必要がある。

全学共通教育科目の授業で何を学ぶことができたかを聞いた問29に対しては、59%が「広い教養」と答えている。その一方で、「特に得るものがなかった」という回答が25～40%になる学部・学科があり、問27で「単位を取りやすい授業」を選択した比率の高い学部・学科とほぼ相関している。全学共通教育の対する姿勢が学習の成果に大きな影響を及ぼしていることがわかる。前述の先輩後輩の関係と合わせて考えると、そうした学部・学科では、学習に取り組む「悪しき姿勢」が長い年月の内に“組織文化”となって根深くはびこっている可能性があると言えよう。よほどの断固たる改革がなければ、悪貨が良貨を駆逐する喩えの通り、組織が廃れる虞無しとは言えないだろう。

英語教育については、高い比率ではないが「授業数を増やす」（19%）、「少人数にする」（11%）、「ネイティブ教員の授業を増やす」（14%）等の要望が出されている。グローバル化への対応を考えて、こうした要望にはできる限り応えていく努力をすべきであろう。

11-9 FD (Faculty Development) の観点から

本年度のアンケート結果を踏まえ、FDの観点から望まれることとして、以下の諸点を指摘したい。

第一に、個々の授業の対象となる学生の特質を精緻にとらえた上で、授業内容を再考し、効果的に実践していくこと。問4の回答結果は、徳島大学の学生が、主に医院・病院・薬局等で専門職として働くことを目指す医歯薬系の学生と、主に民間企業・行政機関・教育機関等で働くことを目指すか、あるいは目標がまだ明確に定まっていない工学部・総合科学部の学生という二つのタイプに大別されることを端的に示したものである（厳密を期せば、工学部と総合科学部の学生も、各学科により将来の方向性は同一ではない）。当然ながら、彼らの将来理想とする職業の社会的需要や、就職に必要なプロセスは

大きく異なる。このように多様な将来像を持つ学生を対象に授業を行うには、同一のテーマを扱うにも、それぞれの方向性に適したアプローチが求められる。専門科目のように、対象学生がある程度特定の部局に絞られている場合はこの点はあまり問題にはならないが、複数の異なる部局出身の学生が対象となる全学共通教育の授業においては、たとえ基礎レベルの内容であったとしても、個々の学生の興味・関心、専門分野との関連や理想とする将来像、価値観等の傾向を踏まえた配慮が教員側に求められる。そのためには、教員自身が、日頃から専門分野における知識のみでなく、社会全般の幅広い動向に常に関心を払い、様々な観点からの教養をバランス良く積極的に吸収する努力を怠ってはならないだろう。このような教員側の姿勢は、ひいては学生が期待する大学の教育（問6～8）に応える教育内容を提供できることにもつながる。教員が個々に興味・関心の異なる学生一人ひとりに向き合えるよう発言に留意していることが伝われば、徐々に学生との信頼関係も構築され、より効果的な授業が生み出されると思われる。

第二に、個々の授業科目の特性や対象人数によっても異なると思われるが、学生の積極性や自主性をより引き出すための授業方法を模索すること。問9から問35までの回答を概観すれば、部局ごとに多少差はあるものの、多くの学生は真面目に授業に出席し（問11）、興味や必要性に応じて予習・復習（問9、10）を行うとともに、理解が十分でない点については自主的に勉強したり関連する科目を受講したりするなどして補っており（問14、15、25、26）、授業についていくための努力を払っている姿勢が窺える。この点では、個人差はあれども、概ね真面目に勉学に向き合う姿勢が身についた本学の学生像が浮かび上がる。しかし、改善が見込める点としては、例えば教員との距離感が感じられる回答（問14、15、28等）への対応が考えられる。教員が設定する授業の目標に学生の達成度をより近づけるためには、専門的見地からの学生への良きアドバイザーとして、教員自身が学生とより密接にコミュニケーションをとり、彼らの積極性や自主性を効果的に引き出すような工夫が求められる。

また、一部の熱心な学生は、自由記述欄に「教科書に沿った内容でなく、より応用的な」内容の授業や、「もっと実践的」で「ハイレベル」な授業の希望、さらには授業内容を自主的学習で深めるために「参考文献を紹介する時間」を授業の中で設けてほしい旨の希望を記載している。授業内容の水準については、共通教育、専門教育（問30-32、34）ともに概ね適切との回答があるが、そうであればなおさら学生の学力をさらに高次のレベルに引き上げるための工夫が考えられる。例えば、従来授業を通じて教えてきた講義形式の内容はすべて予習すべきこととして動画配信等により学生の自主性に委ね、教室では応用問題や、全体での討論の時間とするいわゆる「反転授業」の活用など、時代に応じた授業方法の工夫や、レベルの異なる学生それぞれが納得のいく複数の課題の出し方の考案など、既存の授業の改革に向けた一層の努力も求められよう。

第三に、国内外の情勢を的確にとらえ、国際社会に対して真に望まれる意思疎通が可能な人材育成に向けて、既存の語学教育を見直すとともに、海外留学斡旋に向けた諸制度を充実させること。関連した質問項目に対する回答（問42-47）を見る限り、一部の熱心な学生を除き、本学学生の語学習得や海外留学に対する関心は総じて低い。この理由の一つとして、語学教育における適切な動機づけの不足、即ちなぜ日本語以外の語学（とりわけ世界共通語としての英語）を学ぶ必要があるのか、また頭の柔軟な若いうちに海外で学ぶことにはどのようなメリットがあるのか、ということについて、大学側が学生に英語の授業やそれ以外の様々な機会提供を通じて積極的にアピールするとともに、関心のある学生に対して相談に応じ、適切なアドバイスを行う等の働きかけが十分でないことが、学生の自由記述からも窺える。

諸外国と比較しても、国際的な視野や感覚を持ち行動できる人材の絶対数が圧倒的に不足している我が国において、平成25年10月には、文部科学省も「トビタテ！留学JAPAN」キャンペーンを実施し、より多くの若者が海外留学を目指すための支援に本腰を入れ始めている。にもかかわらず、本学でこう

した対応が十分になされておらず、学生の関心が伴っていないことは残念な傾向であり、時代の要請に応えるためにも早急な改善が望まれる。既存の語学教育の改善としては、例えば学生の自由記述を踏まえた英語教員の間でのFD活動推進等、当事者同士の意見交換による意識の共有化を通じた協同での取組等が期待される。また、海外留学の促進に関しては、希望者に適切な対応ができるよう学内における相談窓口の体制をより一層充実させるとともに、各国に留学経験のある教員（もしくは外国出身の教員や本学に留学している外国人学生）等を積極的に活用し、留学アドバイザーのような立場から、彼らの望ましい将来に向け、個別の相談に応じてもらうことも考えられる。

以上、FDの観点から今後に望まれることを述べたが、いずれにおいても、教員が学生と向き合い、彼らにとって最適な教育を提供するには何が求められるのかを真剣に考え実践することで克服できる課題は多い。そのためにもどのような手段が望まれるのかが、改めて一人ひとりの教員に問われている。自由記述でアンケート結果が実態の改善につながっていないとの学生側の批判も少なくない中、本アンケートの質問項目に関する精査も含め、今一度教員側に真摯な省察が求められていると思われる。

第12章 まとめと提言

本調査は、平成19年と平成22年に実施された過去2回の「学生の学習に関する実態調査」に引き続いて実施された第3回目のものである。今回のアンケートでは、質問項目を一部見直し、全48問の質問により調査を行った。アンケート回収率は、過去2回（63.2%、63.3%）よりも若干上がって、68.1%であった。

1. 将来の希望と大学教育への期待

学生の将来の希望は、問4の結果を見ると、総合科学部では企業・公務員・教員が多く、特に総合理数学科では教員を希望する学生が半数を超えている。医・歯・薬学部では、創製薬科学科を除き、医院・病院・薬局という回答が大半であるが、栄養学科では企業も目立つ。工学部と薬学部創製薬科学科では、企業への就職と回答している学生が約6～7割となっている。

問5、問6の結果より、卒業時に国家試験や採用試験を受ける学生が多い学部・学科では、入学時から将来像が明確で、資格取得という目的意識を持って大学の教育を受けている傾向がみられる。一方、企業への就職が多い学部・学科では、入学時や入学後も、はっきりとした将来像を持っていない学生も多い。これに対応すべく、総合科学部と工学部では、キャリア学習プログラム「巣立ちプログラム」が導入されたが、ようやく3年目となって、その成果が見えるところまできている。今後とも、キャリア教育の果たす役割には、大学としての期待がかかる。

2. 学習状況について

学生の自習時間は、問10の結果から、1時間以内という回答が全体として多く、自習時間は不足していると言わざるを得ない。現在、徳島大学として、CAP制の導入が検討されており、履修登録科目の制限により、学生の自習時間が増えることが期待されている。ただし、問5、問6の結果と見比べると、将来像が明確で、資格取得などの目的意識を持っていることが、自習時間に反映されている面もある。やはり、キャリア教育で明確な将来像を持たせるなど、動機づけも重要であろう。もちろん、教員側も、授業で扱う内容を見直したり、予習を前提とする対話型の授業形態にしたり、適切な課題を出すなど、授業改善も必要であろう。

学生の授業への出席率は、問11の結果のとおり、かなり高い。昨年度から導入された出席記録システムは、遅刻の抑止や不登校学生の把握などにも有効であり、今後とも全学的に活用していくべきであろう。

教科書については、問16の結果より、医学科と歯学科の学生は、必ずしもすべてを購入していないことが分かる。両学科の学生は、問17の結果から、図書館の利用も目立つので、高価な医学書などは今後とも図書館においても充実していくべきであろう。

高校での未履修科目では、問24の結果を見る限り、物理と生物に支障を感じている学生が多い。学生の対応としては、問25の結果では、歯学科での復習科目の履修が目立つが、何もしていない学生も多い。平成27年度からは、新学習指導要領により教育を受けた学生が入学してくるので、復習科目の履修を義務化するなど、未履修科目についての対応の準備が必要であろう。

3. 全学共通教育について

全学共通教育科目の選択については、問27の結果から、興味のある科目を選ぶ学生が多いと言える。ただし、薬学部の学生は単位の取りやすさを優先しており、さらに問29の結果から、創製薬科学科では全学共通教育で得るものがなかったという回答も目立つ。学科配属に成績が考慮されるとはいえ、それを優先するあまり、目的と手段が入れ替わるのは残念なことである。

4. 専門教育について

専門教育科目については、問34の結果のとおり、適切なレベルという回答が多く、特に不満はないようである。ただし、薬学部共通学科では、問35の結果に見られるように、実習形式の授業を減らすべきという意見が目立つ。

研究室の選択基準は、問37の結果のとおり、研究内容という回答が多いが、薬学部薬学科については、研究室の雰囲気という回答が5割を超えて最も優先されている。

5. 英語学習と海外留学について

英語の定期的な学習は、問42の結果のとおり、人間文化学科の学生が多く、4割近くが実施している。アスパイア奨学金が導入され、海外の大学との協定も増えており、グローバル人材育成のための学習プログラムなども整備されつつあるので、今後とも留学を希望する学生が増えると予想される。

最後に、この調査の実施及び報告書の発行に際して、ご支援、ご協力いただきました高石副学長、大学教育委員会の方々、企画、執筆、編集にご尽力いただいた教育の質に関する専門委員会の先生方（西村明儒先生、二川健先生、日野出大輔先生、田中秀治先生、武藤裕則先生、玉真之介先生、鈴木尚子先生、佐野雅彦先生）および吉永哲哉先生に深く感謝いたします。また、アンケートの集計、編集にご尽力いただいた学務部職員の方々、ならびにアンケートに協力いただいた学生の諸君に厚く御礼を申し上げます。

教育の質に関する専門委員会委員長 村上公一

e ラーニングに関するアンケート

大学教育委員会 e コンテンツ実用化ワーキンググループ

1. アンケートの実施について

e コンテンツの活用に関する検証を目的として学生の視点から利用状況の調査を実施した。教務事務システムのアンケート機能を用い、平成 25 年 8 月 21 日から 10 月 31 日までの期間で、全学部生に対しアンケートへの回答を求めた。各学部の回答率は、総合科学部 41%、医学部 47%、歯学部 44%、薬学部 34%、工学部 30%であった (Q1)。全学では 37%の回答率であり、2,209 名の多くの学生から回答が得られたことになる。学年別では低学年ほど回答率が高い (Q2)。

2. モバイル機器について

モバイル機器について尋ねた設問 (Q4) により、回答者のうち約 8 割の学生はスマートフォン・タブレットを利用していることがわかる。ただし、モバイル機器を所有していない学生に対し、今後、個人所有のモバイル端末を教育に利用させる状況が生じた場合には配慮が必要である。また、利用場所に関する設問 (Q9) を見ると、自宅の割合も 47%あることから、モバイル利用に加え、学外利用に関する動向も今後注視する必要があるだろう。

3. LMS の活用について

e ラーニングや LMS の言葉を知っている学生は、全体で 79%、1 年生では 73%、2 年生以上では 83%である (Q5)。概ね高い割合であるが、1 年次後期以降での利用経験などにより認知度が上がっていると思われる。

現在 e ラーニングを利用している学生につき、「授業に利用したい」「自学自習を含め積極的に利用したい」と考えている学生の割合は全学で 75%と高い (Q7)。特に、1 年生では 81%あり、積極的に活用したいとの意欲は初年次学生の方が高い。

全学 LMS として i-Collabo と Moodle を提供しているが、前者の利用が多いことがわかる (Q8)。ただ、利用は 1 科目が最も多く、学生あたり数科目以上で活用されている状況ではない。

e ラーニングをどのように利用したか、どのように役立ったかの二つの設問には同じ選択肢を設けた。これにより次の興味深い特徴がわかる (Q10, Q11)。まず、「授業時間」と「スライドや参考資料の閲覧・ダウンロード」、「課題レポートの提出」に利用している学生が最も多い。また、これらの半数程度で「授業の復習」「授業の予習」「試験勉強」に利用している。次に、ある選択肢に「利用した」と答えた学生のうち、同じ選択肢が「役に立った」と回答した学生の割合を求めたところ、「スライドや参考資料の閲覧・ダウンロード」の選択肢が 85%と最も高い割合を示し、LMS にスライド等を配置するだけで、学生は授業の復習や試験勉強に役立っていると考えていることがわかる。次いで 75~79%の高い割合で活用しているのは、「授業時間」「予習」「復習」「課題レポートの提出」「試験勉強」である。

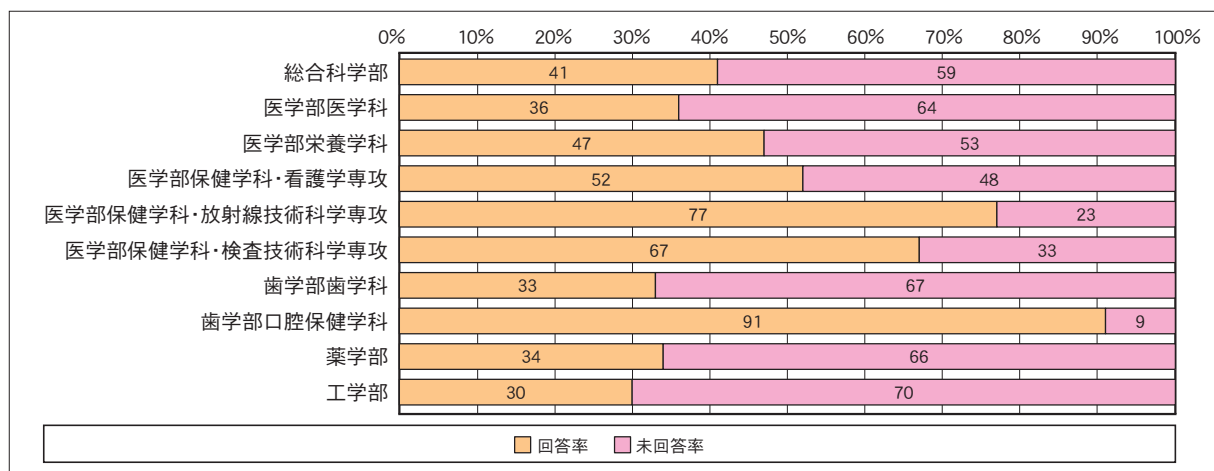
4. LMS の評価と今後の支援について

e ラーニングに対する意見・要望等を求めた自由記載欄には「学外から利用でき使いやすい」「教員が授業で使用したスライドの電子媒体を置いて欲しい」「積極的に活用したい」との活用に好意的な意見だけでなく、「使い難い」「システムの仕様に不満」などの利便性への批判的な意見もあった。

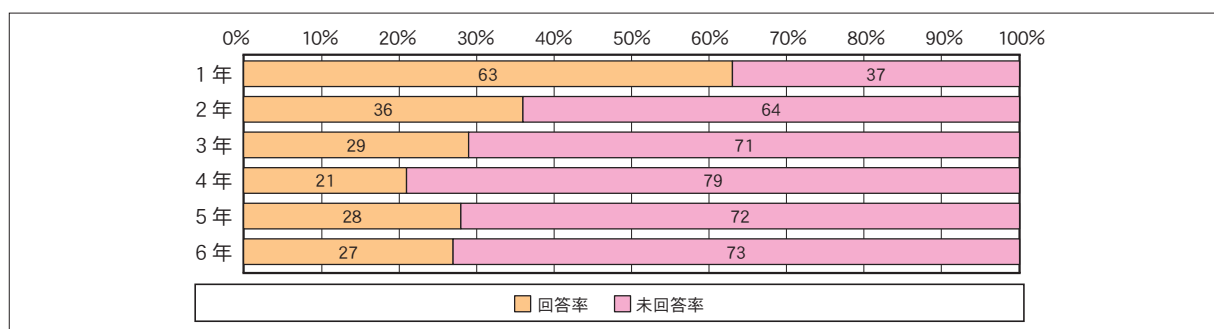
学生の学修時間の確保、能動的学修意欲の向上、単位の実質化などの課題に e ラーニングの活用が有

効な手段であることは広く認識されている。実際、今回の学生の意見からも授業や自学自習に利用したいと多くの学生は望んでいることが明らかとなり、全学的な支援の必要性が確認された。今後、eラーニングの活用促進にあたっては、LMSの整備や利用方法の説明などの技術支援だけでなく、ブレンディッド学習や反転授業の導入、インストラクショナル・デザインの手法を用いた教育効果の高いeコンテンツ教材の作成支援、さらには教育著作権の啓発など、多角的な支援が必要であると考えられる。

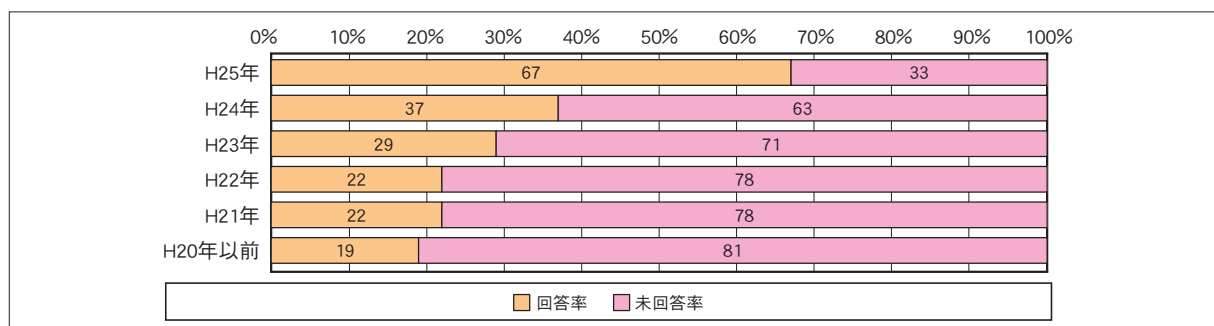
【Q1】学部学科における回答率



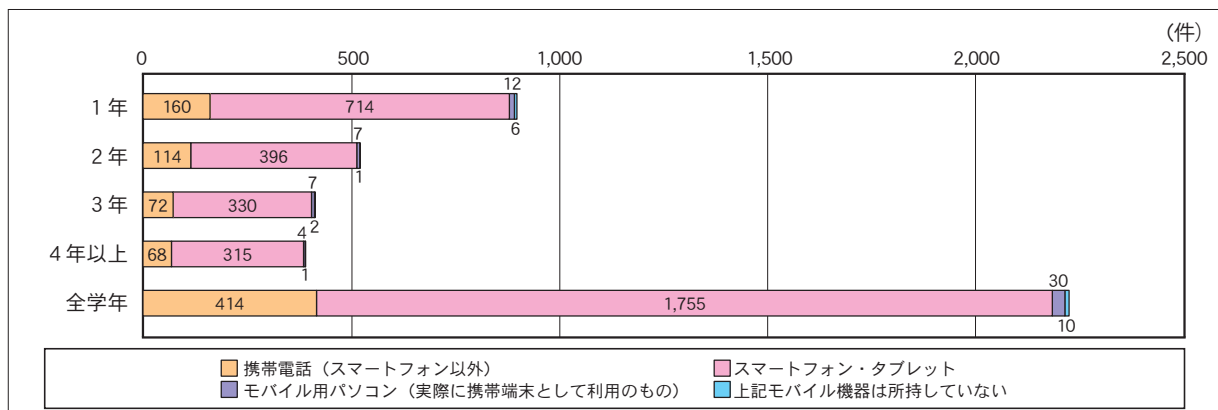
【Q2】学年における回答率



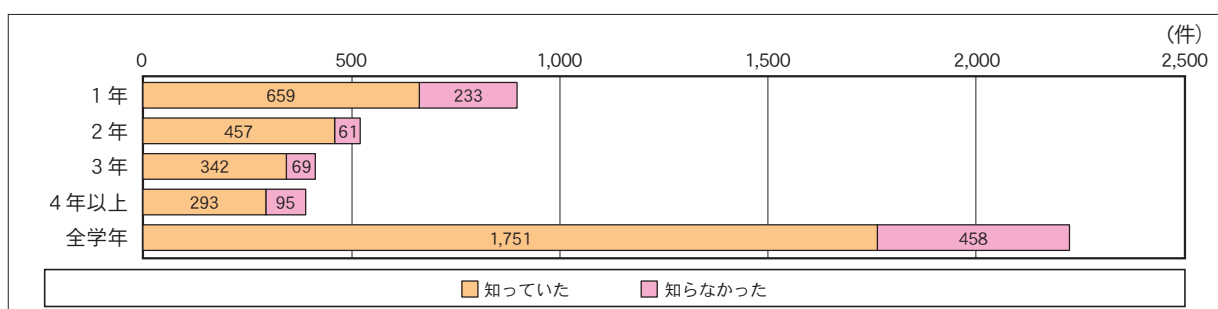
【Q3】入学年度における回答率



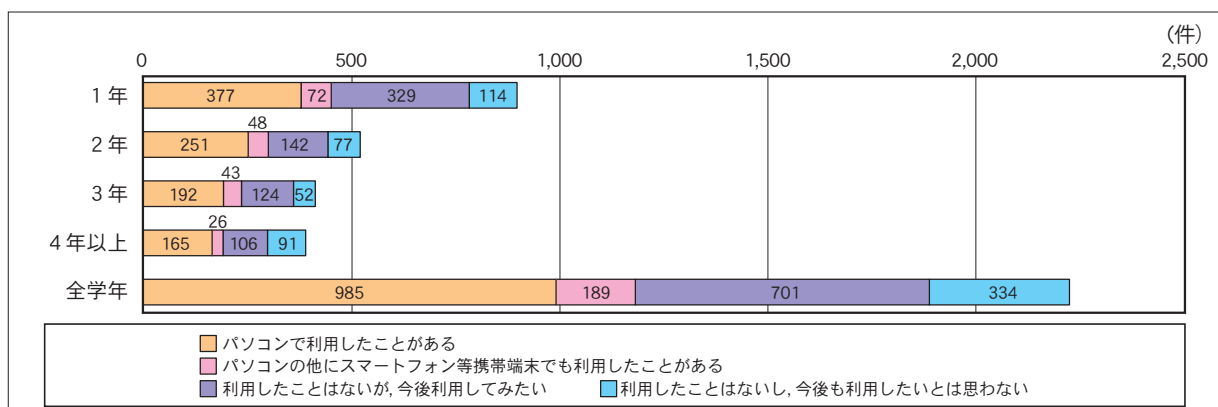
【Q4】よく利用するモバイル機器



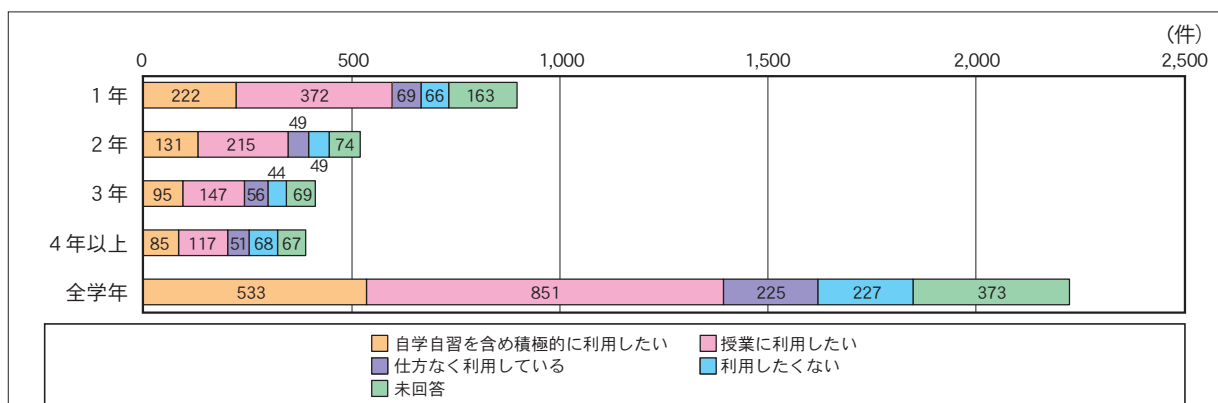
【Q5】eラーニングやLMS (学習管理システム) という言葉を知っていましたか？



【Q6】eラーニングを利用したことがありますか？

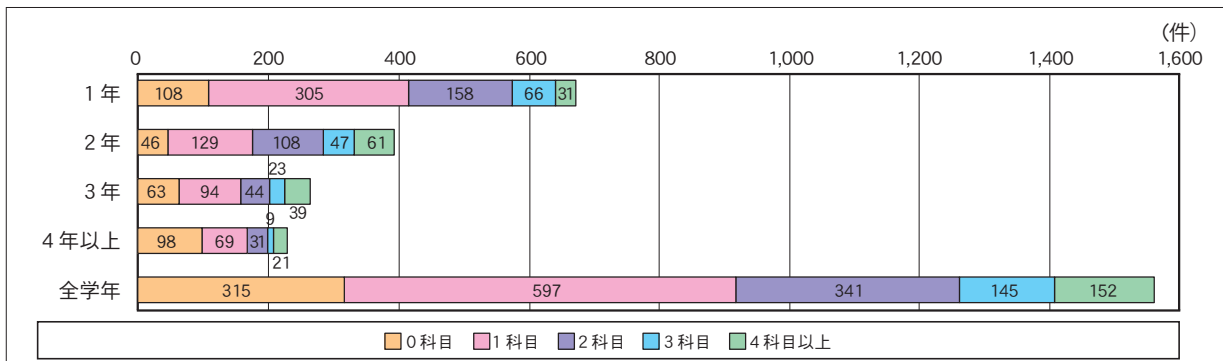


【Q7】eラーニングの利用について

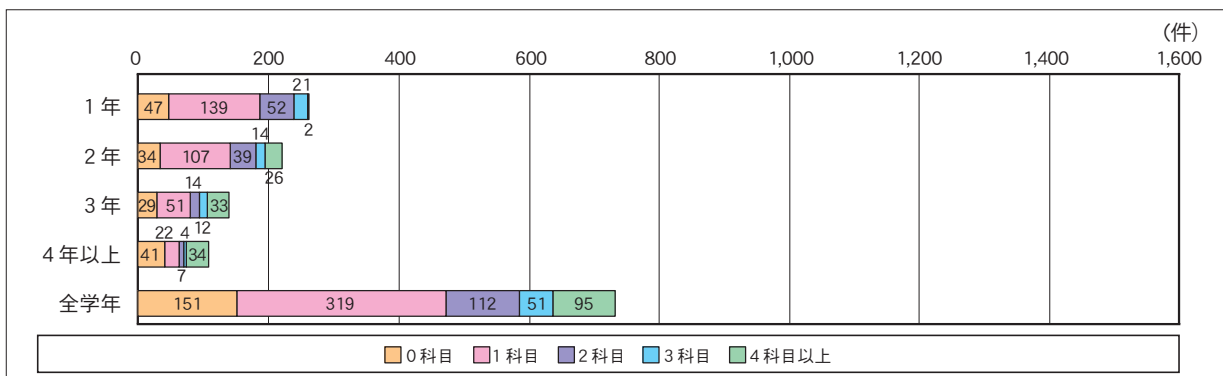


【Q8】 利用したことのある LMS の種類及び利用科目数について（複数回答）

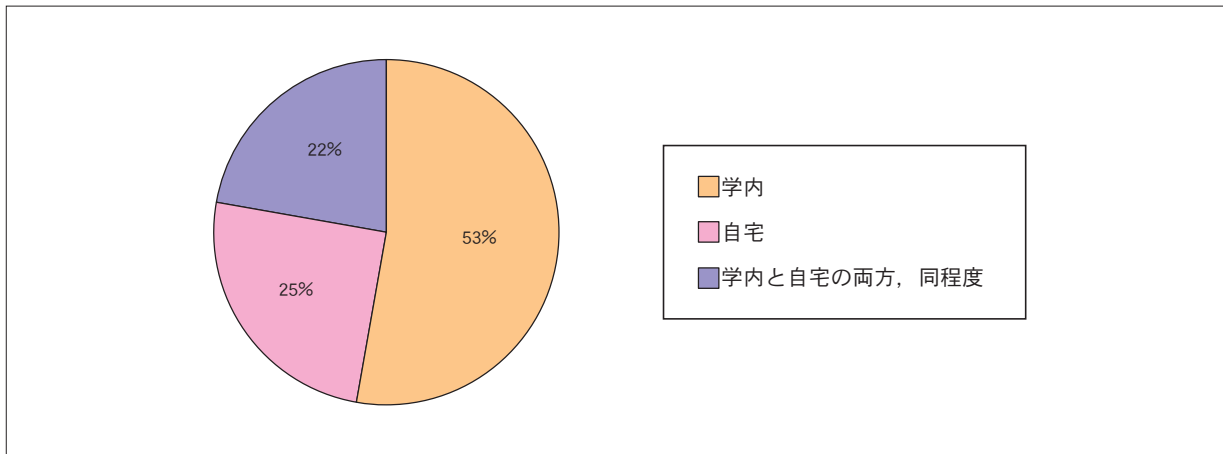
徳島大学 LMS (i-Collabo)



徳島大学 LMS (Moodle)



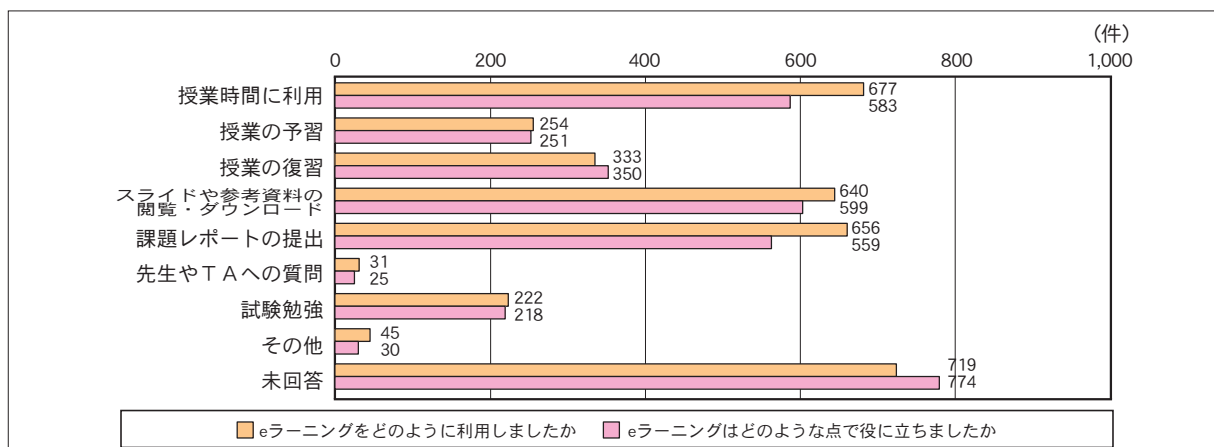
【Q9】 eラーニングを主に利用する場所はどこですか？



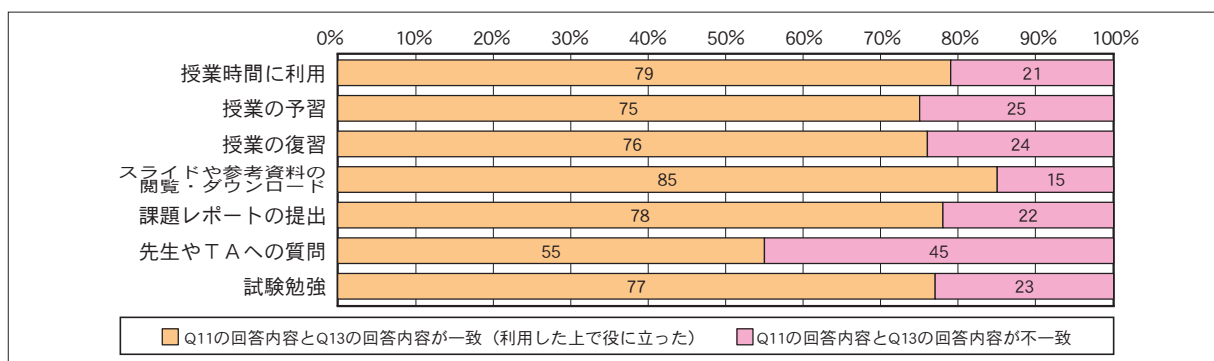
【Q10】 eラーニングをどのように利用しましたか？

【Q11】 eラーニングはどのような点で役に立ちましたか？

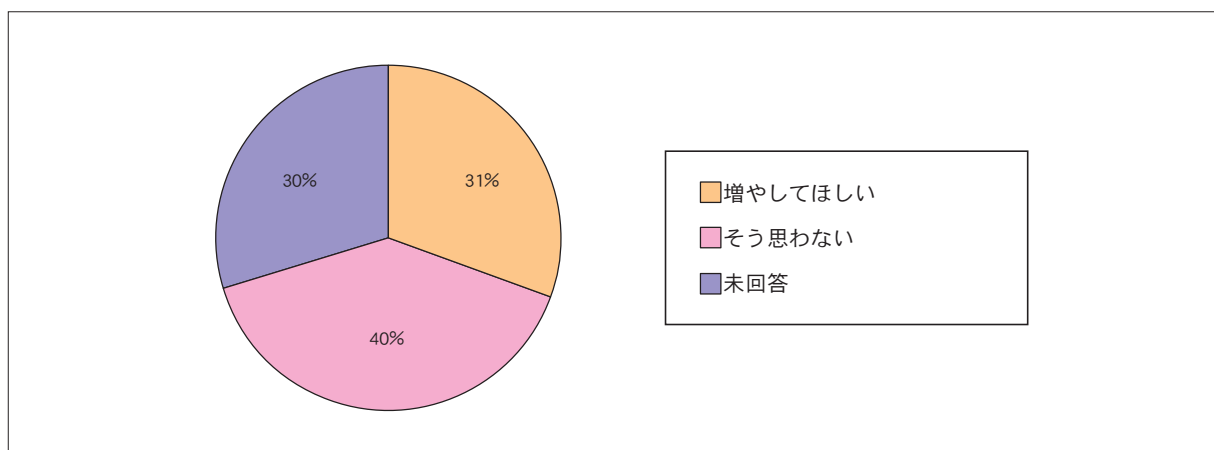
※ Q10, Q11は合算で算出する



Q10の選択肢に「利用した」と答えた学生のうち、Q11の選択肢に「役に立った」と回答した学生の割合



【Q11】 eラーニングを利用した授業をもっと増やしてほしいですか？



大学教育委員会 e コンテンツ実用化ワーキンググループ

委員長 吉 永 哲 哉
 委員 齊 藤 隆 仁
 委員 金 西 計 英
 委員 松 浦 健 二

附属図書館利用者アンケート

平成 25 年度附属図書館（本館）利用者アンケート実施報告

平成 25 年 7 月 30 日

徳島大学附属図書館

1. 趣旨

徳島大学附属図書館では、中期計画並びに各年度計画において利用環境の整備、学生用図書の本備・充実などを掲げている。これらについて具体的な達成度や効果の度合いを分析するために、図書館利用者を対象としたアンケートを実施した。このアンケートは平成 17 年度より実施しており、前回のアンケート結果と比較・検討することにより、経時的な計画達成度を分析するものである。

なお、平成 23 年度にラーニング・コモンズ検討ワーキンググループ会議において、アンケートは本館、分館でそれぞれ 4 年に一度行うことを決定している。このため、本館では前回実施（平成 21 年度）から 4 年ぶりのアンケート実施となった。

今回は、学習支援（SSS）及び学生による活動（ライブラリーワークショップ）についての項目を追加した。

2. 期間

平成 25 年 7 月 8 日（月）～平成 25 年 7 月 11 日（木）（4 日間）

※当初は 5 日間で配布する予定であったが、夜間にアルバイト学生にも配布させたため、4 日間で予定数量に達した。

3. 配布・回収状況

配布	回収	回収率
500	295	59%

※今回は館内配布のみ。滞在時間の把握がアンケート目的の一つだったため、学生の出入りの多い時間帯（授業間の休憩時間）および夜間に配布し、どんな時間帯に滞在している学生からもアンケートをとれる体制をとった。

○配布時間

10:00～10:30, 11:40～12:10, 講習会（14:30～）, 14:10～14:40,

16:10～16:30, 夜間

4. アンケート結果

(1) 利用目的（来館理由）の把握

「自習」という回答が全体の約 30% を占め最も多く、ついで「本の貸出返却」、「パソコン利用」である。ただし「本の貸出返却」（21.0%→18.9%）、「パソコン利用」（23.9%→17.1%）ともに平成 21 年度アンケートと比較して割合は低下しており、「グループ学習」（3.2%→8.0%）、「休憩」（6.3%→10.9%）の利用の割合が増している。グループ学習など図書館の利用目的が多様化してき

ていることが分かる。

(2) 来館頻度の把握

「週に1～数回程度」が約60%を占め、最も多い。平成21年度アンケートでは「毎日」「週に1～数回程度」の合計が56.8%であったが、今回は86.8%と大幅に上がっている。今回は授業やWebでもアンケート配布を行ったのに対し、今回は来館者のみに限定したことを考慮する必要があるが、利用者数が増加傾向にあることから、よりよく利用される図書館になってきていると言える。

(3) 滞在時間帯の把握

今回より新設された項目である。利用者の滞在時間を把握することにより、開館時間の延長などのニーズに対する必要性を推測することを目的としている。突出して高い割合の時間帯はなかったが、強いて言えば、午後から夕方時間帯が多く利用されている。なお、次の(4)の自由記述で寄せられた開館時間の要望と、実際の滞在時間との関連を見てみると、遅くまで開けて欲しいという学生のうち約70%の学生が「21時～22時」までの時間帯をよく利用していると回答しており、朝早く開けて欲しいという学生では、8:30から利用している学生は25%のみという結果となった。これを見ると、閉館時刻の延長に対するニーズが高いと思われる。一方、朝早く開けて欲しいという学生の要望の多くは、朝からずっと勉強したい、というのではなく、授業前に図書館でちょっと用事をすませて（調べもの、図書の返却、レポートのプリントアウト）授業に行きたい、という要望であり、滞在時間との関連によって切実なニーズかどうかを判断するのは難しいと思われる。

(4) 開館時間に対する満足度

「大変満足」「満足」をあわせると約77%となり、前回（74%）同様高い満足度を維持している。しかし、自由記述においては「満足」と回答した一部の方や、「やや不満」、「不満」と回答したほぼ全員から、早朝開館・閉館時刻の延長、土日祝日・休業期の開館時間延長を希望する意見が多数あった。

(5) 貸出冊数に対する満足度

前回（83.1%）とほぼ変わりなく満足度は高い水準（89.4%）を維持している。

(6) 貸出日数に対する満足度

前回（80.2%）とほぼ変わりなく満足度は高い水準（83.1%）を維持している。

(7) パソコン利用に対する満足度

前回（74.1%）とほぼ変わりなく満足度は高い水準（71.2%）を維持している。ただし、自由記述においては、動作、起動が遅いとの意見が複数みられた。

(8) 座席数に対する満足度

今回より新設された項目である。「大変満足」「満足」をあわせると67.5%となり、他のサービス項目と比べると若干満足度が低くなっている。自由記述では座席数を増やして欲しい、という要望が多数みられた。

(9) グループ学習スペースに対する満足度

今回より新設された項目である。「大変満足」「満足」をあわせると79%となり、高い満足度となっている。ただし自由記述では、「せまい」「暑い」「うるさい」など環境についての不満の声も寄せられた。

(10) カウンター対応に対する満足度

今回より新設された項目である。「大変満足」「満足」をあわせると91.5%となり、高い満足度となっている。ただし少数ではあるが「態度が悪い」というような指摘もあった。

(11) 蔵書（図書）に対する満足度

「大変満足」「満足」をあわせると78.6%となり、前回（66.1%）よりも満足度は10%以上高くなっている。ただし、置いてほしい図書について尋ねた自由記述では50件近い要望が出ており、さらなる資料の充実が求められていることが窺われる。

(12) 蔵書（一般雑誌）に対する満足度

今回より、雑誌を一般雑誌と学術雑誌に分けている。「大変満足」「満足」をあわせると83.8%となっており、高い満足度となっている。なお、雑誌についても40件ほど要望が寄せられているが、マンガについての要望もかなり含まれているため、要望内容を精査する必要がある。

参考までに、前回（一般、学術の区別なし）は71.6%であったことから、満足度が向上していることは明らかである。

(13) 蔵書（学術雑誌）に対する満足度

今回より、雑誌を一般雑誌と学術雑誌に分けている。「大変満足」「満足」をあわせると85.1%となっており、高い満足度となっている。

参考までに、前回（一般、学術の区別なし）は71.6%であったことから、満足度が向上していることは明らかである。

(14) 学習支援について

学習支援活動の周知、利用に関する設問については、「知っているが利用したことはない」が50.4%となっており、知ってはいてもなかなか利用しない実態が分かった。また、「知らない」も36%とやや高い割合となった。一層の周知、利用促進が必要である。行って欲しい支援活動については、「レポートの書き方」、「定期試験対策」が比較的高い割合となった。特定の分野に関する支援よりも、より基礎的な学習支援が求められていることが分かった。

(15) ライブラリー・ワークショップについて

活動について「知っている」が4.5%と大変低い割合となった。一方「知らない」が52.4%を超えている。活動があまり周知されていない実態が分かった。これまで行った活動では、実施回数が多い「私のオススメの一冊」、「ポップコンテスト」がよく知られていた。活動に対しては、15人が参加したいと答えている。

(16) 自由記述

上記アンケート項目以外での図書館に対する意見や要望としては、空調に対する要望が多く見られた。またコピー機や、入館ゲートに対しても意見が寄せられた。

平成 25 年度 附属図書館（分館）利用者アンケート 実施報告

平成 25 年 9 月 17 日

徳島大学附属図書館

1. 趣旨

徳島大学附属図書館では、中期計画及び各年度計画において利用環境の整備、学生用図書の整備・充実などを掲げている。この計画について具体的な達成度や効果の度合いを分析するために、図書館利用者を対象としたアンケートを実施した。このアンケートは平成 17 年度より実施しており、前回や前々回のアンケート結果と比較・検討することにより、経時的な計画達成度を分析するものである。

なお、利用者アンケートと学生懇談会を開催するサイクルについては平成 23 年度のラーニング・コモンズ検討WG会議において、「本館、分館でそれぞれ 4 年に一度行う」ということを決定しており、今年度は本館のアンケート実施年となっているが、学生のニーズにあった学生用図書の整備・充実を行うため、蔵本分館においてもアンケートを実施した。

2. 期間

平成 25 年 9 月 2 日（月）～平成 25 年 9 月 6 日（金）（5 日間）

3. 配付・回収

配布	回収	回収率
500	286	57%

4. アンケート結果

(1) 所属の把握

徳島大学生の比率は、平成 21 年度（10 月実施 93.8%）平成 22 年度（10 月実施 92.2%）とほぼ同じ割合となっている。アンケートの実施日が 9 月第 1 週のため、学外者の割合が若干多くなっている。（3.4%→1.6%→5.9%）。

(2) 利用目的の把握

「自習」という回答が全体の約 33.8% を占め最も多く、次いで「パソコン利用」、「本の貸出返却」である。「自習」（29.6%→30.3%→33.8%）、「グループ学習」（3.2%→7.5%→10%）は平成 21 年度、平成 22 年度アンケートと比較して割合が増加しており、「パソコン利用」（23.6%→19.2%→19.5%）、「本の貸出返却」（21%→28.8%→18.3%）は減少している。改修後学習環境が整備され、学習目的で図書館を利用する者が増えたことが分かる。

(3) 来館頻度の把握

「週に 1～数回程度」が 57.9% を占め最も多い。「ほぼ毎日」は 21.8% あり、合計で約 80%（平成 21 年度 56.8%、平成 22 年度 48.8%）となり、来館者は日常的に図書館を利用していることが分かる。

(4) 滞在時間帯の把握【新規】

「17:50～19:30」(15.8%)がもっとも多く、次いで「19:30～21:00」(15.6%)となっている。21:15～24:00の時間外特別利用時間は19.3%となっている。

(5) サービス・設備に対する満足度

・開館時間に対する満足度

「大変満足」「満足」をあわせると67.5%となっている。「不満」「やや不満」は、約30%あり、自由記述は、開館時間の延長についての要望である。

・貸出冊数に対する満足度

前回(83.1%平成21年度本分館合算)とほぼ変わりなく満足度は高い水準を維持しているが、本館(89.4%平成25年度)と比較すると10%程度低くなっている。

・貸出日数に対する満足度

前回(80.2%)とほぼ変わりなく満足度は高い水準(84.3%)を維持している。

・パソコン利用に対する満足度

「大変満足」と「満足」をあわせると57%である。平成21年度(74.1%)と比べると満足度は低下している。利用者用パソコンは平成23年度に更新し、処理能力などを向上させている。また、台数も10台増設しているが、レポート作成のための利用が増加していることやコンテンツの利用が進んでいるためと考えられる。

・座席数に対する満足度【新規】

「大変満足」「満足」をあわせると58.4%となり、他のサービス項目と比べると満足度が低くなっている。改修後座席数を100席増設したが、利用者数も増えており、自由記述では、時間外特別利用時の北学習室の利用についての要望が多数みられた。

・グループ学習スペースに対する満足度【新規】

「大変満足」「満足」をあわせると80.4%となり、高い満足度となっている。ただし、自由記述では、部屋の増設やビッグパッドの増設などがあつた。

・カウンター対応に対する満足度【新規】

「大変満足」「満足」をあわせると94.4%となり、高い満足度となっている。ただし、少数ではあるが「態度が悪い」というような指摘もあつた。

(6) 蔵書(図書・雑誌)に対する満足度

・図書に対する満足度

「大変満足」「満足」をあわせると56.3%となっており、図書についての満足度は前回(66.1%)よりも低くなっている。新しい情報や専門書が必要な生命科学分野の蔵書が十分に整備されていないことへの要望が自由記述では多く見られた。選書については、学生用図書予算の範囲内でブックハンティング及び学生用図書購入希望など、利用者の要望を反映する機会を設けているが、図書単価も他の分野に比べ高額なものが多くなるため、継続的に蔵書を整備し、学習支援を行う

ための方策が必要だと考える。

- ・一般雑誌に対する満足度

「大変満足」「満足」をあわせると71.7%となり、前回（一般，学術の区分なし71.6%）とほぼ同じ満足度となっている。

- ・一般雑誌に対する満足度

「大変満足」「満足」をあわせると74.4%となり、前回（一般，学術の区分なし71.6%）とほぼ同じ満足度となっている。

（7）学習支援内容の把握【新規】

無回答が29.9%と一番高かった。有益な学習支援を実施し、要望に答える姿勢を示していく必要がある。「文献の探し方」（14.7%）「TOEIC・TOEFL 対策」（13.6%）「診断と治療情報収集」（12.5%）「プレゼン資料作成法」（11.7%）「レポートの書き方」（10.1%）となっており、学科学年個人別の要望に沿った学習支援が求められていることが分かった。

（8）新たに始めたサービスに対する認知度と満足度【新規】

- ・テーマ展示に対する認知度

「知っている」は32.5%である。そのうちの「大変満足」「満足」をあわせると87.1%である。

- ・アプリの紹介に対する認知度と満足度【新規】

「知っている」は23.8%である。そのうちの「大変満足」「満足」をあわせると76.1%である。

- ・タブレット端末・スマートフォンなどの利用状況について

「持っている」が75.2%であった。かなり普及しているので新たなサービスについて検討したい。

- ・蔵本分館日誌（ブログ）に対する認知度と満足度

「知っている」は19.2%である。そのうちの「大変満足」「満足」をあわせると80.4%である。展示、ブログとも、「知っている」人の満足度が高いことから認知度をあげると満足度の高いサービスが提供できると考える。

- ・どんな記事があれば、読みたいか

「医療系アプリの紹介」30.3%が高く、次いで「学習に役立つ Web ページの紹介」29.5%となっている。

（9）自由記述

上記アンケート項目以外での図書館に対する意見や要望としては、空調に対する要望が多く見られた。

また、スキャナやコピー機についての意見が寄せられた。

みなさまの声

慶島大学国際関係学部国際文化学
2019年9月

国際文化学部をご利用いただきありがとうございます。今後のサービス向上の参考にさせていただきます。ご意見・ご感想をお聞かせください。(本アンケートにはお答えできなかった内容については、国際文化学部の改善等の参考にさせていただきます。ご意見・ご感想以外のことに利用したさせていただきます。)

- 1 あなたの所属についてお伺いします**
 慶島大生 学部生・院生 その他 () → 所属: 文 商 法 経済 工学 農 医 歯 薬 獣 歯 看護 その他 ()
 学部生
- 2 英語の主な目的は何ですか (複数回答可)**
 大学の入学試験 米・英語・新語の勉強・検定 学習 パソコン利用 グループ学習 DVD 等視聴 休養 その他 () (具体的に)
- 3 図書館を利用する頻度ほどのくちらですか**
 ほぼ毎日 週1回程度 週2回程度 週3回程度 週4回程度 週5回程度 週6回程度 毎日1～2回程度 毎日1～2回程度 毎日1～2回程度
- 4 図書館を利用するおおよその時間帯をお答えください (複数回答可)**
 8:30～10:10 10:10～11:55 11:55～12:50 12:50～14:20 14:20～16:05
 16:05～17:50 17:50～19:30 19:30～21:00 21:15～23:00 23:00～24:00
- 5 サービス・設備について**
 ①: 閉館時間 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ②: 貸出冊数 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ③: 貸出日数 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ④: パソコン 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ⑤: 蔵書数 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ⑥: グループ学習スペース 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ⑦: カウンター対応 満足 やや不満 不満 (理由:)
- 6 資料の品揃えについて**
 ①: 図書 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ②: 一般雑誌 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ③: 学術雑誌 満足 やや不満 不満 (理由:)
 ④: 図書館にどんな本・雑誌を置いてほしいですか? できるだけ具体的にお願いします。
()
- 7 学習支援について**
 ①: 蔵本分館で、行ってほしい学習支援内容は何ですか (複数回答可)
 レポートの書き方 文献の探し方 TOEIC・TOEFL対策 講師と書籍情報収集 (Up to Date 本等)
 プロゼンゼン資料集 学習関連機器の整備 (具体的に)
 その他 (具体的に)



ご意見も歓迎

8 図書館の活動について

- ①: 蔵本分館1階で開催しているテーマ展示を知っていますか?** 知っています 知りません
- ②: テーマ展示の内容 (①で「知っている」と回答した方にお聞きします)**
 大変満足 満足 やや不満 不満 (理由:)
- ③: iPad と QRコードで表示している「アプリの紹介」を知っていますか?** 知っています 知りません
- ④: アプリ紹介の内容 (③で「知っている」と回答した方にお聞きします)**
 大変満足 満足 やや不満 不満 (理由:)
- ⑤: テーマ展示やアプリ紹介で、取り上げてほしい分野がありましたら、ご提案ください。**
 (できるだけ具体的に:)
- ⑥: 携帯情報端末を用いたサービスの検討材料とさせていただきますので、タブレット端末・スマートフォンなどの利用状況についてお答えください。**
 持っている 持っていない 持っていないが今後持たしたい 持っていないが今後持つ予定はない 未定
- ⑦: タブレット端末・スマートフォンを使って受けたサービスがありましたら、ご提案ください。** (⑥で「持っている」「持っているが今後持たない」と回答した方にお聞きします)
 (できるだけ具体的に:)
- ⑧: 蔵本分館日誌 (ブログ) を知っていますか?** 知っています 知りません

(※ <http://tokushuhankan.blogspot.jp/> 図書館ホームページのバナーからもアクセスできます)
- ⑨: 蔵本分館日誌 (ブログ) の内容 (⑧で「知っている」と回答した方にお聞きします)**
 大変満足 満足 やや不満 不満 (理由:)
- ⑩: どんな記事があれば、読みたいですか (複数回答可)。**
 関係系 iPad, iPhone アプリの紹介 学習に役立つwebページの紹介 データベース検索のコツ
 文献管理ソフトなどの、便利なソフトウェアの紹介 ご意見箱への回答 図書館からのお知らせ
 その他 (できるだけ具体的に:)



【最後に】

- このアンケートに関してご意見等への回答をお望みされたいですか? 希望する 希望しない
 個人の学習履歴・メールアドレス等個人情報を希望されますか? 希望する 希望しない
- ※慶島大学図書館「メールマガジン(予定)」とは・・・
 図書館が毎月発行している「メールマガジン」です。図書館からのお知らせ、イベント情報、図書館の最新情報など最新情報をお届けいたします。(http://www.lib.tokushim-u.ac.jp/magac/)
- 途中でアンケートの回答を「希望する」に書き換えた方は、下記にご記入ください。記入いただいた内容は本アンケートに反映する連絡にのみ使用いたします。
- 「何だか」を希望の場合は、下記にメールアドレスのみ記載をお願いします。

お名前: _____
 ご連絡先 (Eメール): _____
 メールアドレス: _____ (敬称/PC)

※メールでの返信をご希望の方は、パソコンからのメールが受信できる設定にしてくださいませますようお願いいたします。

貴重なご意見ありがとうございました。